クローラトラクタ

取扱説明書

GCR 1350



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはクローラトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次の通り構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

- **安全な作業をするための注意事項は？** — **安全作業のために** 安全作業説明編
  安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。
- **使用前に知っておかなければならないことは？** — **ご使用まえに** 1
  機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。
- **各部の名称を知るには？** — **各部の名称** 5
  機械の主な名称について説明しています。
- **トラクタを動かすには？** — **運転のしかた** 7
  運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
  運転操作のしかた：エンジンの始動・発進・走行・停止のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた，坂道での運転のしかた等を説明しています。
- **ほ場作業を行うには？** — **作業のしかた** 25
  作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。
- **MACビジョンを使用するには？** — **MACビジョンの取扱い** 47
  MACビジョンの取扱いについて説明しています。
- **キャビンを使用するには？** — **キャビンの取扱い** 54
  キャビンの取扱いについて説明しています。
- **機械を長もちさせるには？** — **手入れのしかた** 63
  機械をつねに正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
- **機械を長期格納するときは？** — **長期格納のしかた** 98
  機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。
- **故障かなと思ったら？** — **不調時の処置** 100
  異常を感じたらすぐ原因を調べ処置してください。
- **主要諸元，主な消耗部品は？** — **付　表** 106

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．運転免許…… 4
3．公道を走行する時…… 4

各部の名称 ……5

1．運転装置の名称…… 5
1．スイッチ，計器関係…… 5
2．レバー，ペダル，シート関係…… 6

運転のしかた ……7

1．運転まえの点検…… 7
1．点検項目…… 7
2．運転まえの準備…… 8
3．灯火類・ホーンの操作……11
2．運転操作のしかた……12
1．エンジンの始動と停止……12
2．発進・走行のしかた……16
3．停車・駐車のしかた……19
4．自動車への積込み・積降ろし……20
5．坂道での運転のしかた……22
6．ほ場への出入りのしかた……23
7．ゴムクローラの取扱い……24

作業のしかた ……25

1．ほ場作業のしかた……25
1．ＰＴＯの取扱い……25
2．ポジションコントロールレバーの取扱い…27
3．深さ自動の取扱い……31
4．傾き自動の取扱い……34
5．ドラフト自動の取扱い……37
6．作業に適した速度の選びかた……38
7．エンジン回転設定機能……39
2．作業に必要な装置の使い方……42
1．３点リンクの取付け寸法の設定のしかた…42
2．ドローバー（オプション）……43
3．外部油圧取り出し装置の取扱い……44
4．作業機の取扱い……45
5．作業機用電源の取扱い……46
6．バンパ及びバンパウエイト（オプション）…46

MACビジョンの取扱い ……47

1．操作部名称……47
2．MACビジョン表示 ……48
3．各種設定のしかた……50
4．MACビジョンの注意報知機能 ……53

キャビンの取扱い ……54

1．各部の取扱い……54
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……54
2．スイッチの取扱い……56
1．灯火スイッチの取扱い……56
2．各種スイッチの取扱い……57
3．室内装備の取扱い……59
1．灰皿……59
2．カップホルダ……59
3．エアコン……60

手入れのしかた ……63

1．定期点検整備表……63
2．給油・給脂・給水のしかた……65
1．給油・給脂・給水表……65
2．ボンネットの開閉……66
3．エンジンオイルの点検と交換……67
4．エンジンオイルフィルタの交換……68
5．燃料の補給……68
6．セコンダリ燃料フィルタの交換……69
7．エア抜き要領……70
8．プライマリ燃料フィルタの水抜き要領…70
9．プライマリ燃料フィルタの交換……71
10．冷却水の保守管理……72
11．走行モータオイルの点検と交換……73

12. ミッションオイルの点検と交換……74
13. トランスミッションオイルフィルタの交換…75
14. 油圧作動油の点検と交換……75
15. ラバーカップリングの交換……76
16. 油圧作動油フィルタの交換……77
17. HSTオイルフィルタの交換……77
18. 転輪（ローラ）の給油……78
19. アイドラの給油……78
20. グリスガンによる給脂……79
21. ジョイントシャフトの給脂……79
22. 3点リンクの給脂……80
23. 転輪（ローラ）部の給脂……80
24. ウォッシャ液の補給……80
25. ヒンジ部の注油……81
3．各部の掃除のしかた……81
1．エアクリーナの掃除……81
2．プレクリーナの掃除……82
3．ラジエータスクリーン・コンデンサフィンの掃除…82
4．インタークーラフィン･オイルクーラーの掃除…83
5．エアコンの掃除……84
4．各部の点検と調整のしかた……86
1．ファンベルトの点検・調整……86
2．コンプレッサベルトの点検・調整……86
3．ゴムクローラの点検……87
4．ハンドル，走行レバーの点検……89
5．ホース類の点検……89
6．電気配線の点検と掃除……90
7．ヒューズの交換……91
8．バッテリの点検と充電……93
9．冷媒（ガス）……97
長期格納のしかた ……98
1．機械の掃除・洗浄・格納……98
2．格納中の手入れ……99
3．再使用にあたって……99
不調時の処置 ……100
1．エンジン部…… 100
1．始動しない，または始動困難…… 100
2．エンジン出力不足およびエンジン自然停止… 101
2．走行・運転操作部…… 102
1．走らない，ブレーキがきかない…… 102
3．油圧部…… 103
1．油圧関係…… 103
4．電気・自動制御部…… 104
1．電気関係…… 104
2．自動制御関係…… 104
5．キャビン部…… 105
1．キャビン関係…… 105
付表 ……106
1．主要諸元…… 106
2．主な消耗部品…… 107
1．エンジン関係…… 107
2．エアクリーナ・油圧ライン関係…… 107
3．電装関係…… 108
3．アタッチメント一覧表…… 109
4．潤滑油について…… 110
1．エンジンオイルについて…… 110
2．ミッション・オイルトについて …… 110
3．油圧作動油について…… 110
5．トラクタ関連商品…… 111

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠作業前の点検，整備，掃除をする時は……（安-6）

⚠エンジンを始動する時は……（安-11）

⚠作業機の装着および作業をする時は……（安-13）

⚠走行運転をする時は……（安-17）

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……（安-19）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-21）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-22）

⚠１日の作業が終わったら……（安-23）

⚠長期格納する時は……（安-24）

2．表示ラベルについて……（安-26）

安全作業のために

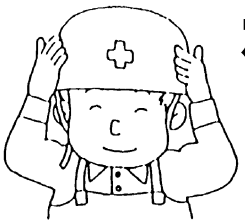
1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。
・なお，この項で説明している安全説明は**クローラトラクタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

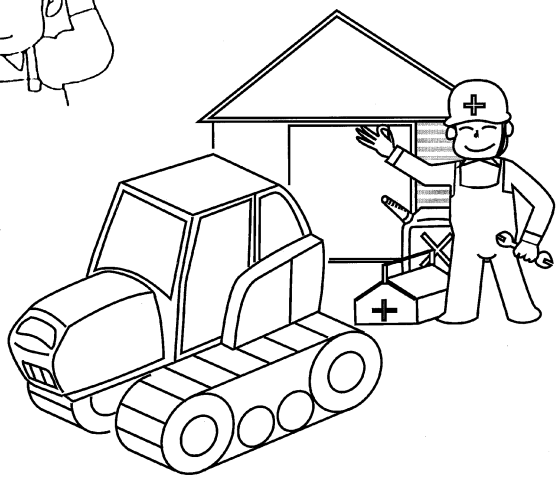
⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。 

安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

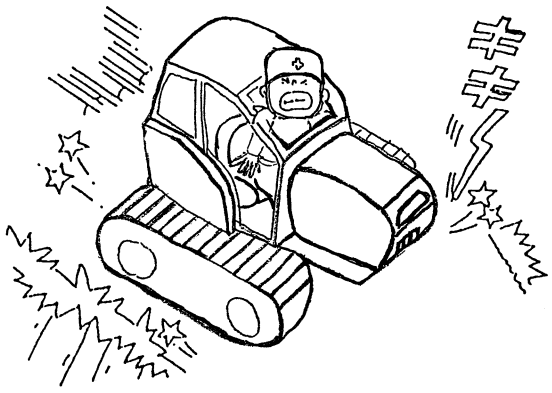


始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にし，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースの点検
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えている時に行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合の点検
- ハンドル（走行レバー）の遊びやガタが大きくないか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときはリフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》の位置にして作業機の下に固定脚を置く
- トラクタを移動して作業機を着脱する時はトラクタと作業機の間に立たない
- 機械は改造しない

エンジン始動

- すべてのカバーを取付ける
- トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキスイッチを《入》にし，シートベルトをする
- 主変速レバー（走行レバー）を，「《N》（中立）」にし，緊急停止ブレーキペダルを踏込んで，PTO切替スイッチを《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする



走行・運転

- 駐車ブレーキスイッチを《切》にする
- PTO切替スイッチを《切》にする
- 傾き自動スイッチ，深さ自動スイッチの《切》を確認する
- クローラトラクタや作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲をたしかめる
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

道路（公道）走行

- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 公道走行する時は作業機を装着しない
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける（前照灯をつける。作業灯は消す。）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない
- シートを正面に固定する

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

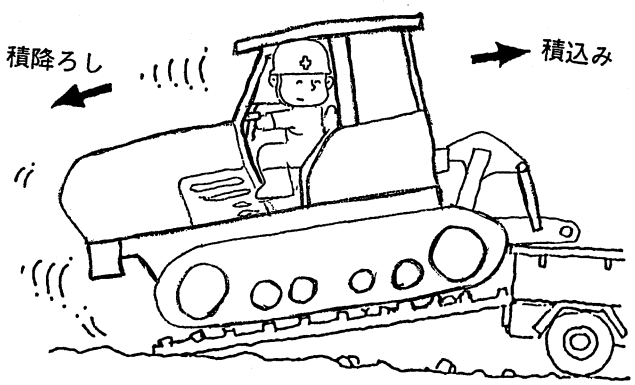
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避ける時，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げて走行する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で主変速レバー（走行レバー）を「《N》（中立）」にし，駐車ブレーキスイッチを《入》にし，PTO切替スイッチを《切》にして作業機を降ろしてからエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない
  （やむをえず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れる時はキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO切替スイッチを《切》にする
- 積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上では変速操作，進路変更をしない

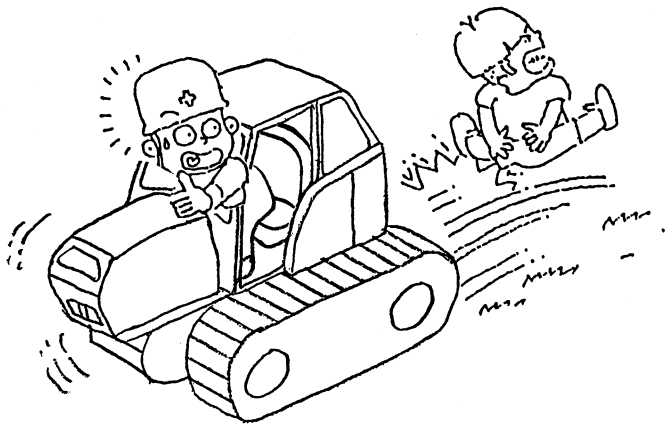


ほ場作業　ほ場の出入り

- PTO切替スイッチを《切》にする
- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

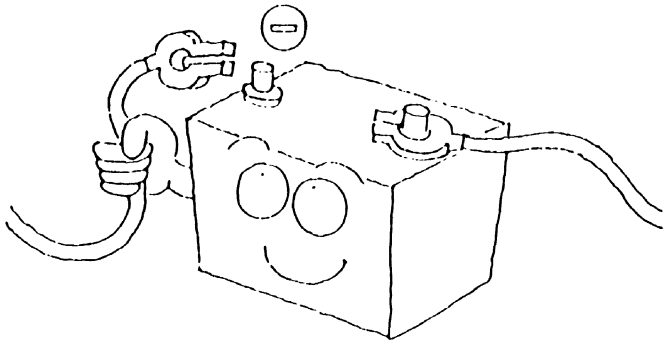
ほ場での作業

- 子供等，人をそばに近づけない。２人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- けん引作業は純正ドローバ以外は使用しない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする



作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にしてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時はリフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



終業・格納　１日の作業が終わったら

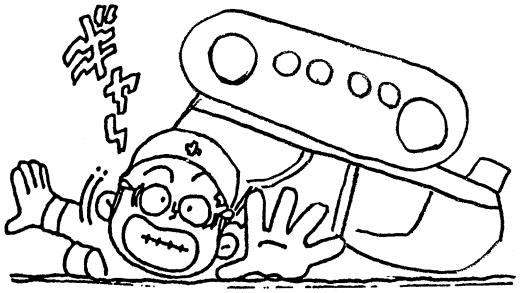
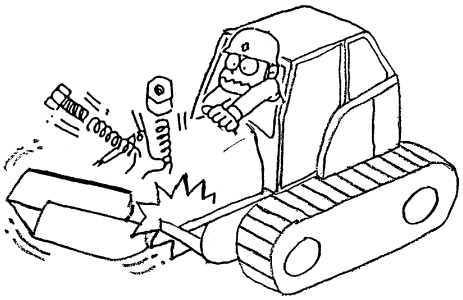
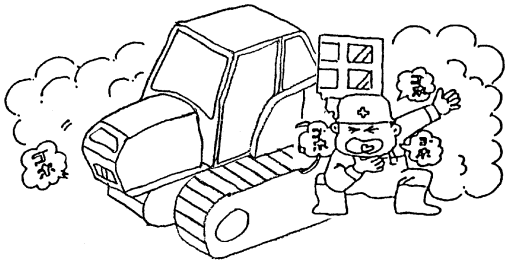
- 平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にし，作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン，バッテリ，燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ，ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

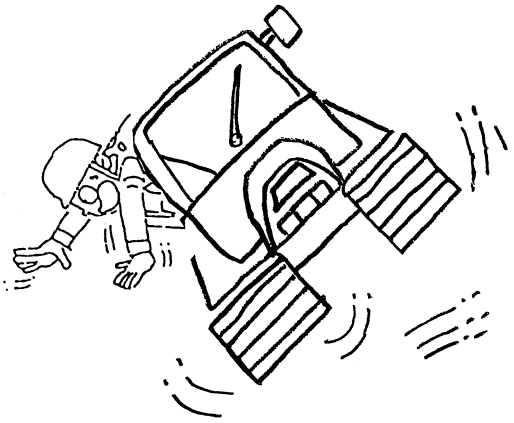
長期格納

- 作業機は外すか，降ろしておく
- 燃料は満タンにしておく
- バッテリのアースコードを外すか，バッテリを取外す
- クローラの前後に歯止めをする

⚠作業前の一般的な注意事項

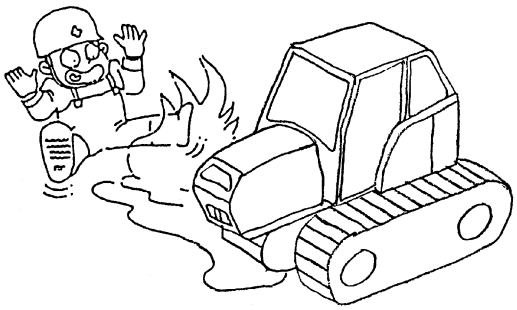
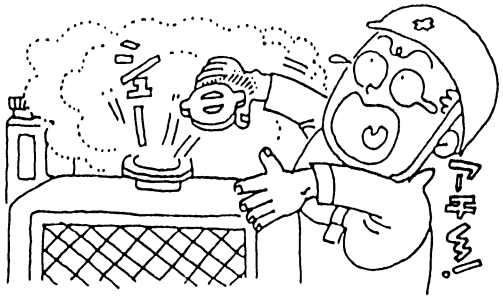
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

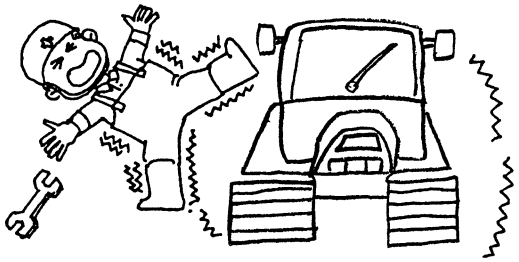
⚠警告 ◆機械はほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。
⚠警告 ◆クローラトラクタを使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

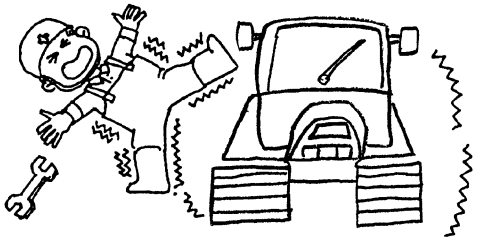
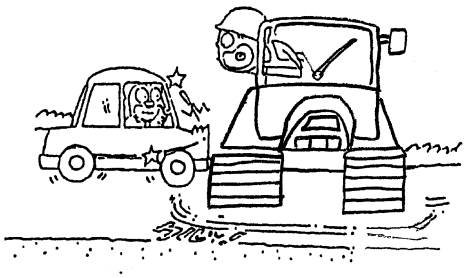
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆クローラトラクタでの傷害事故の大半は転落・転倒事故です。安全装備を確認して運転してください。 ◆通常はヘルメット，シートベルトを着用してください。 		転落や転倒した時は死亡または傷害事故になることがあります。 
⚠警告 ◆機械に人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ● クローラトラクタや作業機の上に人や物を乗せない。 ● 子供等，人を近づけない。		思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆クローラトラクタへの飛び乗り，飛び降りはしないでください。		転落や転倒して，傷害事故を引起こすことがあります。 

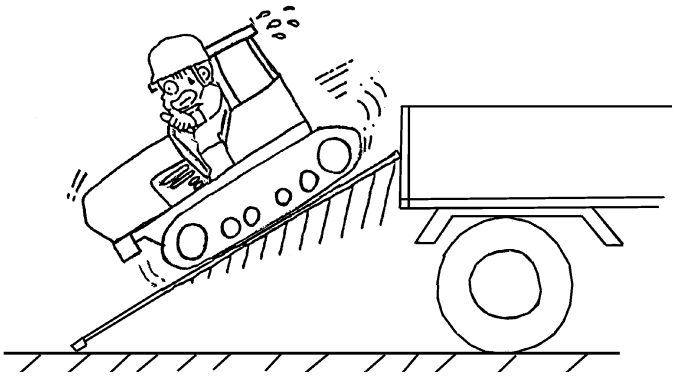
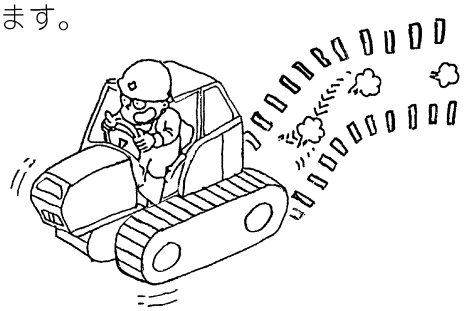
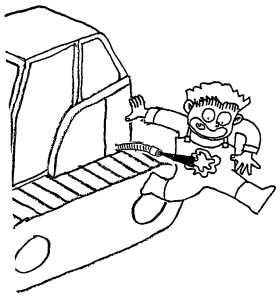
⚠作業前の点検・整備・掃除をする時は……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

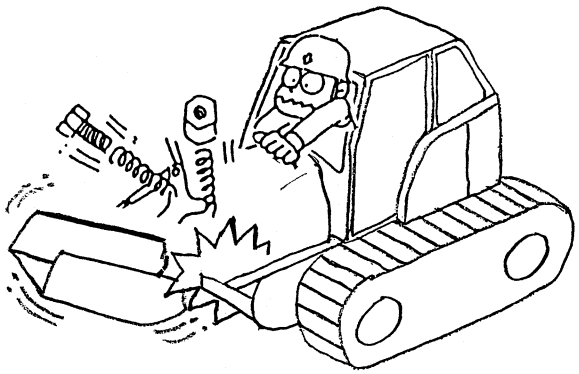
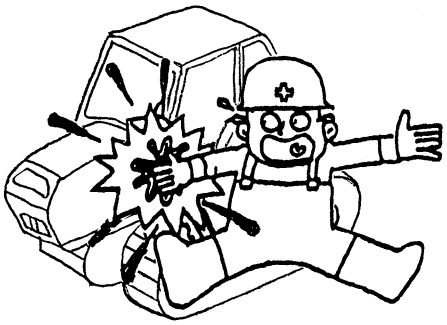
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にし，エンジンを停止させクローラに歯止めをしてから行なってください。 ●主変速レバー（走行レバー）が「《N》(中立)」になっていることを確認する。 ●PTO切替スイッチが《切》になっていることを確認する。	機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆給油，注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。 ●もれている場合は交換する。 ●燃料ホースは 2 年ごとに交換する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドをすることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子から，コードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ● バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ● ㊉㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す前にバッテリ㊀側のコードをバッテリ端子から外す。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 

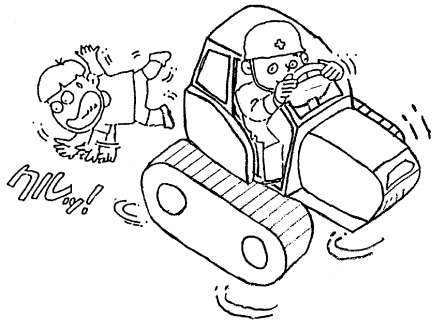
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ブレーキの点検をしてください。 ◆点検するときは安全な広い場所で行なってください。 ●緊急停止ブレーキペダル，駐車ブレーキスイッチのきき具合は良いか確認する。 ●傾斜地で機械が確実に停止するか確認する。 ●走行して確認するときは低速で行なう。	走行緊急時，又はアユミ・坂道等の傾斜地で機械が止まらず，事故を引き起こす原因となります。 
⚠警告 ◆ハンドル（走行レバー）の遊びやガタが大きくないか確認してください。	機械の動きと旋回操作が合わず、事故を引き起こす原因となります。 
⚠警告 ◆高圧噴油に触れないでください。 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 

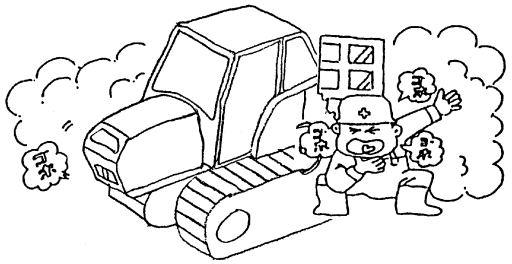
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ◆トラクタには，点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。 	整備不良で事故を引起こすおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

⚠エンジンを始動する時は……

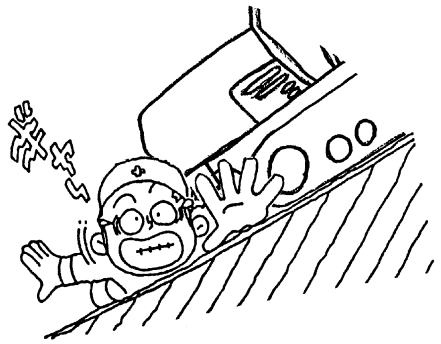
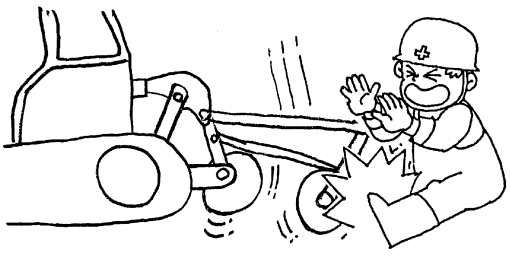
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

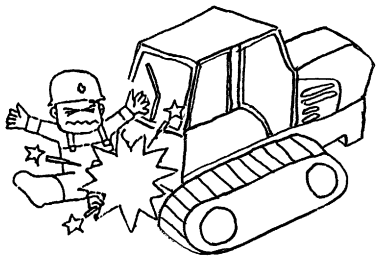
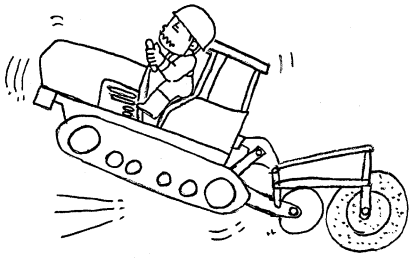
⚠警告 ◆始動する前に，周囲を確認し，クローラトラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。	子供等，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆主変速レバー（走行レバー）を「《N》（中立）」にしてください。 ● 主変速レバー（走行レバー）が「《N》（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。 ● PTO切替スイッチを《切》にする。 ● 駐車ブレーキスイッチを《入》にする。 ● 緊急停止ブレーキペダルを踏込む。	機械が動きだし事故の原因となることがあります。 

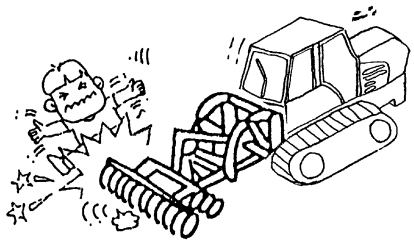
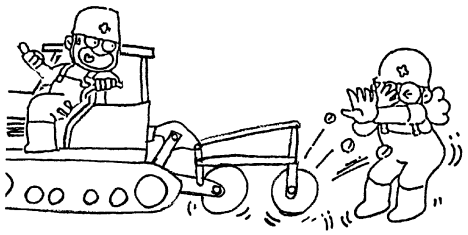
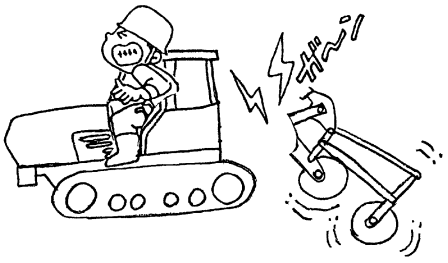
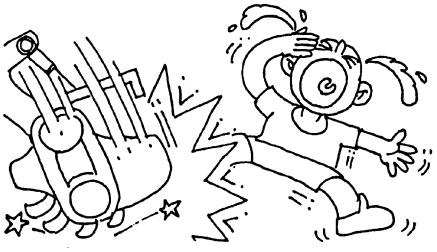
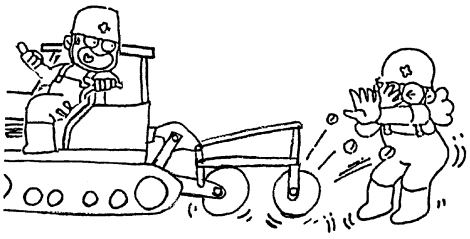
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速レバー（走行レバー）を「《N》(中立)」にし，PTO変速レバーを《中立》の位置にし，平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にして行なってください。 ●PTO切替スイッチを《切》にする。	クローラトラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

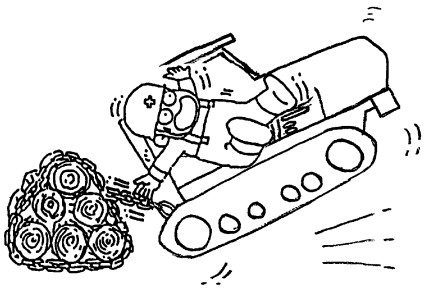
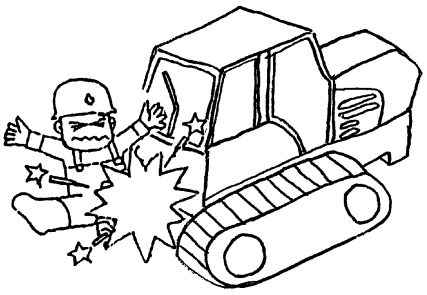
⚠作業機の装着および作業をする時は……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

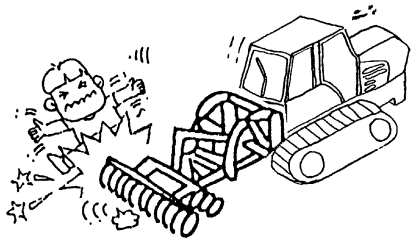
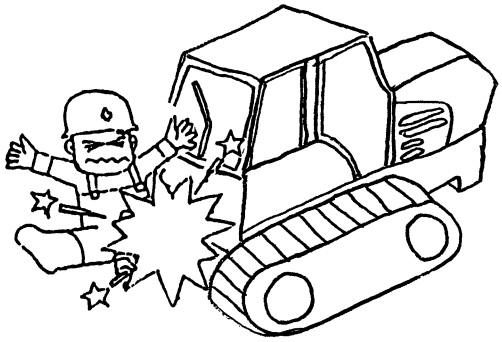
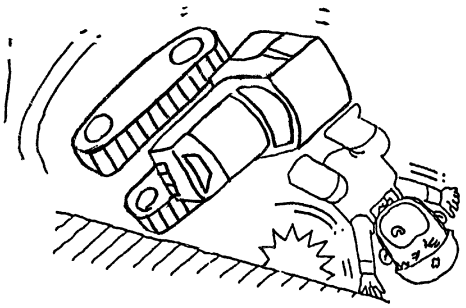
⚠警告 ◆作業機を着脱する前に，平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にしてエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。 ●着脱は平坦な場所で，地盤のしっかりしたところで行う。 ●夜間は適切な照明をする。	クローラトラクタが動き出したりして，思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆クローラトラクタに適合した作業機を装着してください。 ●作業機の取扱説明書を読む。 ●吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。 ●左右のチェックチェンを調整し，作業機が振れてもクローラに触れないようにする。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業機の着脱で2人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。 ◆スーパーヒッチで作業機を着脱する時は周囲を確認しクローラトラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。 ●クローラトラクタを移動して作業機を着脱する時は，クローラトラクタと作業機の間に進入しない。 ●装着は手順通り正しく行う。 ●確実に装着して，ピンに抜け止めピンをする。 ●作業者以外の人を近づけない。 ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。	機械にはさまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  作業機を上げたままで調整を行うと，トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり，傷害事故を引起こすことがあります。 

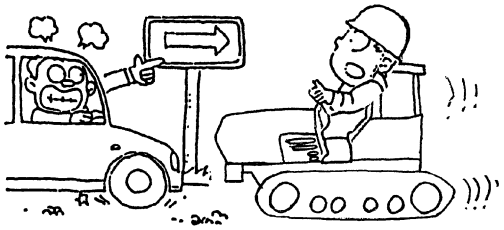
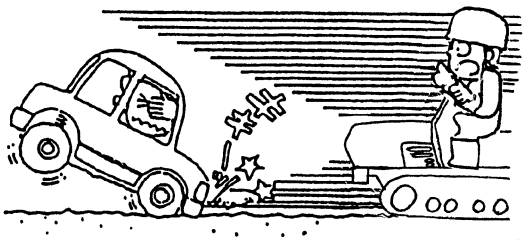
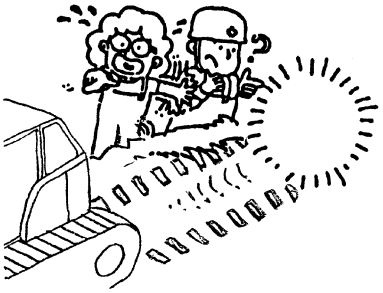
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。 ●安全カバーの回り止めをする。 ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。 ●ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。 ●ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。  作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆各部のボルト，ナット，ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。 ●ボルト，ナット類，耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば，直ちに締める。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆重い作業機を装着した時は，クローラトラクタのフロントに，バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。	クローラトラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆フロントに作業機を装着して作業をする時は，後方にウエイト又は他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。 ●ウエイトがわりに人や物を乗せない。フロント側作業機に見合ったバランスウエイトを装着する。	バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業機の下へもぐったり，足を踏込んだりしないでください。		何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆点検，調整時，爪交換時などに外したカバー類は，すべて元の位置に正しく装着してください。 ● ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。		機械に巻込まれたり，泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。		作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。
⚠警告 ◆作業機を上げて点検する時や，草・ワラの巻付を除去する時は，リフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ，作業機が降りないことを確認してください。 ● 駐車ブレーキスイッチを《入》にして，エンジンを停止し，PTO切替スイッチを《切》にする。 ● ロータリの耕うん爪を交換する場合は、メガネレンチを使用して正しい姿勢で締め付けてください。		何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 確実に締付けないと，作業中に爪が抜けてとび，傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆けん引作業は純正ドローバを使用してください。 ● けん引する時は，クローラトラクタが後方に転倒しないようにゆっくりスタートする。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆公道を走行する時は，作業機を装着しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 （作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。） 
⚠注意 ◆PTO軸を使用しない時は，PTOキャップを取付けてください。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

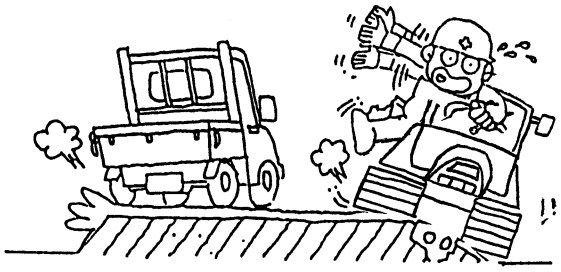
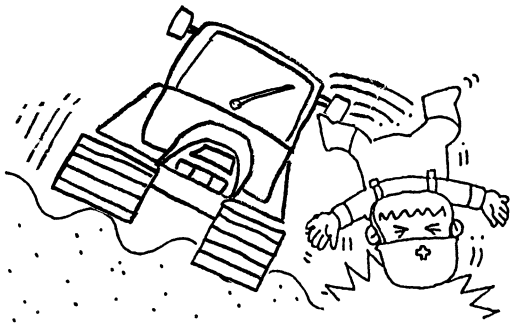
⚠走行運転をする時は……

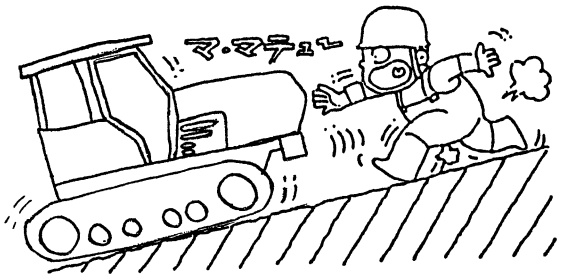
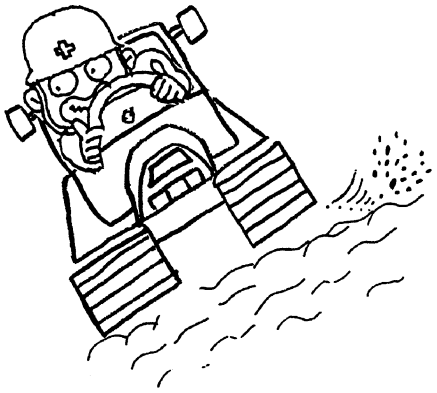
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供等，人がクローラトラクタ及び作業機に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進する。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆PTO切替スイッチの《切》を確認してください。 ●発進前に，PTO切替スイッチを《切》にする。 ●傾き自動，深さ自動を《切》にする。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進する。 ●旋回するときは，主変速レバー（走行レバー）で速度を落して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆公道を走行する時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用し，シートベルトを装着し，シートを正面に固定してください。 ● 作業機は装着しない。 ● 周囲を確認しながら走行する。 ● わき見運転をしない。 ● 低速車線を走る。	思わぬ傷害事故の原因となります。 クローラトラクタ運転中は，気のゆるみが大事故につながることを忘れないようにしてください。 
⚠警告 ◆夜間の移動はライトをつけてください。 ● 夜間，対向車とすれ違う場合は，前照灯を下向きにして走行する。 ● 作業灯はつけないこと	対向車の運転者が目をくらまし，交通事故を引起こす原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車・停車する時は，平坦な場所で駐車ブレーキスイッチを《入》にしてください。 ● 作業機（ロータリ等）を降ろす。 ● 座席を離れる時はエンジンを停止し，キーを抜取っておく。	クローラトラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……

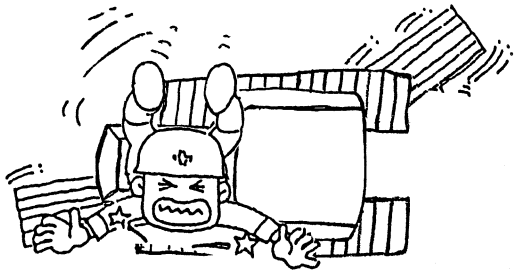
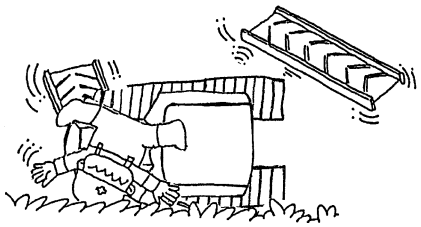
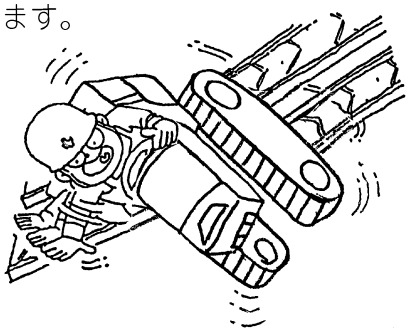
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ●雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。	路肩がくずれ転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。 ●スピードを落として慎重に走行する。	転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では低速で運転してください。 ●副変速スイッチを《L》(低速）にしてください。 ●主変速レバー（走行レバー）は低速位置で運転してください。 ◆傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。 ◆主変速レバーは《N》(中立)で走行しないでください。	機械の安定性が悪くなったり，スピードが速くなったりハンドルが効かなくなったりして事故の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，駐車ブレーキスイッチを《入》にしてクローラに歯止めをして作業機を降ろしてください。 ◆クローラトラクタは変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききません。歯止めをしてください。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。	トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。 

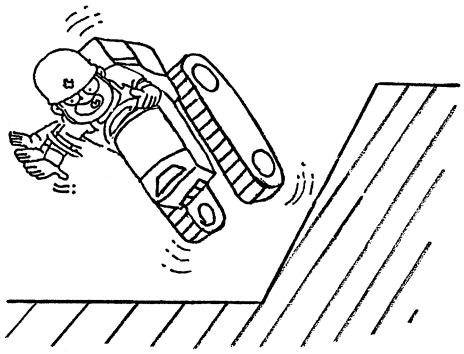
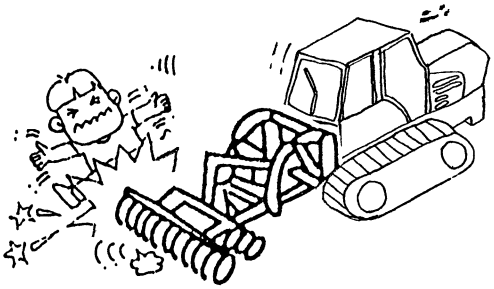
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●クローラがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。 ●自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。 ●自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ●2枚のアユミを左右のクローラの間隔に合わせて置き，荷台に対して真っ直ぐにする。 ●荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認する。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込みは後進，積降ろしは前進で行なってください。 ●補助者立会誘導のもとに行う。 ●機械のまわりに子供等，人を近づけない。 ●アユミの上では，旋回操作はしない。 ●ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上では低速で運転してください。 ●エンジンコントロールレバーを《🐢》(低速)，主変速レバー（走行レバー）は《N》（中立）に近い位置で運転する。 ●副変速スイッチを《L》(低速）にする。 ●途中でトラクタを止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行う。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。

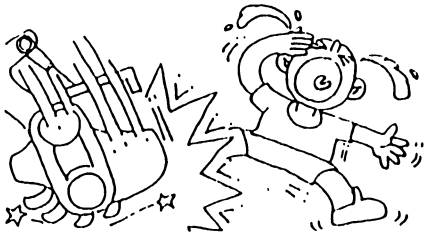
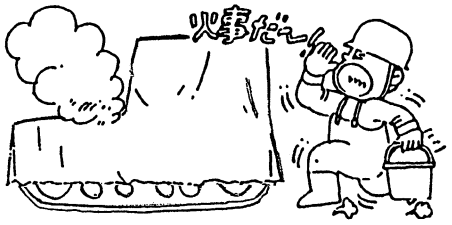
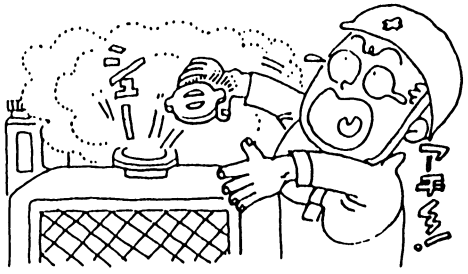
⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜，溝越え，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行う。 ●PTO切替スイッチを《切》にする。 ●アユミの上では必要以上の旋回操作をしない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中は，クローラトラクタに人を近づけないようにしてください。 ●ほ場に子供等，人を入れない。 ●子供等，人が近寄らないようにする。 ●わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。 ●あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。	作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。 

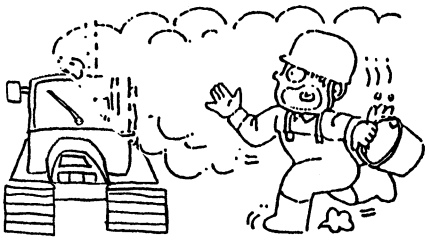
⚠１日の作業が終わったら……

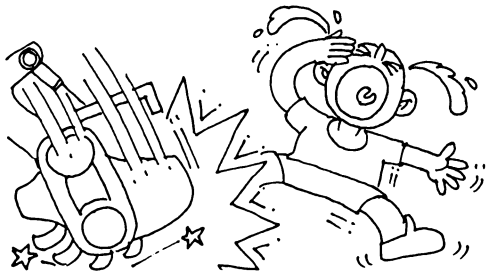
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン，マフラ，燃料タンクまわりのワラ，草等を除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，作業機（ロータリ等）は地面に降ろし，駐車ブレーキスイッチを《入》にしてください。 ●キーは抜取っておく。 ●PTO切替スイッチは《切》にしておく。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 

⚠長期格納する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

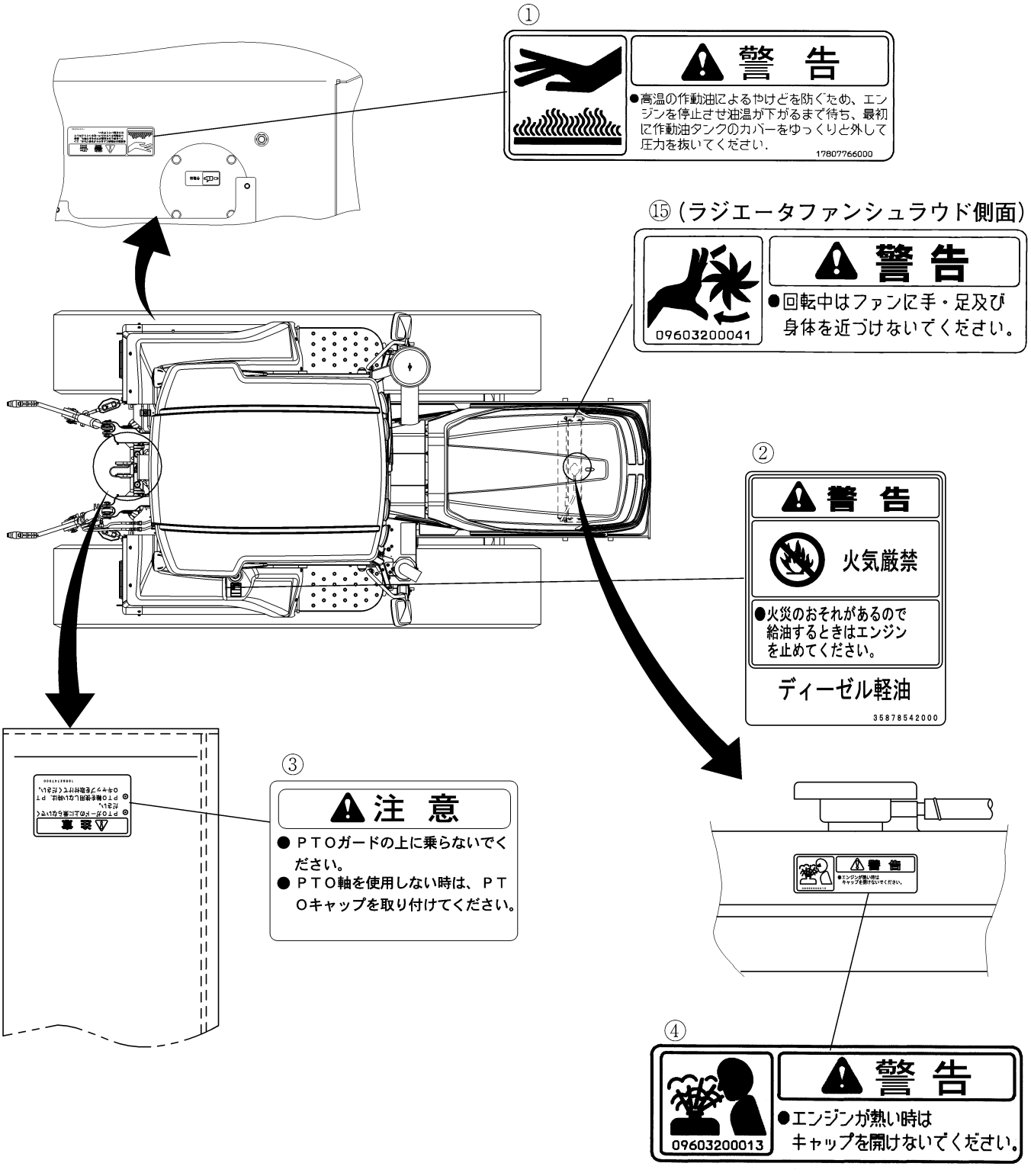
⚠警告 ◆各部を水洗いして，平坦な場所でエンジンを停止しクローラに歯止めをかけ，キーを抜取ってください。	機械から目をはなしたすきに子供等がイタズラをしたり，思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆故障個所，爪の摩耗があれば，早目に修理，交換します。 ◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けます。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリはトラクタから外して保管するか，㊀側のコードを外しておいてください。 ●バッテリをトラクタから外して保管する時は，㊀側のコードから外す。	火災事故の原因となることがあります。 

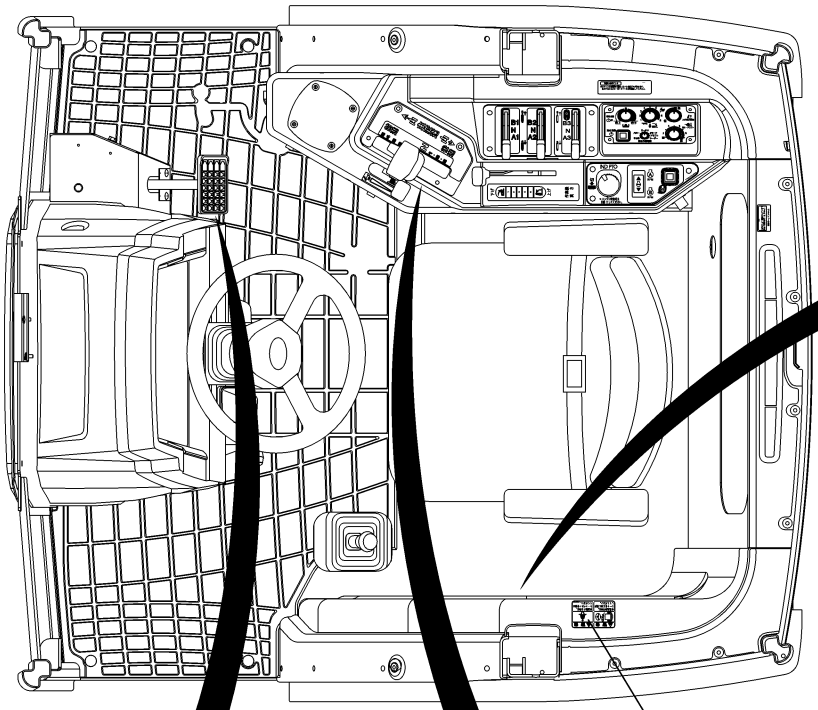
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業機は外すか，降ろしておいてください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 

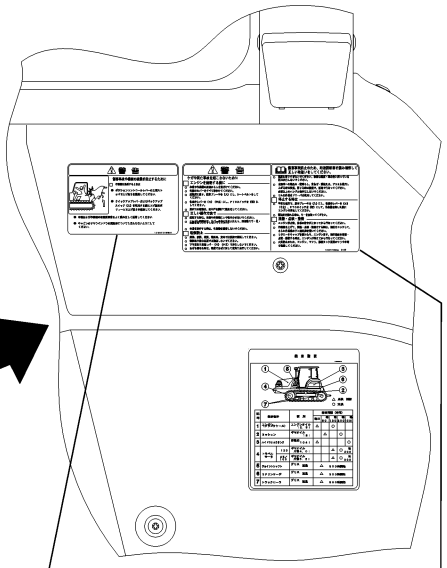
2．表示ラベルについて

このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱いかたについて説明している「**表示ラベル**」が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき，守ってください。

また，トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。







⑦

⚠ 警 告

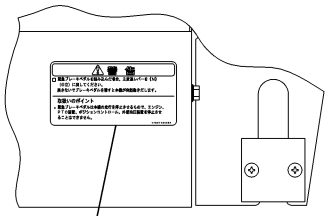


傷害事故や機械の破損を防止するために

■ 作業機を装着するときは

- ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください.
- クイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください.
- 本機および作業機の取扱説明書をよく読み正しく装着してください.
- キャビンのリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください.

17807756001



⑤

⚠ 警 告

■緊急ブレーキペダルを踏み込んだ場合、主変速レバーを《N》（中立）に戻してください。
戻さないでブレーキペダルを離すと本機が突然動きだします。

取扱いのポイント

●緊急ブレーキペダルは本機の走行を停止させるもので、エンジン、PTO装置、ポジションコントロール、外部油圧装置を停止させることはできません。

17807758001

〔２本レバー仕様〕

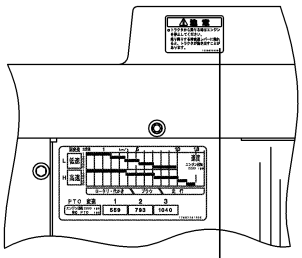
⚠ 警 告

■緊急ブレーキペダルを踏み込んだ場合、走行レバーを《N》（中立）に戻してください。
戻さないでブレーキペダルを離すと本機が突然動きだします。

取扱いのポイント

●緊急ブレーキペダルは本機の走行を停止させるもので、エンジン、PTO装置、ポジションコントロール、外部油圧装置を停止させることはできません。

17807782000



⑥

⚠ 注 意

● トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10406697000

⑧

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないため

■エンジンを始動する前に
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 運転席に座り、駐車ブレーキを《入》にし、シートベルトをしてください。
- 各操作レバーを《N》（中立）にし、PTOスイッチを《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

■正しい操作方法で
- 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中に手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

■転倒防止
- 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。
- 下り坂を主変速レバー《N》（中立）で走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

- 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩・草の生い茂っている所は走行しないでください。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。必要以上のハンドル操作はしないでください。
- けん引作業はドローバを使用してください。

■停止する時は
- 平坦な場所で、駐車ブレーキを《入》にし、各操作レバーを《N》（中立）、PTOスイッチを《切》にして、作業機を降した後にエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる時は、キーを抜取ってください。

■清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定部を置いてください。
- ラジエータキャップを開けとり、エンジン回り、油圧系統を清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

17807755002 クロトラ

〔２本レバー仕様〕

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないため

■エンジンを始動する前に
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 運転席に座り、駐車ブレーキを《入》にし、シートベルトをしてください。
- 各操作レバーを《N》（中立）にし、PTOスイッチを《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

■正しい操作方法で
- 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中に手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

■転倒防止
- 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

- 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩・草の生い茂っている所は走行しないでください。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。必要以上の旋回操作はしないでください。
- けん引作業はドローバを使用してください。

■停止する時は
- 平坦な場所で、駐車ブレーキを《入》にし、各操作レバーを《N》（中立）、PTOスイッチを《切》にして、作業機を降した後にエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる時は、キーを抜取ってください。

■清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定部を置いてください。
- ラジエータキャップを開けとり、エンジン回り、油圧系統を清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

17807781000 クロトラ

⑨

⚠ 警 告

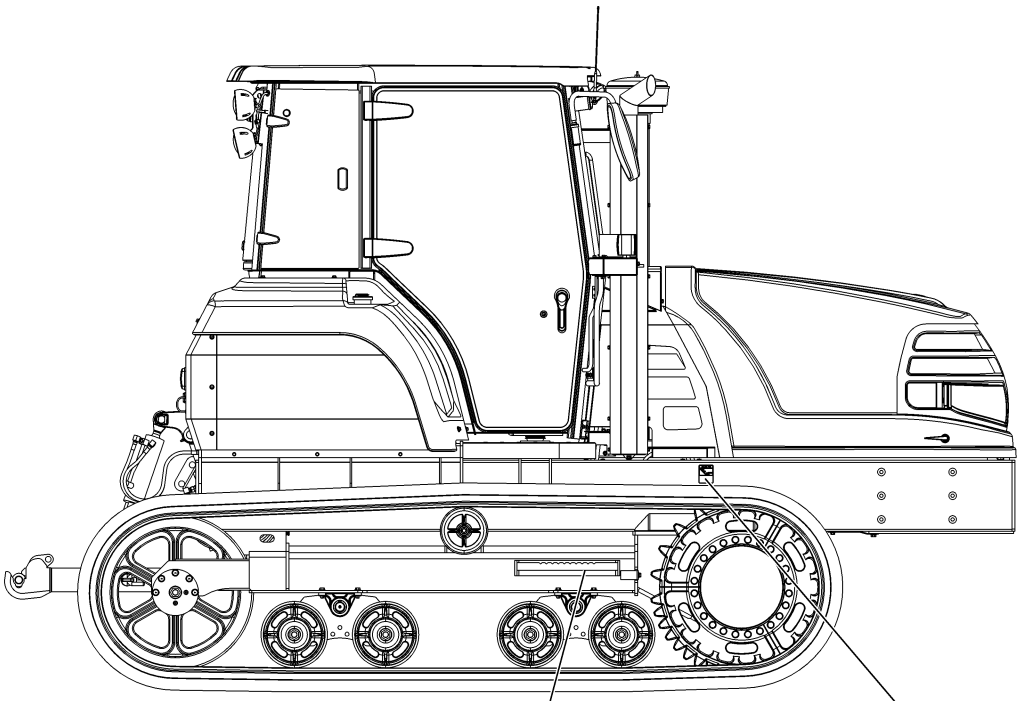


●道路走行時は、シートを正面に固定してください。

⚠ 警 告



●運転する時は、シートベルトを締めてください。 99693200067



⑩

警　告

●高圧シリンダ

人身事故を避けるため、圧力が完全に抜けるまでは、いかなる部品も外さないでください。
圧力を抜くときは、フィルバルブを一回転以上ゆるめないでください。

トラック調整法は取扱説明書に従ってください。

●リコイルスプリング

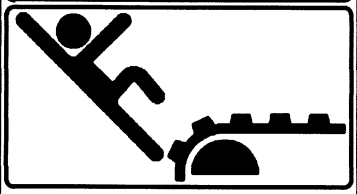
人身事故のおそれがありますので、絶対に分解しないでください。

17807767001

［左右共］

⑪

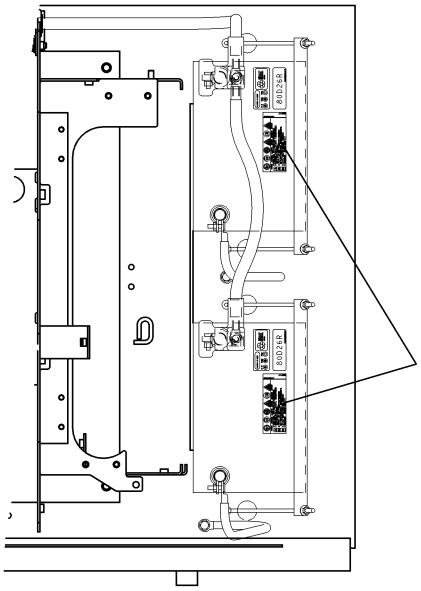
警　告



●転落・巻き込まれのおそれがあるので，ゴムクローラの上に乗らないでください。

17807757000

［左右共］



⑫



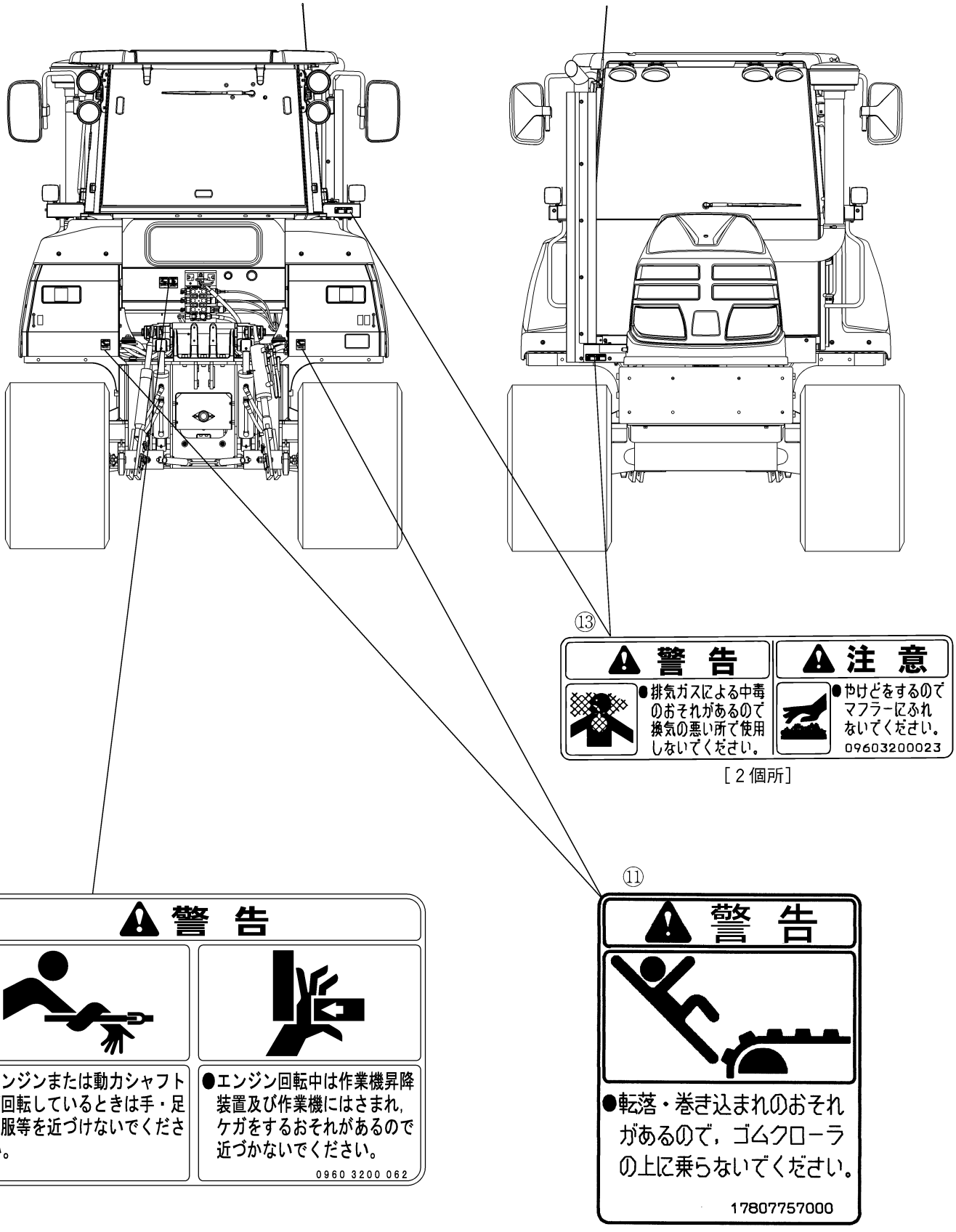
火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

危険

- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
- 充電は風通しのよいところで行う。（充電時火気厳禁）
  ショートやスパークをさせない。
- バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
  液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
- バッテリー液注入済（横倒し厳禁　液漏れ注意）
- 急速充電厳禁 ● 開封厳禁（密封タイプ）

09603000020

密封タイプ


⑬
警 告
●排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないでください。
注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603200023
［２個所］
⑭
警 告
●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。
●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ，ケガをするおそれがあるので近づかないでください。
0960 3200 062
⑪
警 告
●転落・巻き込まれのおそれがあるので，ゴムクローラの上に乗らないでください。
17807757000

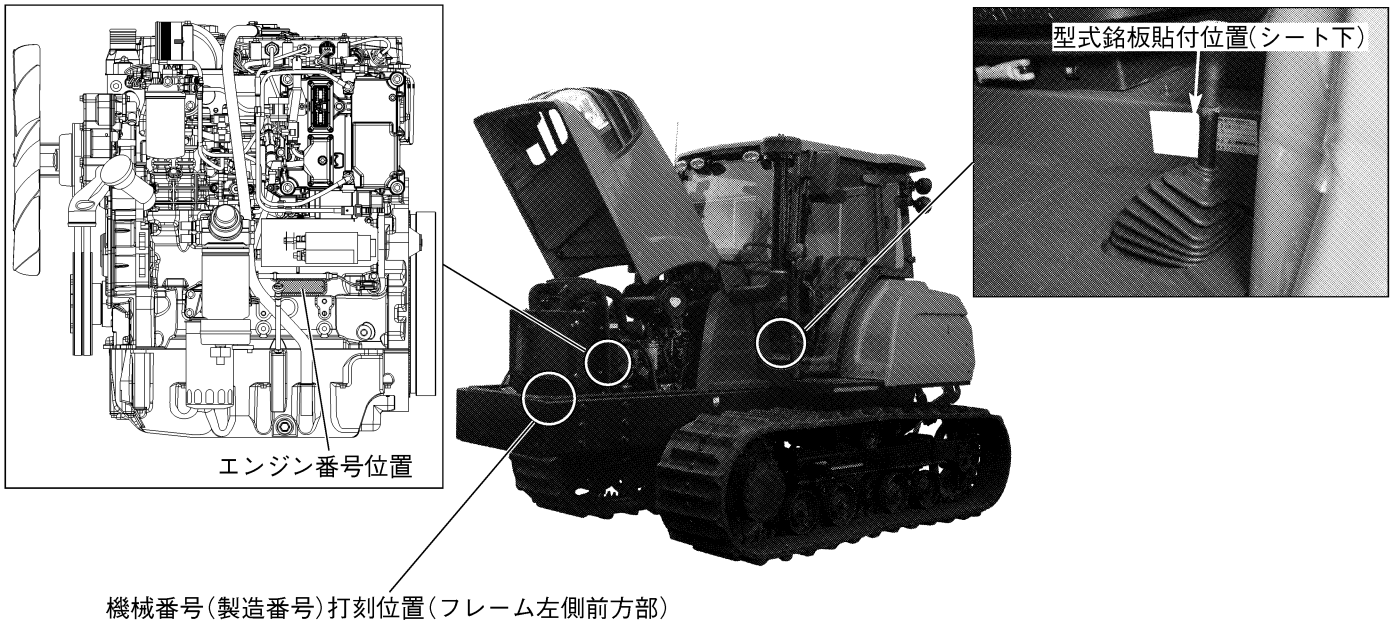
表示ラベル一覧表

No.	部品番号	品　　名	No.	部品番号	品　　名
①	1780 7766 000	警告ラベル	⑨	0960 3200 067	警告ラベル
②	3587 8542 000	警告ラベル	⑩	1780 7767 001	警告ラベル
③	1968 2747 000	注意ラベル	⑪	1780 7757 000	警告ラベル
④	0960 3200 013	警告ラベル	⑫	0960 3000 020	危険ラベル
⑤	1780 7758 001	警告ラベル［丸ハンドル仕様］	⑬	0960 3200 023	警告・注意ラベル
	1780 7782 000	警告ラベル［２本レバー仕様］			
⑥	1040 6697 000	注意ラベル	⑭	0960 3200 062	警告ラベル
⑦	1780 7756 001	警告ラベル	⑮	0960 3200 041	警告ラベル
⑧	1780 7755 002	警告ラベル［丸ハンドル仕様］			
	1780 7781 000	警告ラベル［２本レバー仕様］			

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械は，**ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次のようになっています。

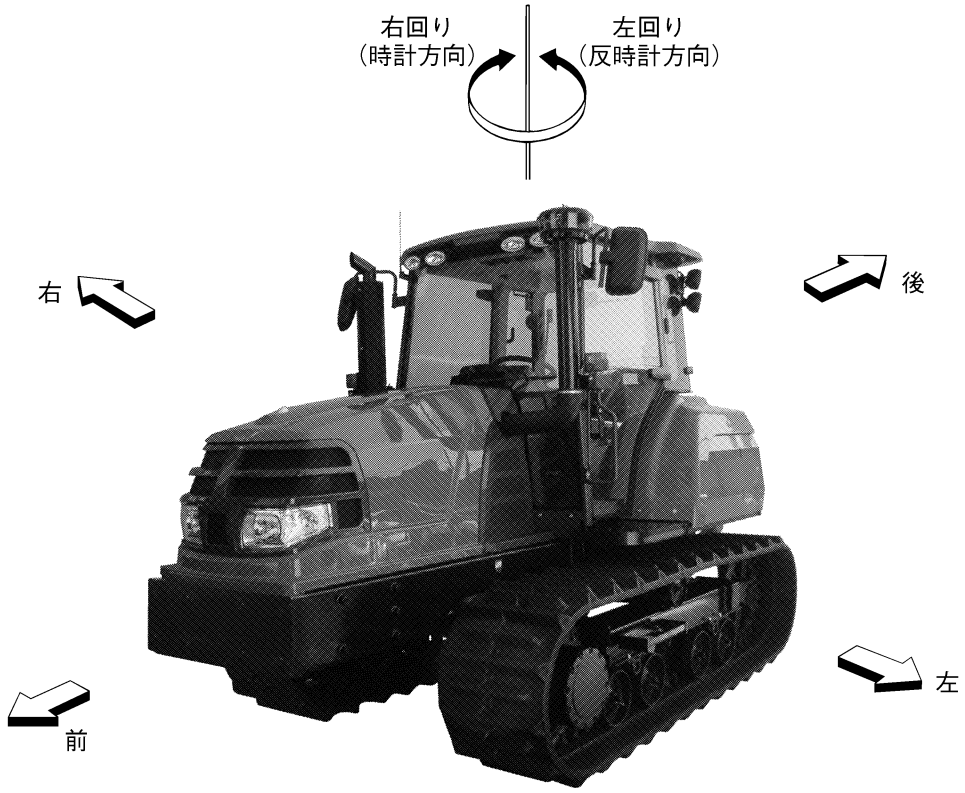
仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明していますので，お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

型式名 / 仕様	三菱GCR1350
126PS {92.8kW} エンジン	○
プレクリーナ	○
無段変速	○
高低速切替スイッチ	○
駐車ブレーキスイッチ	○
インデPTO	○
マイコン(MAC)仕様	○
キャビン(エアコン付)	○
クローラ	○
外部電源コネクタ	○

3．用語について

❶　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のように決めています。



区　　分	本　文　表　示
－	記載なし（丸ハンドル仕様）
V	［２本レバー仕様］

・本書は丸ハンドル仕様車を基本とし，２本レバー仕様車は都度「**２本レバー仕様**」として説明しています。
・丸ハンドル仕様車における主変速・ハンドルの働きを，２本レバー仕様車では「**走行レバー**」にて行います。
　内容が同一の箇所では主変速・ハンドルの後に（**走行レバー**）と併記し説明しています。

❷　**マークの説明**

　この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。
・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
・**取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

4．小型特殊自動車について

このトラクタは，道路運送車両法の「**小型特殊自動車**」に該当します。

1．小型特殊自動車の届出

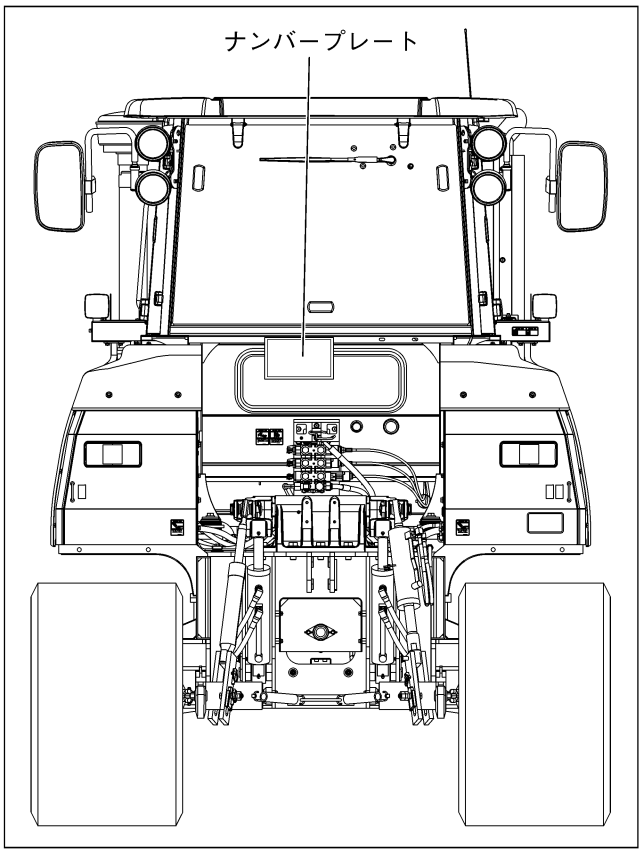
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

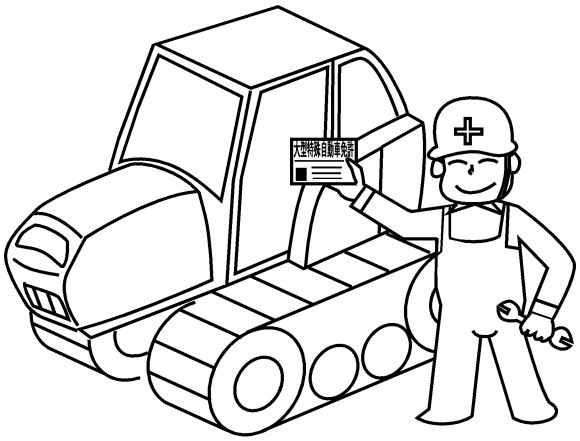
・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。（下図）



2．運転免許



❶　このトラクタは下記の基準を超えますので，公道を走行するときは，「**大型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許を所持してください。

[小型特殊自動車]の運転免許で運転できる自動車の基準

車体の大きさ	全長	4.7m以下
	全幅	1.7m以下
	全高	2.0m以下（注１）
最高速度		15㎞/h以下

（注１）ただし，安全キャブを除いた部分の高さが2.0m以下のものは，2.8m以下

3．公道を走行する時

公道を走行する時は，道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って，「**安全速度**」で走行してください。

❶　作業機を取付けた状態では公道を走行しない

道路交通法に違反します。

❷　任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

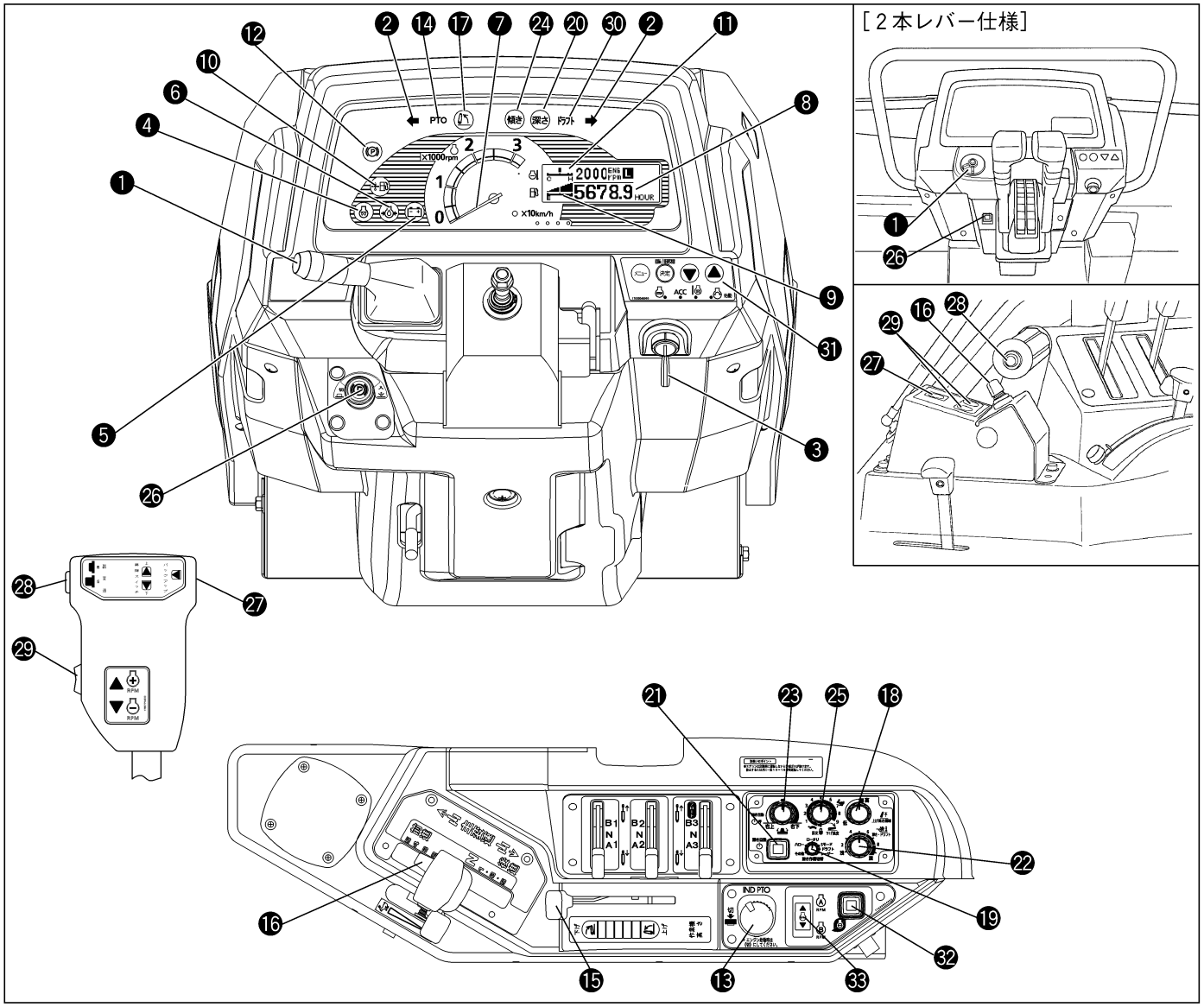
❸　公道走行中は作業灯を点灯しない

❹　シートベルトを装着し，シートを正面に固定する

各部の名称

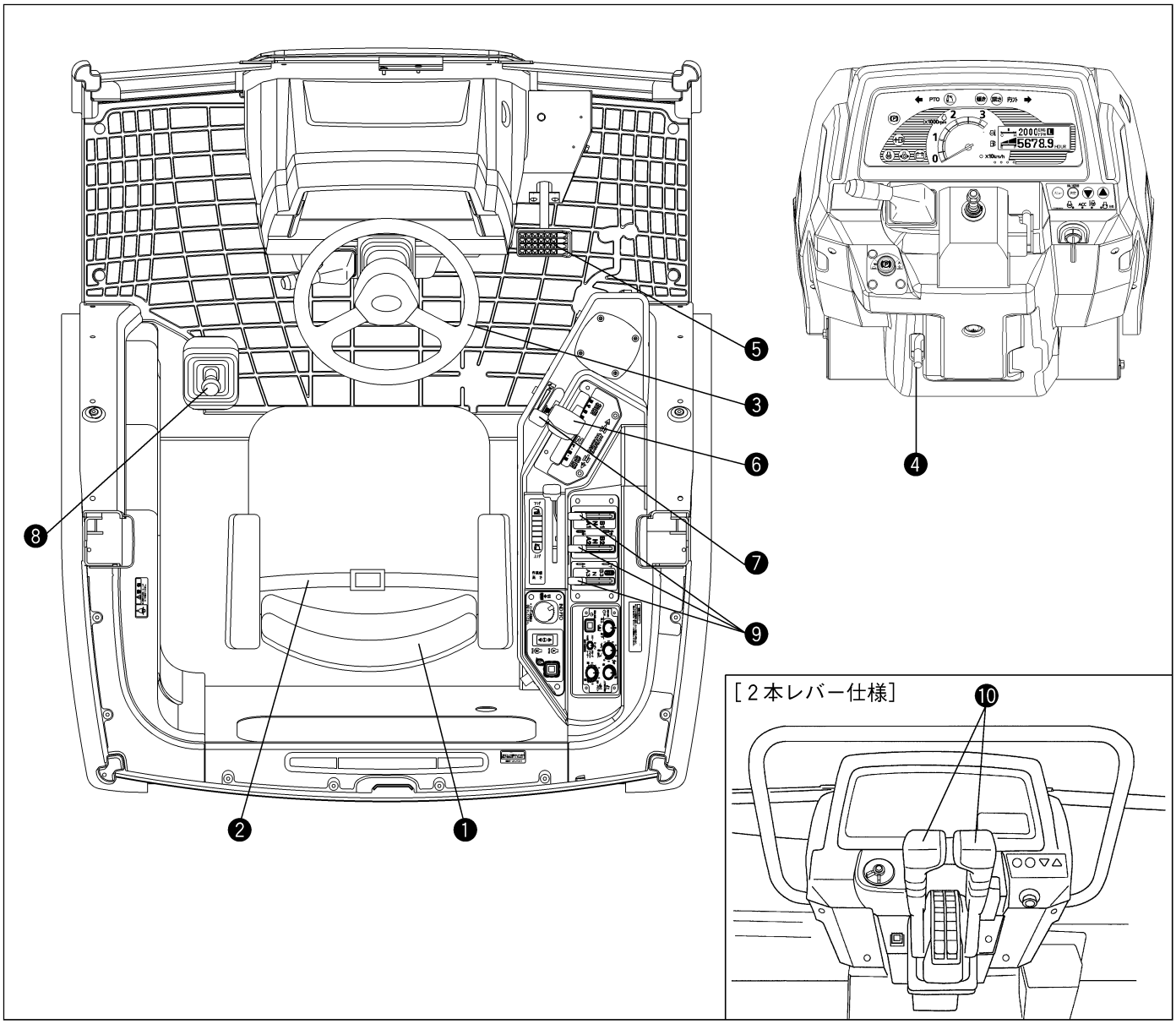
1．運転装置の名称

1．スイッチ，計器関係



No.	名　　称	参照ページ	No.	名　　称	参照ページ	No.	名　　称	参照ページ
❶	ライトスイッチ	11	⓭	PTO切替スイッチ	25	㉕	リフトアーム下げ速度ボリューム	29
❷	ウインカーパイロットランプ	11	⓮	PTOランプ	25	㉖	駐車ブレーキスイッチ	13
❸	スタータスイッチ	13	⓯	ポジションコントロールレバー	27	㉗	バックアップスイッチ	28
❹	グローランプ	14	⓰	クイックアップレバー	27	㉘	副変速スイッチ	17
❺	チャージランプ	14	⓱	リフトアップランプ	28	㉙	エンジン回転上昇／下降スイッチ	39
❻	エンジンオイルランプ	14	⓲	上げ高さ規制ボリューム	29	㉚	ドラフト自動ランプ	37
❼	タコメータ／スピードメータ	14	⓳	深さ作業切替ボリューム	31	㉛	MACビジョンスイッチ	47
❽	アワメータ	14	⓴	深さ自動ランプ	31	㉜	エコノミーモードスイッチ（ランプ付）	40
❾	燃料計	14	㉑	深さ自動スイッチ（ランプ付）	31	㉝	エンジン回転メモリースイッチ	39
❿	燃料フィルタランプ	14	㉒	深さ・ドラフト設定ボリューム	32			
⓫	水温計	14	㉓	傾き自動ボリューム（スイッチ付）	34			
⓬	駐車ブレーキランプ	14	㉔	傾き自動ランプ	34			

2．レバー，ペダル，シート関係



No.	名　　称	参照ページ
❶	シート	8
❷	シートベルト	8
❸	ハンドル	9
❹	チルトレバー	9
❺	緊急停止ブレーキペダル	10
❻	主変速レバー	17
❼	エンジンコントロールレバー	17
❽	PTO変速レバー	25
❾	外部油圧操作レバー	44
❿	走行レバー	10

運転のしかた

1．運転まえの点検

⚠警告　ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆点検や整備または給油・給水・注油する時には，トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
◆エンジン回転中は燃料補給をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．点検項目

・点検は「**定期点検整備表**」（63～64ページ）を参照して作業前に欠かさず行なってください。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けてください。

	点検個所		処置
運転まえに	エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。	・不足時は油面がレベルゲージの刻み線「**上限**」になるまで補給する。（67ページ参照）
	冷却水（ラジエータ）	・リザーブタンクに適量あるか。（給水レベルの上限と下限の間にあること）	・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。(72ページ参照)
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・ラジエータスクリーンの目詰まりはないか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはないか。	・圧縮空気で掃除する。(82～84ページ参照)
	エアクリーナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。	・エレメントを取外し掃除する。(81ページ参照)
	プレクリーナ	・ゴミが警告マーク位置まで溜まっていないか	・ゴミを捨てる。（82ページ参照）
	クローラ	・クローラがゆるんでいないか。 ・クローラが損傷していないか。	・クローラを張る。（87～88ページ参照） ・クローラを交換する。
	アイドラ トラックローラ	・油もれはないか	・もれている場合，オイルシールの点検，交換。（78，80ページ参照）
	ホース	・燃料ホース，油圧ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料，油もれがないか。	・もれている場合，ホースの交換。（89ページ参照）
スタータスイッチを(ON)にして	燃料計	・作業に必要な燃料があるか。	・ディーゼル軽油を補給する。(68ページ参照)
	ホーン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。（90～92ページ参照）
	方向指示器等の保安部品	・正常に作動するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。(90～92ページ参照)
エンジンを始動して	インジケータランプ	・グロー，チャージ，エンジンオイルランプは消灯するか。	・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。
	回転計（タコメータ，アワメータ）	・正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。
	ステアリング及び各レバー類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。
	ブレーキペダル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。

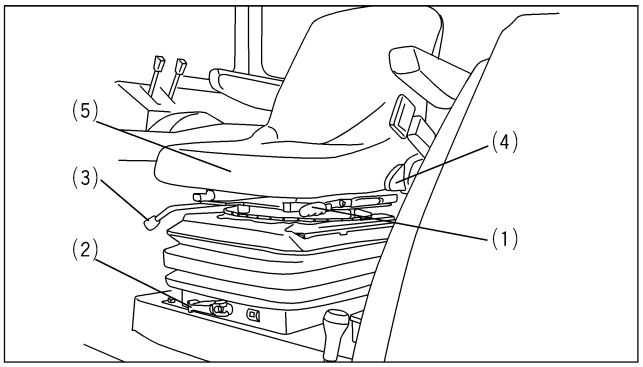
2．運転まえの準備

❶ シート

⚠警告 傷害事故防止のために

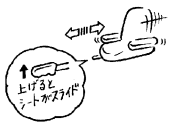
◆道路走行時はシートを正面に固定してください。

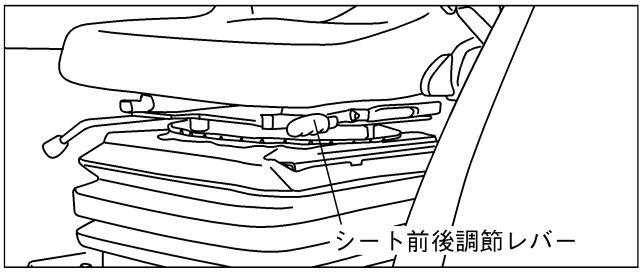
ハンドルやレバー類・ペダルなどが楽に操作できる，ゆとりある位置にシートを調整できます。



(1) シート前後調整レバー

シートの前後調節が16段階に（160㎜）できます。

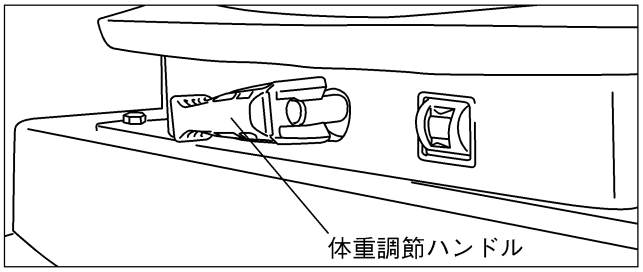




(2) 体重調節ハンドル

運転者の体重に合わせてシートのクッション調節ができます。

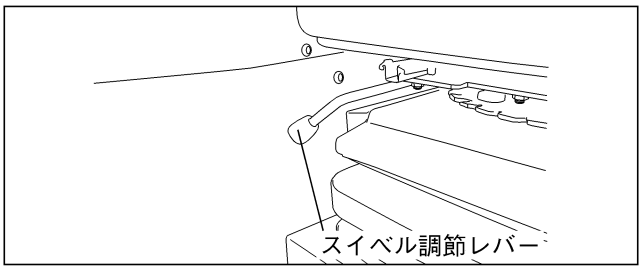




(3) スイベル調節レバー

シート位置を右に10度回転できます。

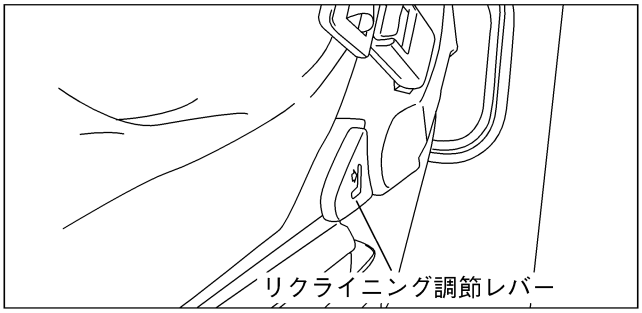




(4) リクライニング調節レバー

レバーを持ち上げて，背もたれ角度を25度の範囲で調節できます。

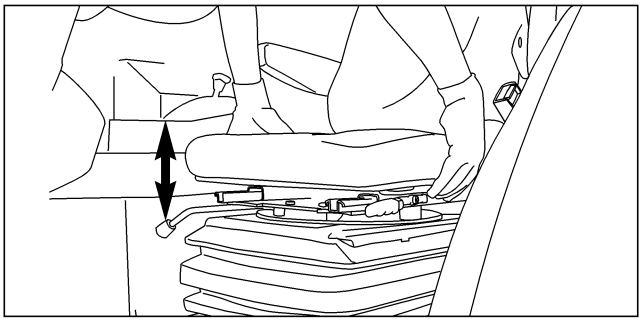




(5) シート高さ調節

シートを持ち上げると，3段階の高さ調節が出来ます。シートを下げるときには，一旦最上げにすると解除になりシートは下がります。



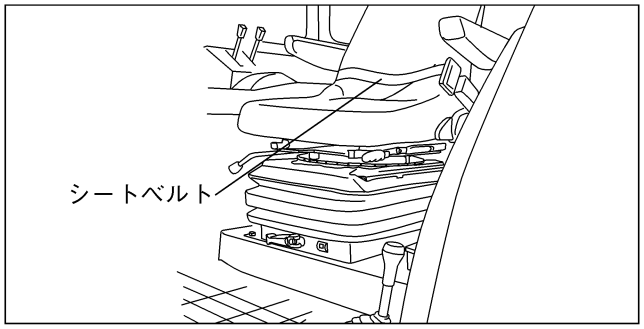


❷ シートベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を運転するとき，作業を行うときはシートベルトをしてください。

◆機械の運転中，作業中は座席シートから立ち上がらないでください。機械を停止し，シートベルトを外してから立ち上がってください。



運転者の身体を，座席シートに固定するときに使用します。

装着するときは，座席シートに上体を起こして座り，腰骨にかかる位置にベルトがねじれないように，ダンクプレートをバックルの中へ「カチリ」と固定音がするまで差し込みます。

外すときは,バックルのPRESSボタンを押します。

❸ ハンドル

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆旋回する時は主変速レバーで速度を落として行ってください。高速時に旋回すると急旋回します。
>
> ◆自動車への積込み.積降ろしの時等，アユミの上で必要以上にハンドルを操作しないでください。

機械の進行方向を操作します。

・クローラトラクタは左右のクローラの回転差により旋回します。

・ハンドルを切る角度によって旋回方式が**減速ターン⇒ピボットターン⇒スピンドライブターン**の順に切り替わります。

ハンドルを逆回転に戻せば，通常の「直進」に復帰します。

①**「直進」**



ハンドルを切らない場合，
左右のクローラは同じ速さ
で回転します

②**「減速ターン」**



ハンドルを切ると旋回内側
のクローラが減速を始めます。

③**「ピボットターン」**

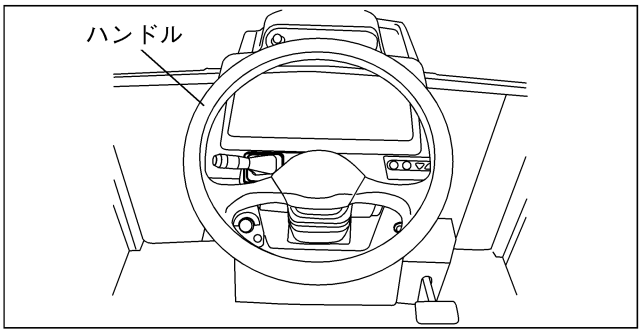


旋回内側のクローラが停止し
支点旋回になります。

④**「スピンドライブターン」**



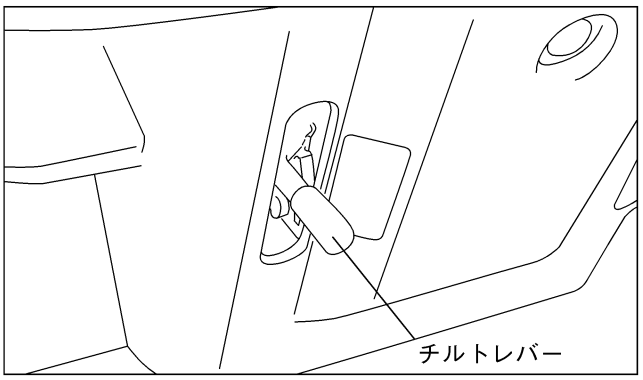
旋回内側のクローラが逆回転を
始めます。



❹ チルトレバー

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆ハンドルの角度を変えた時は，チルトレバーを上方に引き上げ，ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

チルトレバーを押し下げると，ハンドルの角度を変えることができます。[**2本レバー仕様**]にはありません。



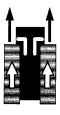
❺ 走行レバー［２本レバー仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回する時は走行レバーで速度を落として行ってください。高速時に旋回すると急旋回します。
◆自動車への積込み.積降ろしの時等，アユミの上で必要以上に走行レバーを操作しないでください。
◆走行レバーを急激に操作しないでください。急発進や急停止は傷害事故の原因となります。
◆後進，前進の切替えは，機械を一旦停止させてから行ってください。
◆トラクタから降りるときはエンジンを停止して下さい。乗降時，走行レバーに体が触れるとトラクタが動き出すことがあります。

レバー操作により前進，後進共に無段階で変速できます。
・《**N**》位置が中立位置で，トラクタの停止，エンジンの始動ができます。
・[1] で発進し [3] で最高速度となります。
・クローラトラクタは左右のクローラの回転差により旋回します。
・走行レバーの操作具合によって旋回方式が**減速ターン⇒ピボットターン⇒スピンドライブターン**の順に切り替わります。
走行レバーを左右同一位置に戻せば，通常の「直進」に復帰します。

①「**直進**」
２本共レバーを同位置に変速します。



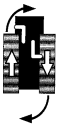
②「**減速ターン**」
２本のレバーの変速位置に差をつけます。

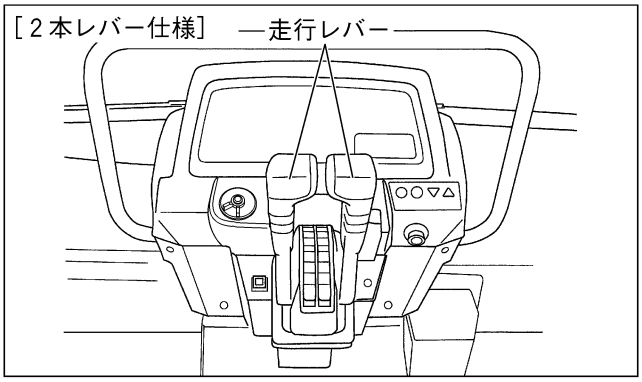


③「**ピボットターン**」
１本のレバーは《N》（中立），他の１本を変速位置にします。



④「**スピンドライブターン**」
１本のレバーは前進，他の１本は後進にします。



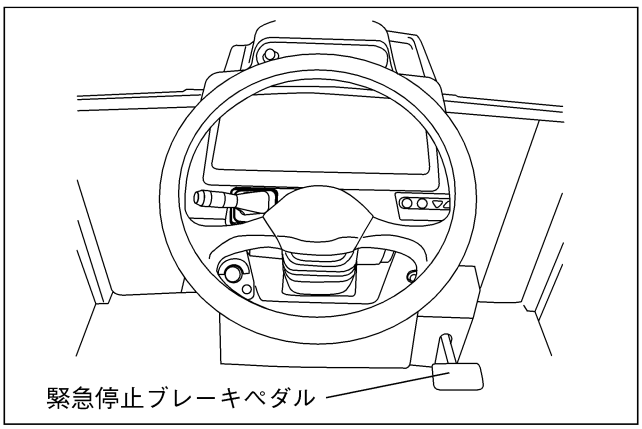


❻ 緊急停止ブレーキペダル

⚠警告 傷害事故防止のために

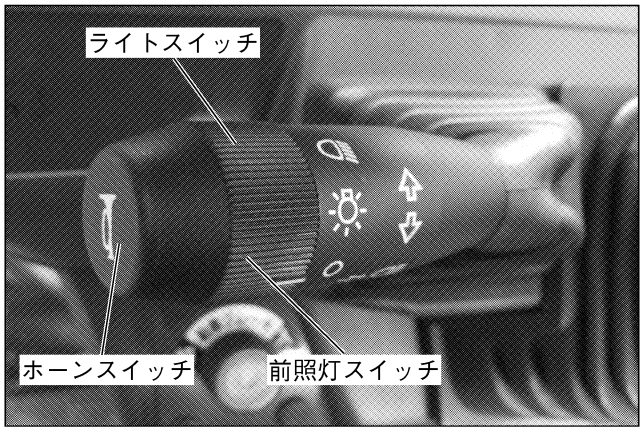
◆このペダルは走行ブレーキであり，PTOその他の機能を停止することはできません。
◆このペダルは危険回避の為に，緊急に停止する時のみ使用してください。通常の停止は主変速レバー（走行レバー）の操作で停止してください。
◆緊急停止ブレーキペダルを踏んだ時は，主変速レバー（走行レバー）を《N》(中立)に戻してください。戻さずにペダルから足を離すと急発進します。

緊急停止ブレーキペダルを踏み込むと急ブレーキがかかりエンジン回転がアイドリング状態まで落ちる安全装置機能がはたらきます。
エンジンコントロールレバーをアイドリング位置《🐢》まで戻すと安全装置が解除できます。



3．灯火類・ホーンの操作

・ライトスイッチ



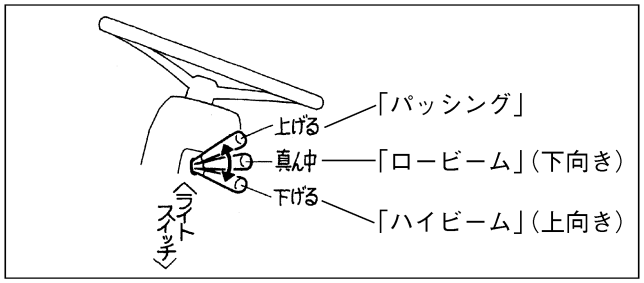
(1) **前照灯スイッチ**

○ ……消灯

……メータ類ランプ点灯及び車幅灯・尾灯点灯

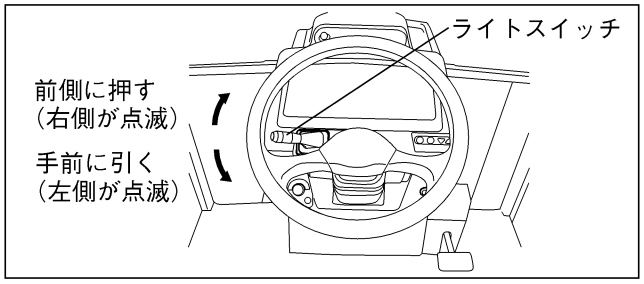
……メータ類ランプ点灯及び車幅灯・尾灯・前照灯点灯

(2) **ハイビームスイッチ**



前照灯点灯状態でライトスイッチを上下させると「**パッシング**」「**ロービーム**」「**ハイビーム**」に切換わります。「**パッシング**」については，消灯状態でも機能し，手を放すと「**ロービーム**」の位置に戻ります。

(3) **方向指示スイッチ**



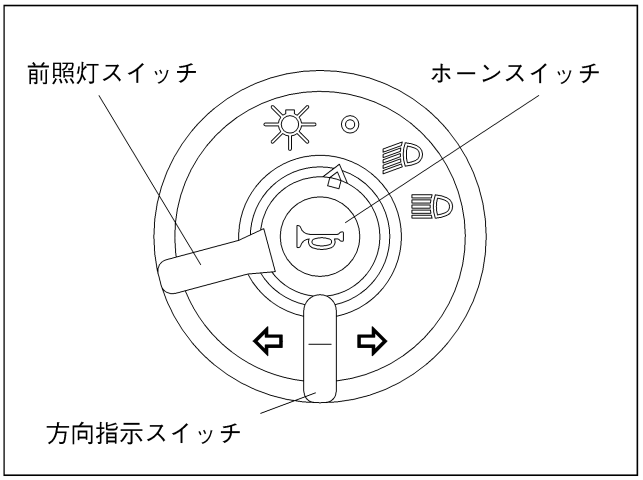
ライトスイッチを前側に押す……右側が点滅

ライトスイッチを手前に引く……左側が点滅

(4) **ホーンスイッチ**

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

・ライトスイッチ［2本レバー仕様］



(1) **前照灯スイッチ**

○……消灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯「ロービーム」点灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯「ハイビーム」点灯

(2) **ホーンスイッチ**

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

(3) **方向指示スイッチ**

右折，左折のとき使用します。

……右側が点滅

……左側が点滅

取扱いのポイント

- **ホーンはスタータスイッチ《 切》，《ACC》の位置では作動しません。**

2．運転操作のしかた

各項目の操作手順に従って操作してください。

1．エンジンの始動と停止

❶ エンジンの始動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

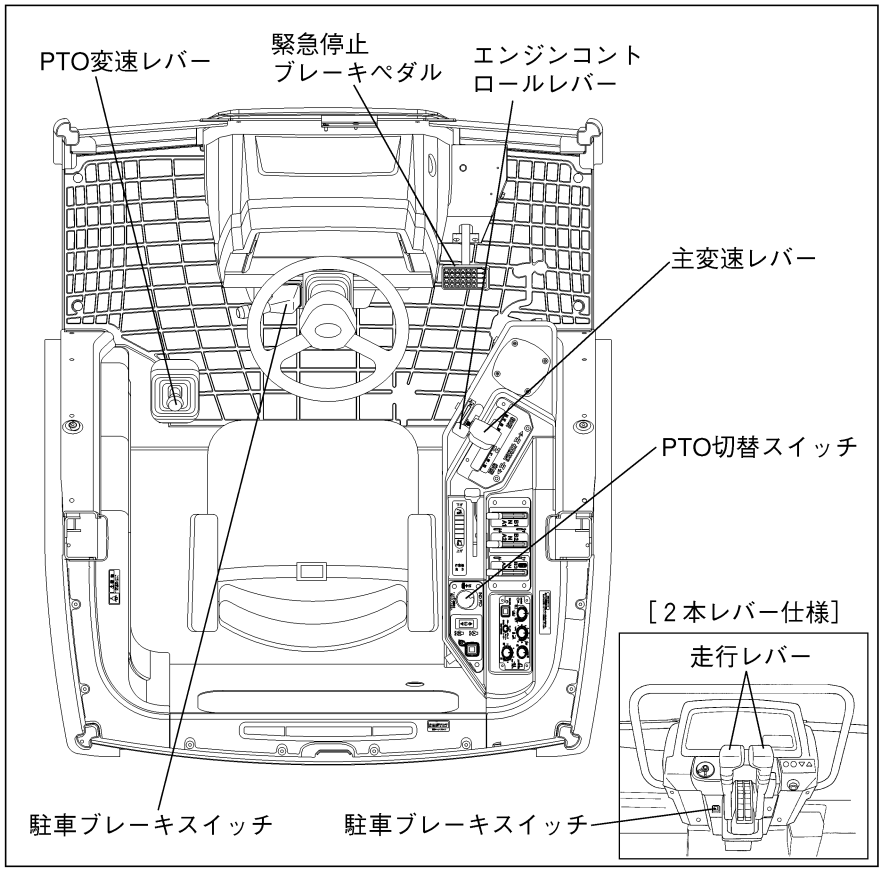
◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
◆トラクタに乗車する前に，トラクタの外周を見て回り，異常がないことを確認してください。
◆主変速（走行），PTO変速レバーを「《N》（中立）」にし，PTO切替スイッチを《切》にし，駐車ブレーキスイッチを《入》にし，緊急停止ブレーキペダルをいっぱいに踏込んでから，エンジンを始動してください。
◆エンジンの始動，発進する時は，周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
◆エンジンの始動はシートに座って，シートベルトをしめてから行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆トラクタや作業機に子供等，人や物を乗せないでください。
◆暖機運転は主変速（走行），PTO変速レバーを「《N》（中立）」にし，PTO切替スイッチを《切》にし，駐車ブレーキスイッチを《入》にしてから行なってください。

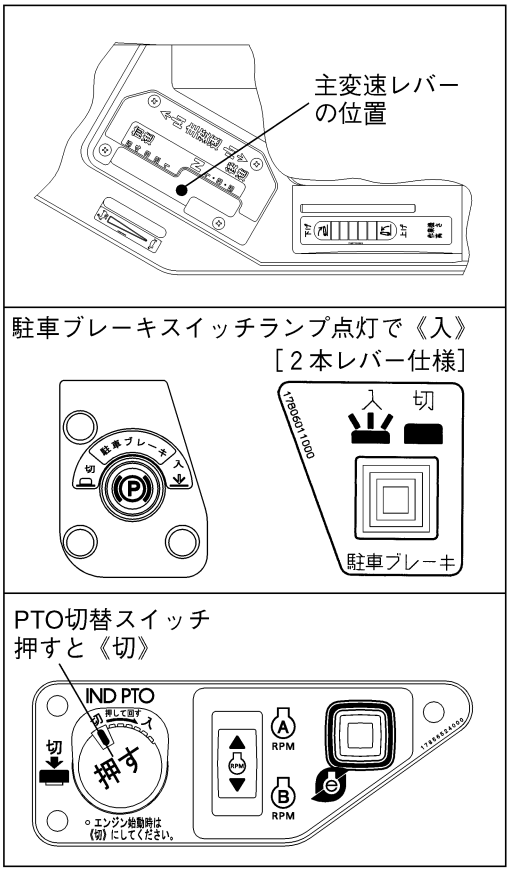
(1) 駐車ブレーキを《**入**》にし，主変速レバー（走行レバー），PTO変速レバーを「《**N**》（**中立**）」にし，PTO切替スイッチを《**切**》にして，緊急停止ブレーキペダルをいっぱいに踏込みます。

(2) エンジンコントロールレバーは低回転位置にします。



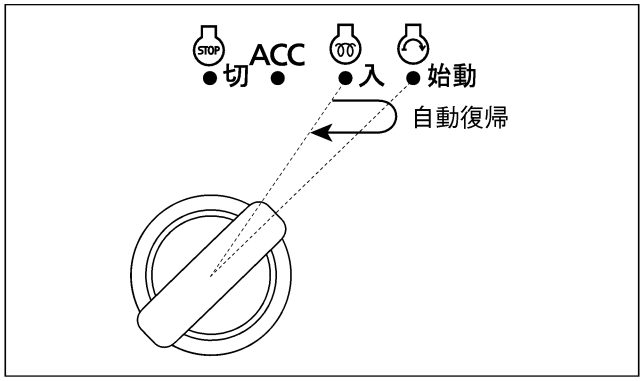
(3) キーを《 **入**》にするとエンジンオイルランプ，チャージランプ，グローランプが点灯します。



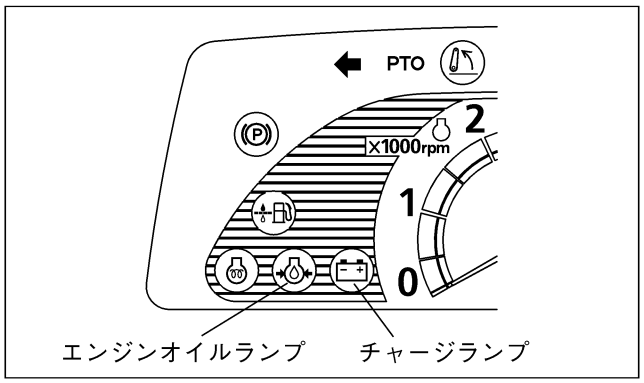


⑷ グローランプが消灯してから，キーを《 始動》にします。

⑸ 始動したら，ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《 入》の位置に戻ります。



⑹ エンジンオイルランプ，チャージランプが消えれば正常です。消えないときは，すぐエンジンを停止して点検します。



⑺ エンジン回転を約1,500rpmにして暖機運転します。（約５分間）

取扱いのポイント

- エンジンが少しでも回転している時はキーを《 始動》にしないでください。
  故障の原因となります。
- 始動操作を繰返した場合，グローランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。
- 暖機運転は，寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると，エンジンの寿命を短くします。
- 寒冷時の始動直後はエンジン回転が上がりにくい場合がありますが，保護機能が働いている為で故障ではありません。暖機運転を十分に行ってください。
- 寒冷時の始動
・下表を参照し気温にあったエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

気温(℃)	−20	−10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W−30				
	SAE5W−40				
燃料（軽油）	JIS特3号	JIS3号	JIS2号		

- クローラトラクタは，油圧で変速していますので暖機運転を十分行なってください。
- 暖機運転中は駐車ブレーキスイッチを《入》にし，エンジン回転を約1500rpmにします。
- 暖機運転中はオートディセル機能（40ページ❺参照）を「切」にしてください。
- 主変速レバー（走行レバー）が《N》(中立）で無い時（走行レバーが左右共に《N》(中立）で無い時)，PTO切替スイッチが《入》の時，緊急停止ブレーキペダルを踏んでない時は，始動安全回路が作動してエンジンが始動しません。
- エンジンの運転中に ランプが連続点灯する時は，エンジンを停止し，ファンベルトを点検してください。(86ページ参照)
  ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。
- 運転中に ランプが点灯した時は，エンジンを停止し，エンジンオイル量を点検してください。(67ページ参照)
  オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。
- 液晶画面の水温計の表示が《H》を示した場合は，オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトの張りを点検してください。冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトが

正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。

●スタータスイッチ

・《 切》（停止）

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

キーの着脱ができます。

・《ACC》（アクセサリ）

カーステレオとシガライターが使用できます。

・《 入》（入，予熱）

キーをこの位置にすると電源が入りメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。予熱が完了するとグローランプ消灯しますので始動操作をします。

グローランプ点灯時間……0～12秒

・《 始動》

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

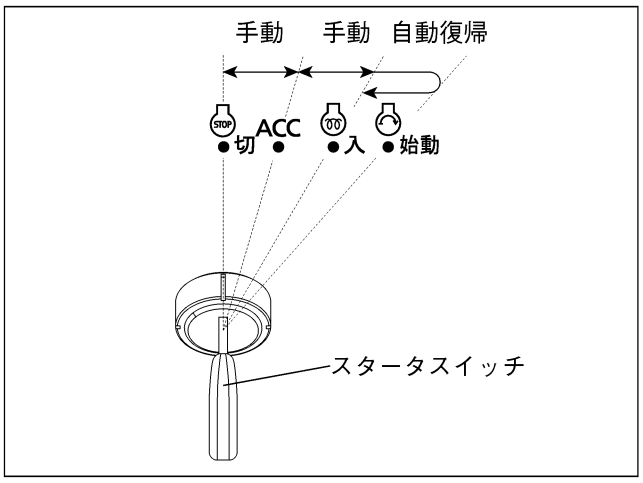
取扱いのポイント

●主変速レバー（走行レバー）が《N（中立）》位置にないと，エンジンは始動しません。

●２本レバー仕様は左右の走行レバーが共に《N（中立）》位置にないとエンジンは始動しません。

●PTO切替スイッチが《切》の状態でないとエンジンは始動しません。

●緊急停止ブレーキペダルを踏込んでいないとエンジンは始動しません。

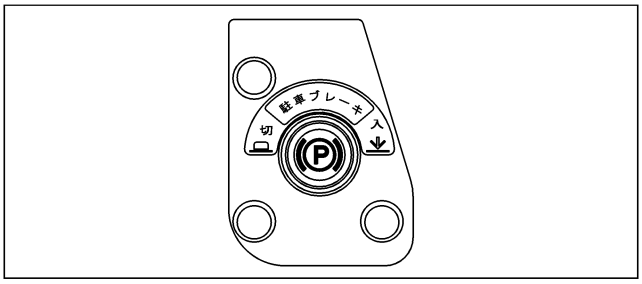


●駐車ブレーキスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキスイッチを《入》にし，木片などでクローラに「歯止め」をします。

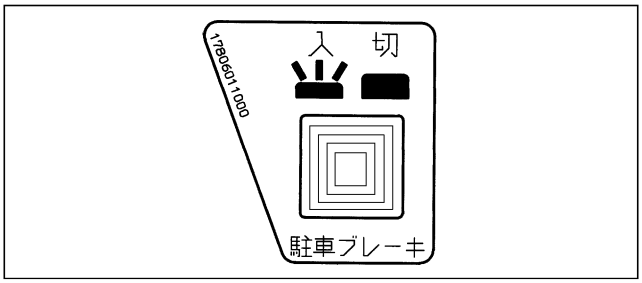
◆駐車ブレーキは走行中に《入》にしないでください。走行モータの破損の原因になります。完全に停止してから《入》にしてください。



スイッチを押すたびに《入》⟷《切》が切り替わります。

《入》の時は，メータパネル内の駐車ブレーキランプが点灯します。

［２本レバー仕様］



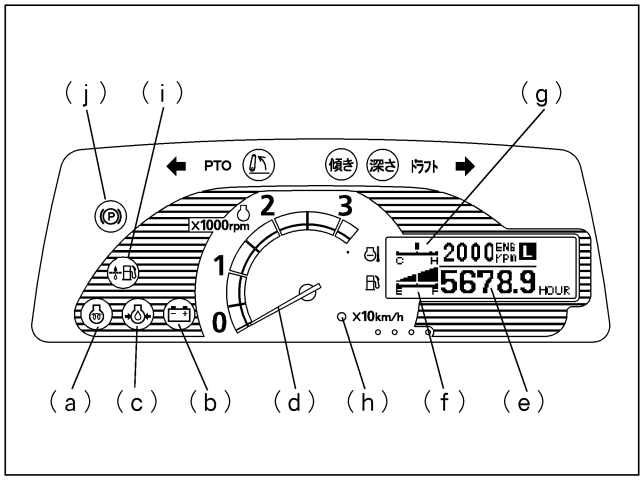
スイッチを押すたびに《入》⟷《切》が切り替わります。

《入》の時は，スイッチ内のランプとメータパネル内の駐車ブレーキランプが点灯します。

取扱いのポイント

●エンジンを始動するときは，駐車ブレーキスイッチを《入》にしてください。

●表示器



(a) グローランプ（ ランプ）

キーを《 入》にすると，点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

(b) チャージランプ（ ランプ）

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止している時，キーを《 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

(c) エンジンオイルランプ（ ランプ）

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止している時，キーを《 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

(d) タコメータ／スピードメータ

エンジン回転数と速度表示が切り替え表示できます。

(e) アワーメータ

エンジンの稼働時間を液晶画面で表示します。

(f) 燃料計

キーを《 入》にすると燃料の残量を表示します。《E》近くになったら早めに補給します。

(g) 水温計

キーを《 入》にするとエンジン冷却水温度を示します。

(h) 速度表示灯

タコメータが走行速度を示しているとき点灯します。

(i) 燃料フィルタランプ（ ランプ）

燃料（プライマリ）フィルタに水が溜まると点灯します。ランプが点灯したときは「**水抜き**」を行います。(70ページ参照)

(j) 駐車ブレーキランプ

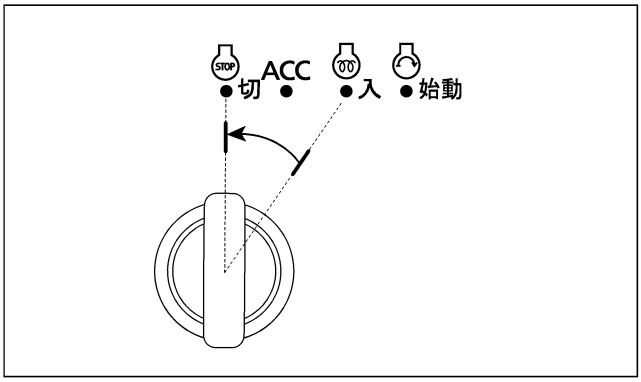
駐車ブレーキスイッチが《**入**》の時に点灯します。

❷ エンジン停止のしかた

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆トラクタを使用しない時はキーを抜いておいてください。

(1) エンジンコントロールレバーを手前に(《 》側）引いてエンジンを低速回転にします。

(2) スタータスイッチを《 切》にすると，エンジンが停止します。

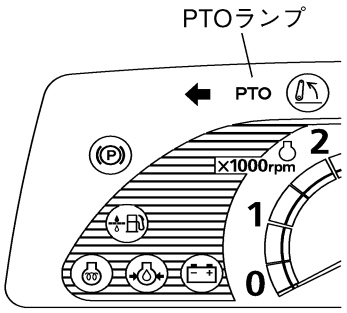


2．発進・走行のしかた

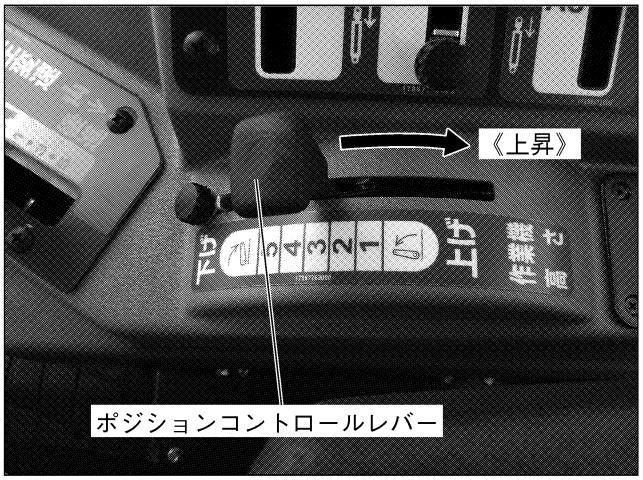
❶ 発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

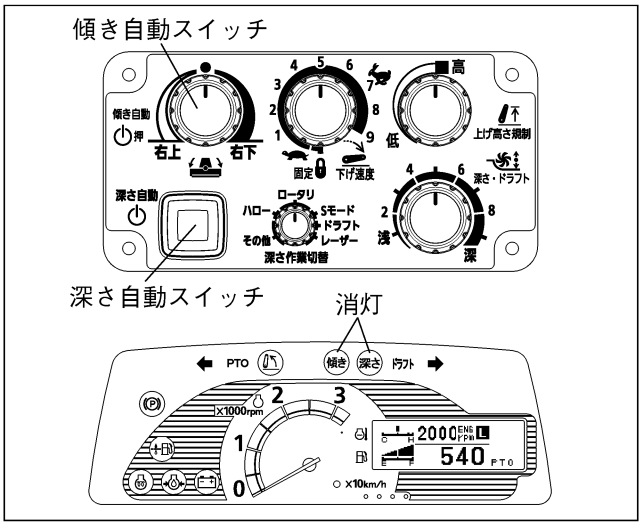
◆発進する時は主変速レバー（走行レバー）をゆっくりと操作してください。急に操作すると急発進して事故の原因になります。
◆高速走行時は急なハンドル操作を行わないでください。
◆後進，前進の切替えは，機械を一旦停止させてから行ってください。
◆後進は，エンジンの回転を下げて，後方を確認してから行なってください。
◆PTO切替スイッチを《切》にし，PTOランプが消灯している事を確認します。



(1) ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き，作業機を持上げます。

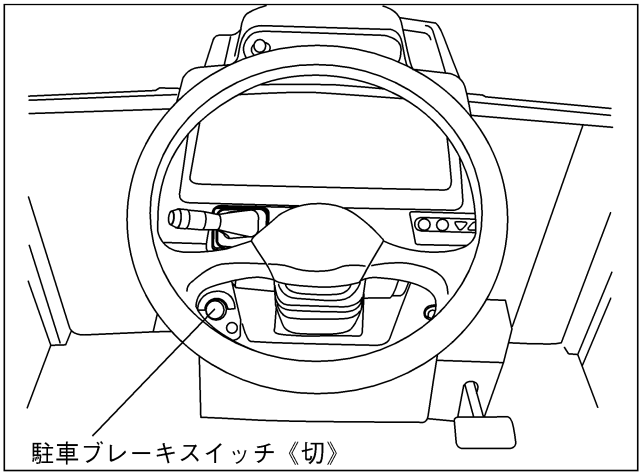


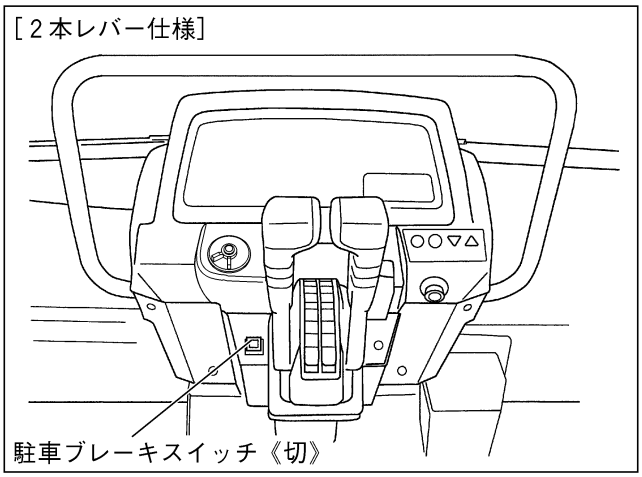
(2) 傾き自動，深さ自動を《**切**》にし，「**傾き**」「**深さ**」ランプが消灯していることを確認します。



(3) エンジン回転を約1,500rpmにします。

(4) 駐車ブレーキスイッチを《**切**》にします。

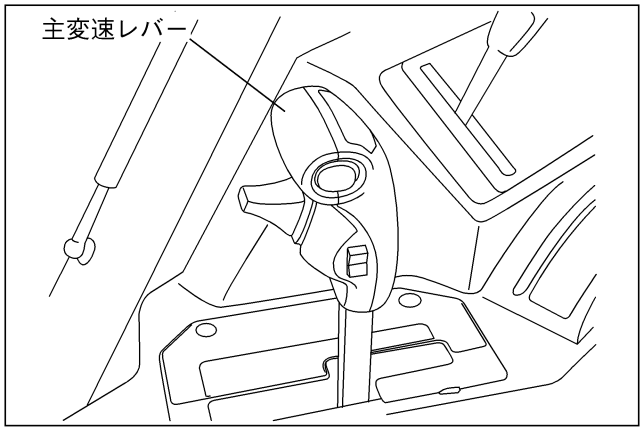




(5) 副変速スイッチで**H**《**高速**》，**L**《**低速**》を必要に応じて切替えます。

(6) 主変速レバー（走行レバー）をゆっくり動かして，発進します。

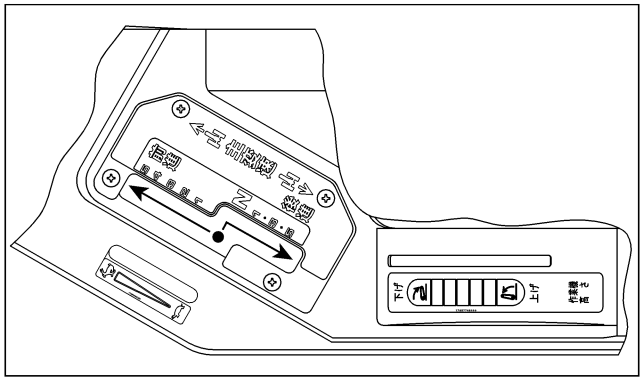
(a) 主変速レバー



・レバー操作により前進，後進共に無段階で変速できます。
・[N] 位置が中立位置で，トラクタの停止，エンジンの始動ができます。
・[1] で発進し，[5] で最高速度となります。
・前進,後進を切り替える時は,レバーを一旦 [N] 位置にして機械を停止させ，前進または後進側へレバーを動かします。

取扱いのポイント

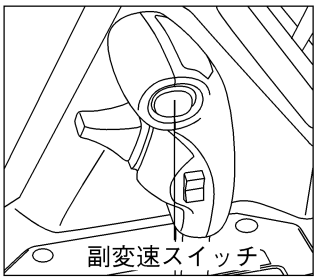
●本トラクタはクラッチペダルがありません。主変速レバーはノークラッチで変速できます。

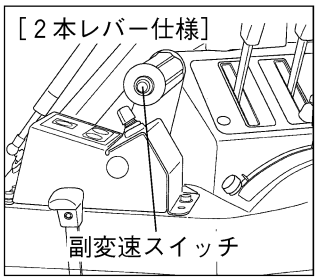


(b) 副変速スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆「高速走行時」に急な旋回操作はしないでください。
◆《H》高速⟷《L》低速の車速切替をするときは車両を停止させてから行なってください。





スイッチを押すたびに《**H**》(**高速**) ⟷《**L**》(**低速**) を切替えます。
・トラクタの走行速度を《**高速走行**》,《**低速走行**》に切替えます。
・《**H**》(**高速**) ・主変速レバーを [1] ～ [5] (走行レバーを [1] ～ [3]) の範囲で操作すると，0～17)km／hの速度で走行します。
(液晶パネル「**H**」表示)
・《**L**》(**低速**) ・主変速レバーを [1] ～ [5] (走行レバーを [1] ～ [3])の範囲で操作すると，0～10km／hの速度で走行します。
(液晶パネル「**L**」表示)

取扱いのポイント

● [２本レバー仕様] は左右の走行レバーが《中立》位置の場合のみ副変速スイッチの切替え操作ができます。エンジン始動時は《L》(低速) 状態となります。

(c) 走行レバー [２本レバー仕様]

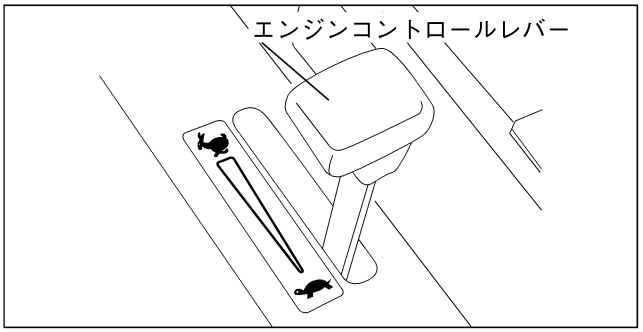
・走行レバーの取扱いは10ページを参照してください。

(d) エンジンコントロールレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンコントロールレバーを急激に操作しないでください。急発進や急減速の原因となります。

レバーを《🐇》方向に操作すると高速となり，《🐢》方向に操作すると低速になります。



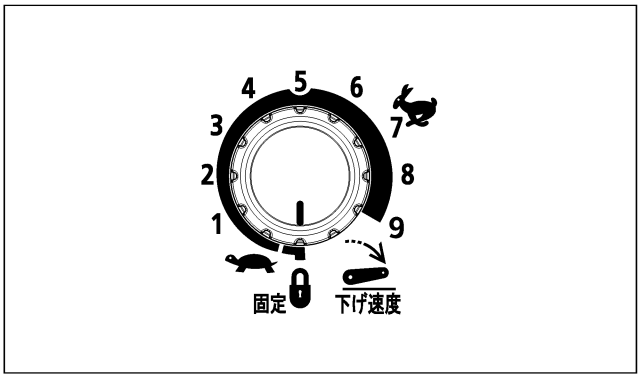
❷ 走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

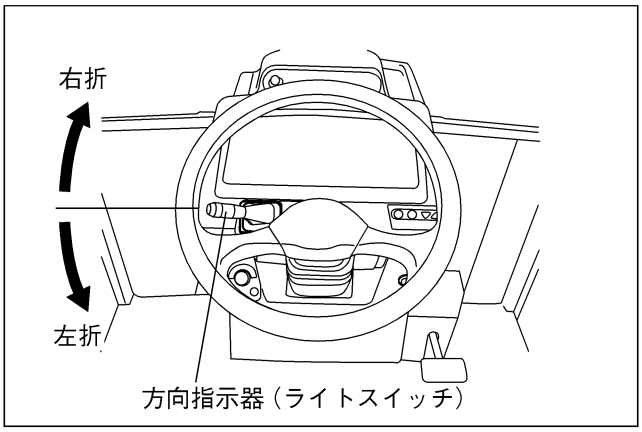
◆公道を走行する時は，運転免許証を携帯し，交通法規を守り，安全のためヘルメットを着用してください。
- 作業機を装着しない。
- 公道では低速車線を走行する。

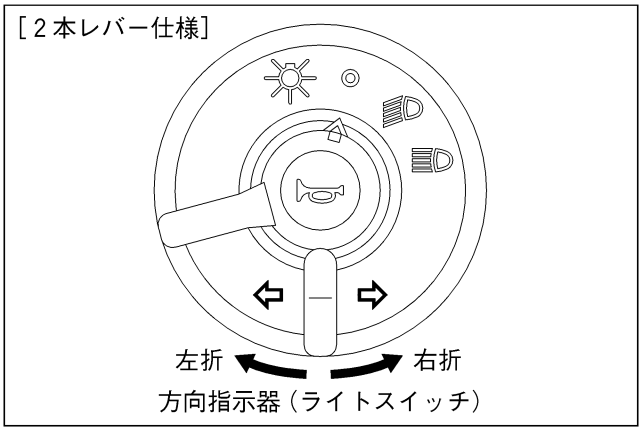
◆公道を走行する時は，シートを正面に固定してください。
◆運転者の他に子供等，人や物をのせないでください。
◆走行時には傾き自動，深さ自動を《切》にして走行してください。
◆リフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》にして作業機の落下を防止してください。
◆急激な変速をしないでください。主変速レバー（走行レバー）の操作はゆっくり行ってください。
◆発進・旋回，傾斜地，荒地では低速にし，傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。
◆走行中は，緊急停止ブレーキペダルに足を置いたり主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
◆重い作業機を装着すると，思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。
◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。
◆進路変更する時は，方向指示器スイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。
◆バックミラーで後続車を確認し，追越しの妨害にならないようにしてください。
◆夜間走行時，対向車とすれ違うときは，前照灯を下向きにし，対向車の妨害にならないようにしてください。

(1) リフトアーム下げ速度ボリュームを《**固定** 🔒 》(**油圧ロック**) 位置まで回します。



(2) 前項の［❶ **発進のしかた**］を参照して機械を発進させます。
  (1) 目視とバックミラーで後方から走行車両，歩行者が，接近していないことを確認します。
  (2) 道路で発進する場合は方向指示器で発進の合図をします。





(3) 交通法規を遵守し，安全運転で走行します。

3．停止・駐車のしかた

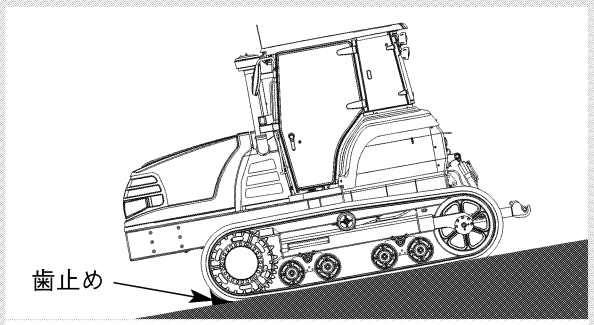
❶ 停止のしかた

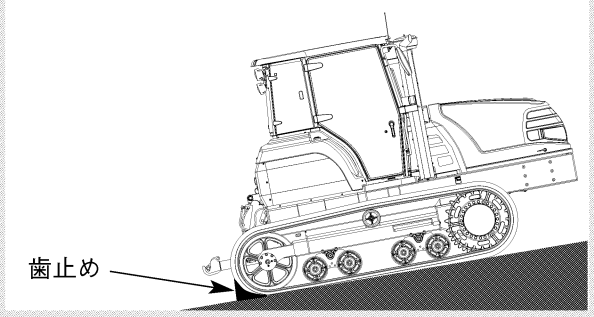
⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。

◆駐車・停車時には駐車ブレーキスイッチを《入》にしてください。

◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は，主変速レバー（走行レバー）を《N》(中立）に入れ，駐車ブレーキスイッチを《入》にし，エンジンを停止しクローラに歯止めをしてください。





◆作業機をおろす時はトラクタ，作業機の周囲に子供等，人を近づけないでください。

◆トラクタを離れる場合は，キーを抜取ってください。

⚠警告 火災防止のために

◆トラクタを停止するときは，乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると，火災のおそれがあります。

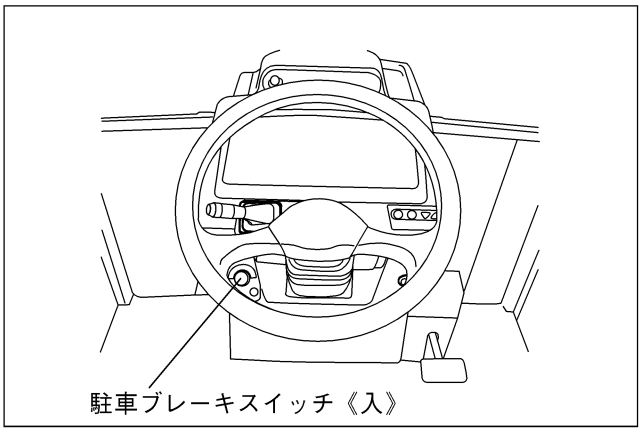
◆停車時，エンジンを空吹かししたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火することがあります。

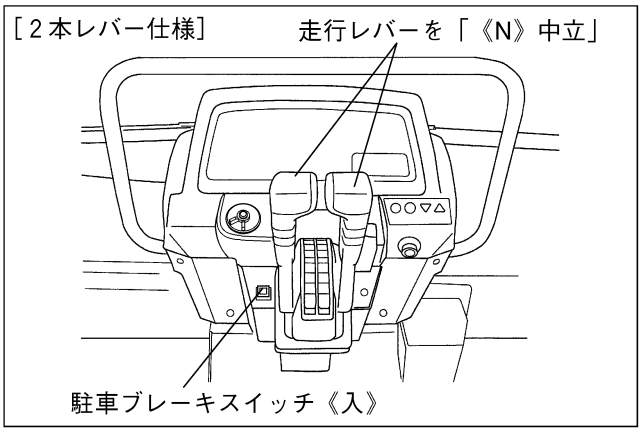
⑴ 主変速レバー（走行レバー）を「《N》(中立)」までゆっくりと動かします。

⑵ エンジンコントロールレバーを手前に（《🐢》側）に引いて，エンジンを低速回転にします。

⑶ トラクタが完全に停止したら駐車ブレーキスイッチを《**入**》にします。

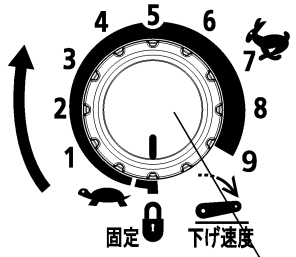






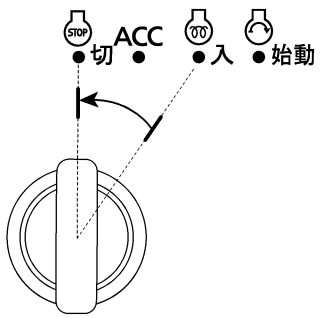
⑷ PTO切替スイッチを押して，作業機の動力を《**切**》にします。PTO変速レバーを「《**N**》**中立**」にします。

⑸ リフトアーム下げ速度ボリュームを《 》方向に回して，ポジションコントロールレバーをゆっくり《**下げ**》にして作業機をおろします。



リフトアーム下げ速度ボリューム

⑹ キーを《 **切**》にします。



取扱いのポイント

- **作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず，アイドリング回転で５分間ほど回転させてください。**
  すぐ停止させますと，エンジンの冷却が悪くなり，寿命を縮めます。

４．自動車への積込み・積降ろし

⚠警告 傷害事故防止のために

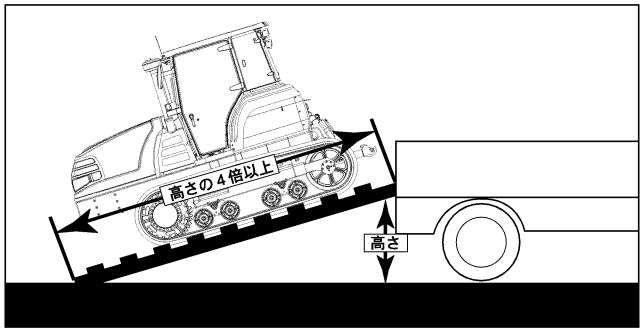
- ◆補助者の立会い，誘導のもとに行います。
- ◆機体の直前・直後には人を近づけないで下さい。
- ◆トラクタの周囲に子供等，人を近づけないでください。
- ◆アユミは，充分な強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用してください。
- ◆トラクタの重量で，アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
- ◆アユミのフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
- ◆アユミの上での，変速操作をしなくてもいいように，クローラをアユミに，真っ直ぐにのせてください。
- ◆自動車への積込み，積降ろし中は，変速レバー（走行レバー）は操作しないでください。急に方向転換したり転落するおそれがあります。
- ◆積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行い，必要以上の旋回操作はしないでください。
- ◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
- ◆トラックで輸送する時はクローラに歯止めをかけて固定してください。

⑴ 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を「**１速**」か「**バック**」に入れて駐車ブレーキをかけ，歯止めをします。

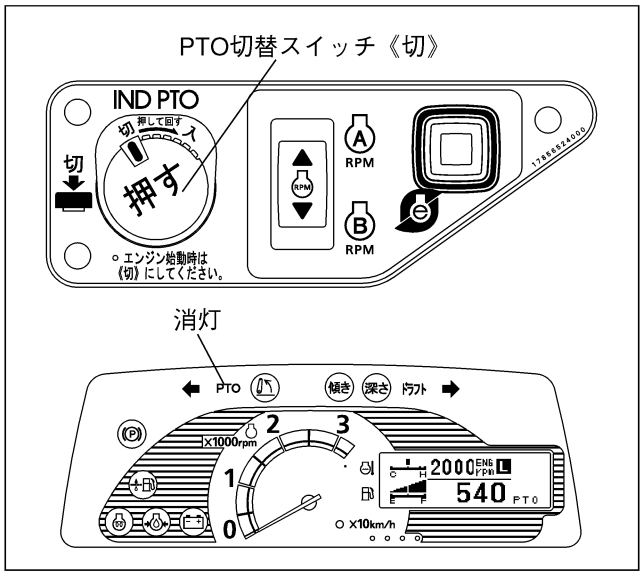
⑵ アユミは，充分な強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用し，トラクタのクローラの間隔に合わせ荷台に対し真っ直ぐにかけます。

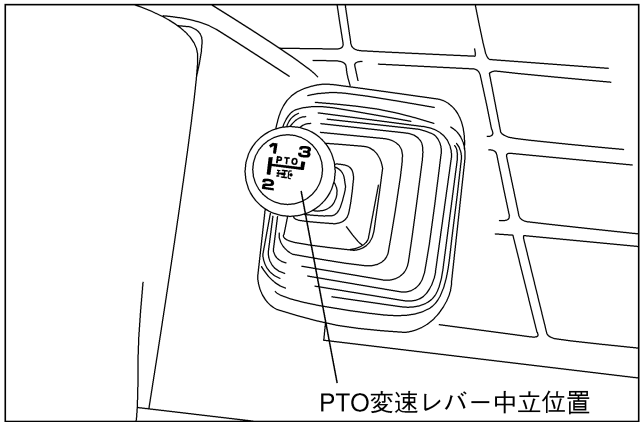
アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの 4 倍以上
幅	70㎝以上
数量	2 枚
強度	1 枚が3,600㎏以上の重量にたえるもの

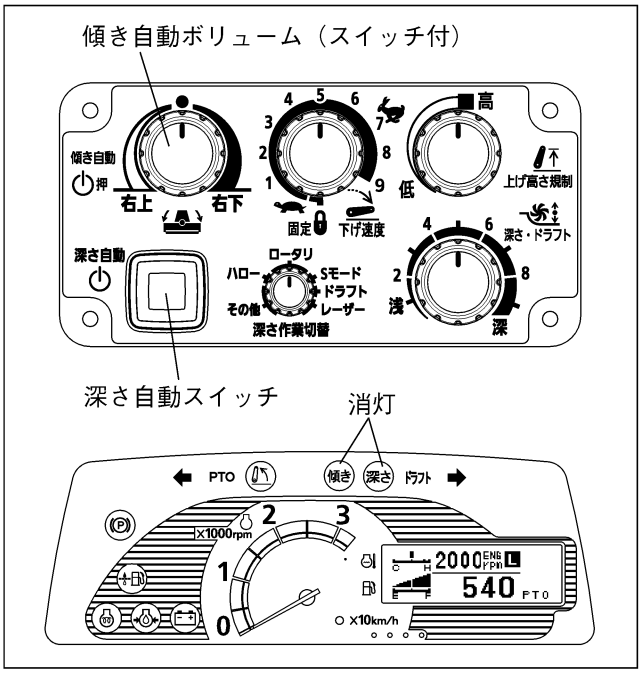


(3) PTO切替スイッチを《**切**》にしてPTO変速レバーを**中立位置**にし「**PTOランプ**」が消灯していることを確認します。

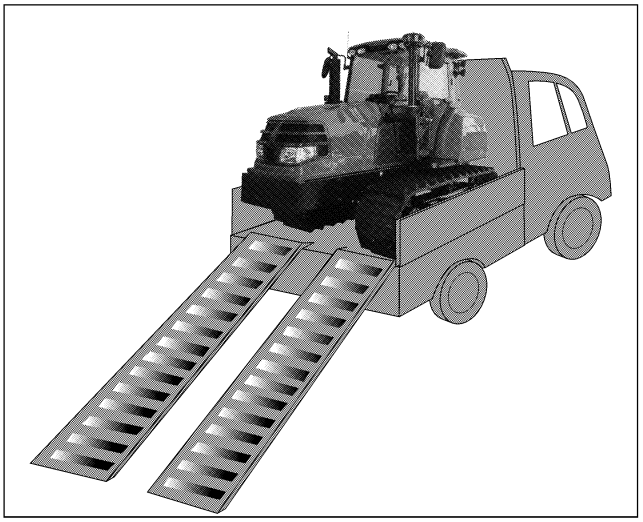




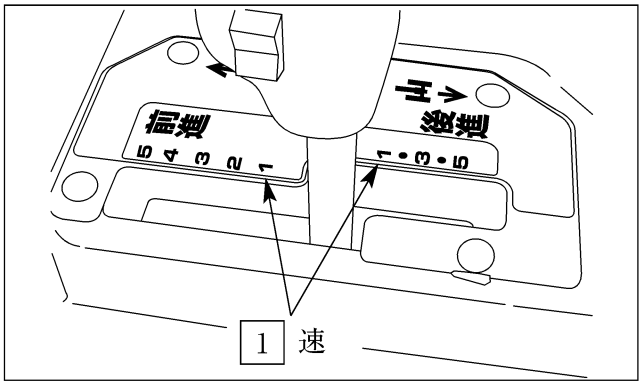
(4) 傾き自動ボリューム（スイッチ付），及び深さ自動スイッチを《**切**》にし，「**傾きランプ**」「**深さランプ**」が消灯していることを確認します。



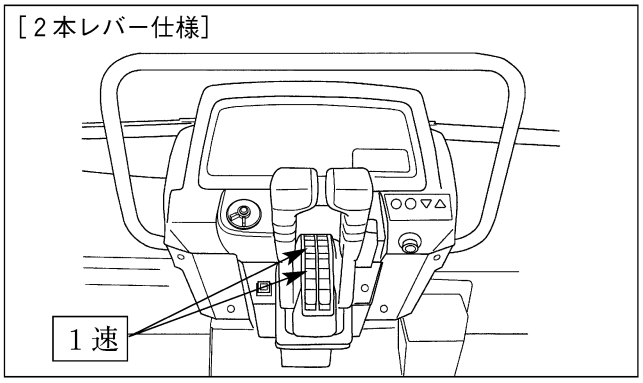
(5) トラクタのクローラとアユミを一直線上に合わせ，作業機をいっぱいに上げます。



⑹ エンジン回転数を1500rpmにセットし，主変速レバー（走行レバー）は 1 速，副変速は《L》(低速)，積込みは後進，積降ろしは前進で行います。

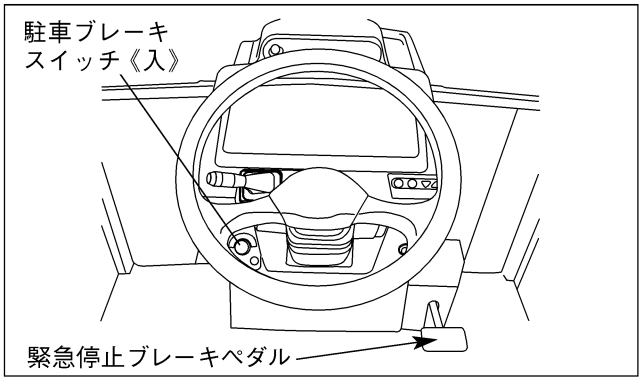


［２本レバー仕様］

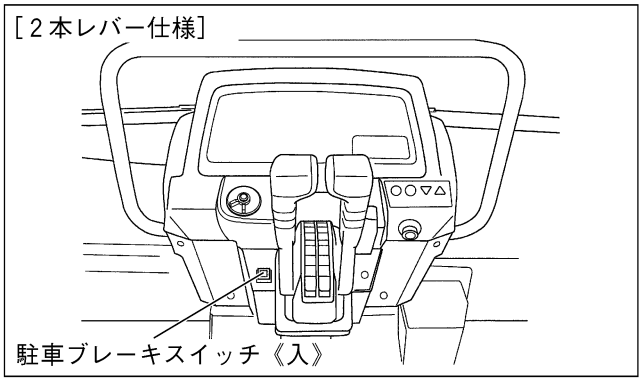


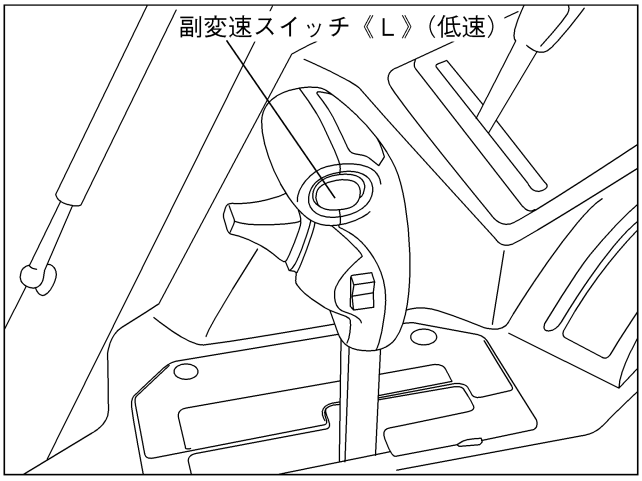
⑺ 旋回操作は小さく慎重に行います。

⑻ 積込み後は，駐車ブレーキスイッチを《入》にして作業機を降ろし，エンジンを停止し，ロープ等でトラクタを固定します。

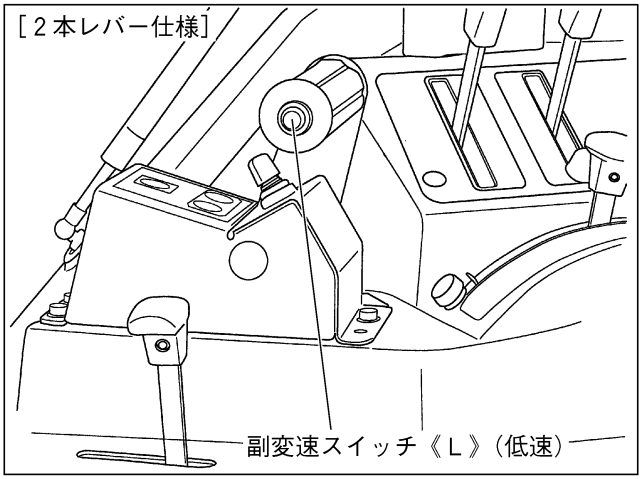


［２本レバー仕様］





［２本レバー仕様］



5．坂道での運転のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆下り坂では，急停止，急旋回はしないでください。
◆下り坂では主変速レバーを「《N》(中立)」にしたままで走行しないでください。
◆坂道では急な変速をしないでください。
◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキスイッチを《入》にして歯止めをしてください。

⑴ 坂道では，速度を落として走行します。

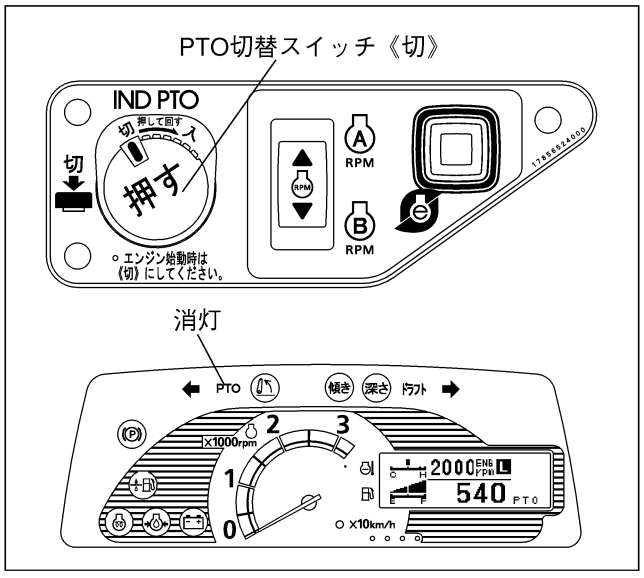
⑵ 坂の途中で，急な変速操作を行わないようにします。急に速度が変わり，機械の安定性が損なわれる可能性があります

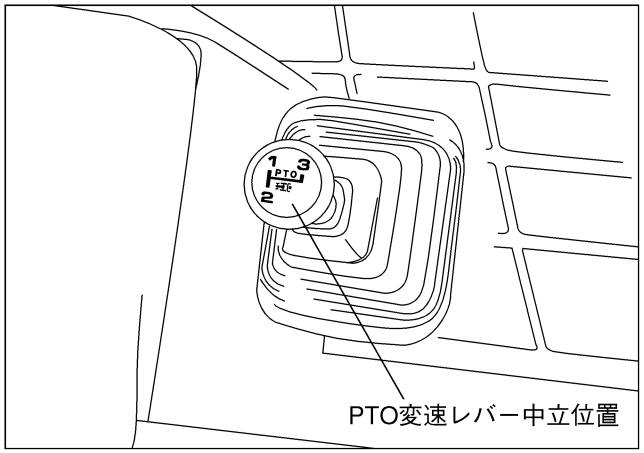
6．ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

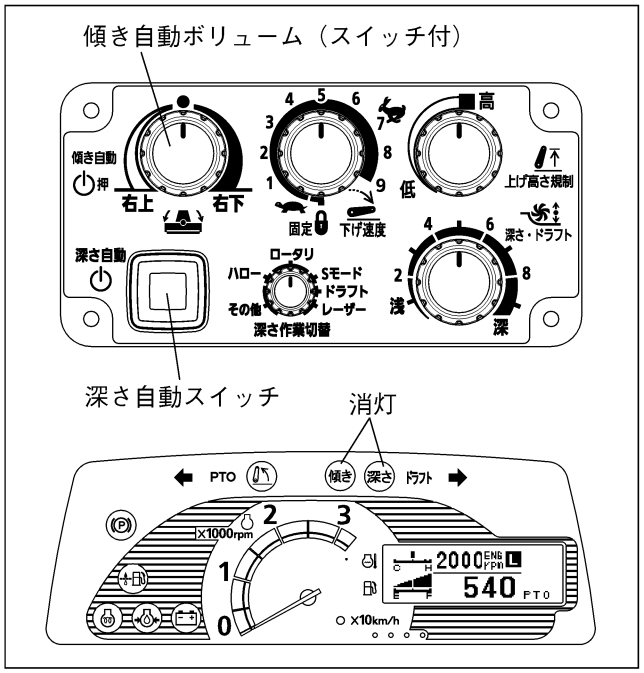
◆ほ場への出入りや，あぜ越えはPTO切替スイッチを《切》にして、PTO変速レバーを中立にしてください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えは低速で，あぜに直角に行なってください。
◆高あぜ，急傾斜，溝越えは，アユミを使用してください。
◆アユミの上では必要以上の旋回操作や変速はしないでください。
◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

(1) PTO切替スイッチを《**切**》にしてPTO変速レバーを**中立位置**にします。

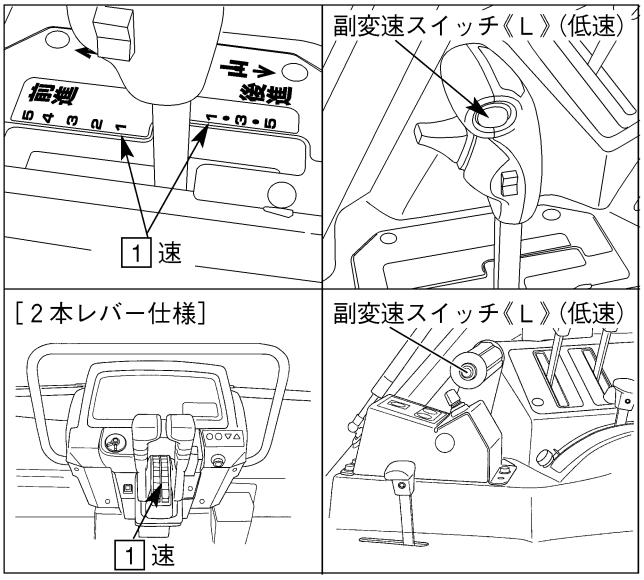




(2) 傾き自動ボリューム（スイッチ付），及び深さ自動スイッチを《**切**》にし，「**傾きランプ**」「**深さランプ**」が消灯していることを確認します。



(3) 主変速レバー（走行レバー）は 1 速，副変速スイッチ《**L**》(**低速**)，で行います。



(4) 機械後方に作業機を装着して、後進で上がる時は，作業機をいっぱい上げて行います。

(5) ほ場への出入りの際は，エンジン回転を1500 rpmにセットして途中で変速しないようにします。

7．ゴムクローラの取扱い

⑴ 油類の付着防止

ゴムクローラに燃料，オイルが付着した場合は直ちに拭き取ってください。
作業対象材料で，つぶれて油があるもの（大豆，トウモロコシなど）での作業は使用後水洗いしてください。

⑵ 急旋回の禁止

摩擦係数の高い路面（コンクリート面など）での急旋回は避けてください。ラグ，芯金の摩耗を早めます。

⑶ 屋内保管

長期保管（３ヶ月以上）するときは，できるだけ直射日光や雨がかからない屋内に保管してください。

⑷ 使用上の注意

・外れ防止のため常に適切な張りで使用してください。
・あぜや縁石などの段差のある場所での旋回は避けてください。段差を乗り越すときは，段差に対して直角に乗り越えてください。
・登坂するときは，平坦地から傾斜地の通過地点での旋回は避けてください。
・法面または凸地に片側上げ（車体傾き約10°以上），片側平坦地での走行姿勢は避けてください（プラウの溝引き作業は破損の原因となります。）ゴムクローラを傷めないために両側共，同一面で走行してください。
・塩分により芯金の接着が侵されるので海岸使用などは避けてください。
化学薬品や融雪剤などの付着も芯金を傷めます，使用後水洗いしてください。
・積雪，凍結路面では非常にスリップしやすくなります。法面走行や傾斜地での作業はスリップに注意してください。
・極寒地での作業はゴムクローラの材質が変化し寿命を縮めます。－20℃～55℃の範囲で使用してください。

⑸ 初期伸びについて

新車時，又はクローラ交換直後は初期のびをするので，始業時には張りの調整を行ってください。（20時間程度）

作業のしかた

1．ほ場作業のしかた

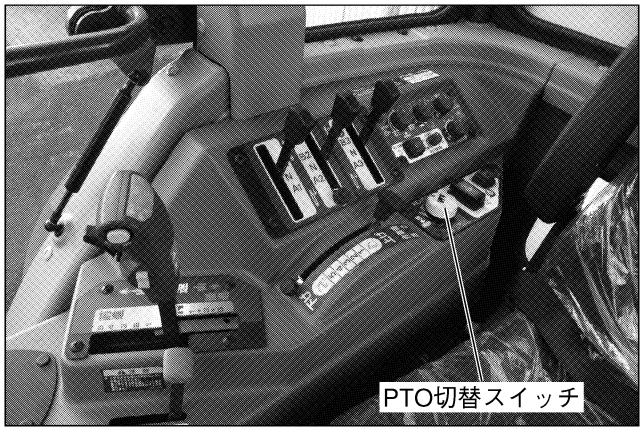
1．PTOの取扱い

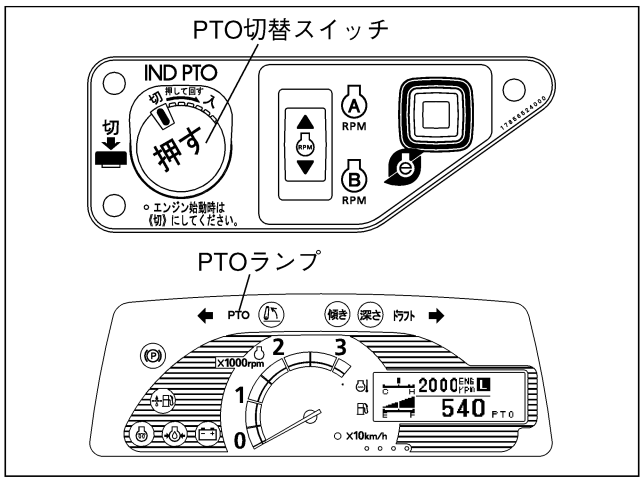
❶ PTO切替スイッチ

走行変速とは独立してPTO回転の《**入**》《**切**》ができます。

・PTO回転を《**入**》の状態にする時はPTO切替スイッチを押して矢印方向に回してください。この時PTOランプが点灯します。

・PTO回転を《**切**》の状態にする時はPTO切替スイッチを押してください。





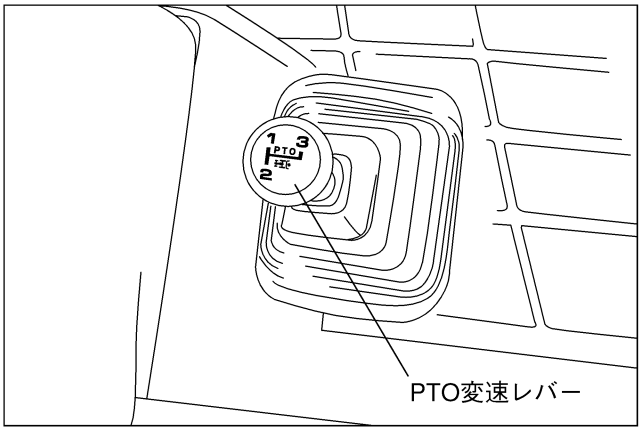
取扱いのポイント

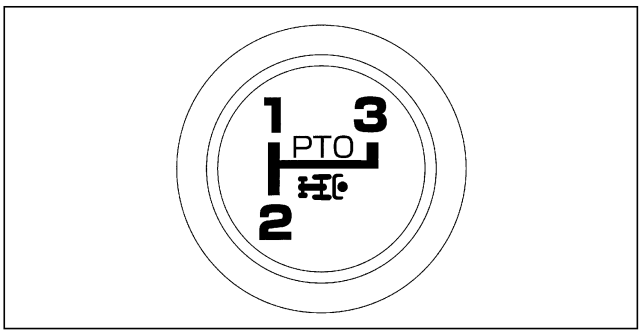
- エンジン始動時はPTO切替スイッチを《切》にしてください。
- PTO切替スイッチを《入》《切》にする時はエンジン回転を低回転（1200rpm以下）にしてください。

❷ PTO変速レバー

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆PTO切替スイッチを《入》のままで，PTO変速レバーを動かさないでください。PTOシャフトが急に動いて，巻込事故の原因になります。まずPTO変速レバーを変速位置にシフトしてから，PTO切替スイッチを《入》にしてください。

PTO（動力取出部）シャフトの回転速度を3段階に変速します。





取扱いのポイント

- PTOの変速はPTO切替スイッチを《切》にして変速してください。

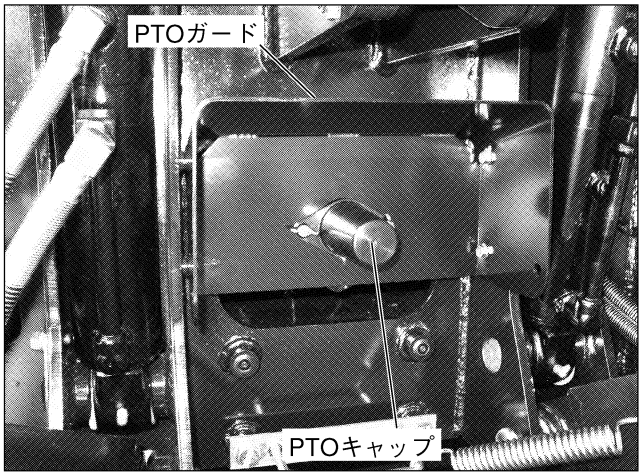
❸ PTOキャップ

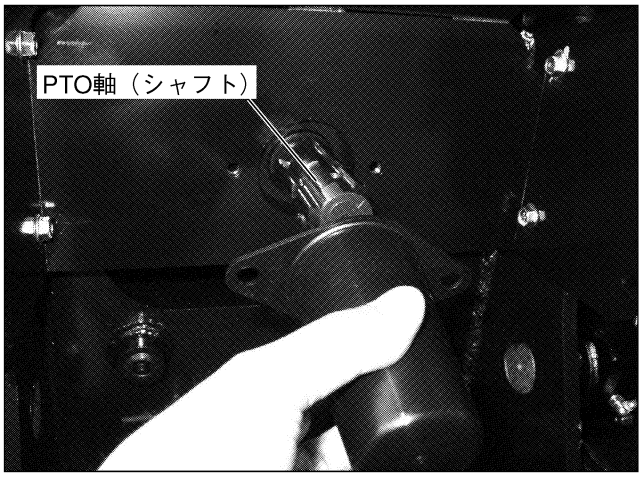
⚠警告 傷害事故防止のために

◆PTO軸を使用しない時は，PTOキャップを取付けてください。PTOキャップを取付けないで作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。

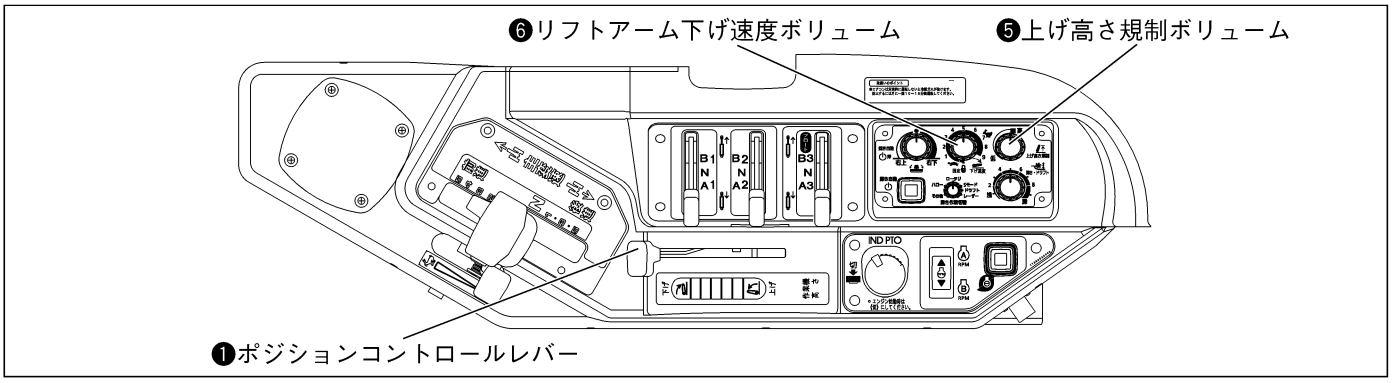
◆PTOガードを取外さないでください。

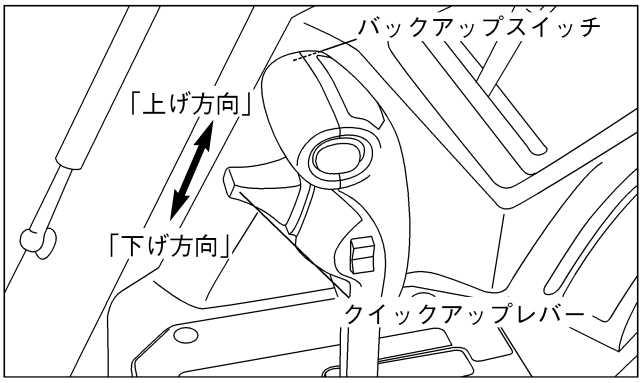
PTOを使わない時は，PTO軸にグリスを塗布し，PTOキャップを取付けておきます。

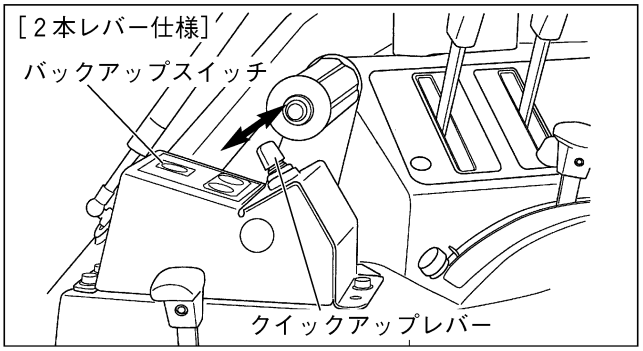




2．ポジションコントロールレバーの取扱い







❶　ポジションコントロールレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ポジションコントロールレバーを操作する時は，上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタを破損し，傷害事故になることがあります。

ポジションコントロールレバーは作業機の位置（高さ）を自由に決め，一定に保つことができます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

・ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。
・ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると，作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

❷　下げ位置規制

ポジションコントロールレバーで作業機の下げ位置を一定に規制することができます。

・作業機の下げ位置をポジションコントロールレバーで決め，下げ位置規制ノブをゆるめポジションコントロールレバーを止めたい位置までずらして締めます。



❸　クイックアップレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園，ハウス内などでクイックアップレバーを使用しないでください。またバックアップスイッチは《切》にしてください。（BACK UP表示が消灯します。）
作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり，作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。

◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタを破損し，傷害事故になることがあります。

クイックアップレバーでは，クイックアップ機能・ビットアップ機能の操作を行います。

⑴ クイックアップ機能

クイックアップレバーを「**上げ方向**」に操作すると作業機が上昇し，「**下げ方向**」に操作すると作業機が下降します。尚，操作時には“ピッ”とブザー音がします。

取扱いのポイント

- **クイックアップレバーの操作は，上げ，下げ方向に軽く行ってください。**
- **クイックアップレバーで作業機を下げる場合，ポジションコントロールレバーの位置で下げ位置を規制することができます。**

⑵ ビットアップ機能（《**0.3秒**》**設定時**）

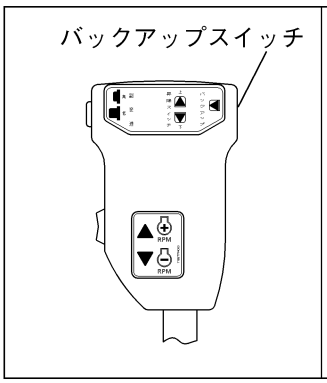
クイックアップレバーを「**上げ方向**」又は，「**下げ方向**」に微操作（**0.3秒以内**）すると作業機が操作時間だけ上昇又は，下降し位置の微調整が行えます。

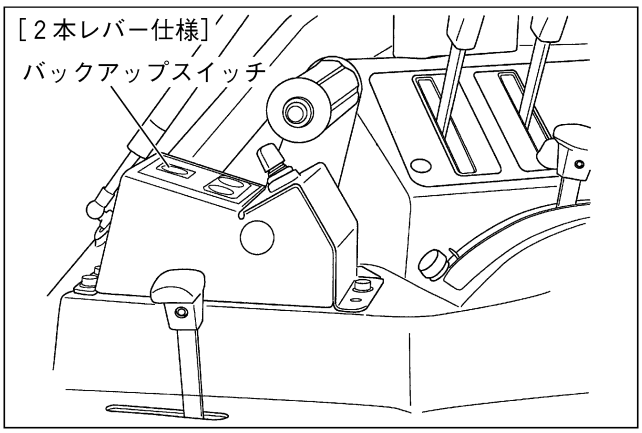
取扱いのポイント

- **《0.3秒》は，工場出荷時の設定値です。切，及び0.2～0.5秒の間で５段階設定できます。** MACビジョンの取扱い **を参照してください。**

❹ バックアップスイッチ

バックアップ機能はスイッチを押すたびに《**入**》⟷《**切**》を繰り返します。バックアップ機能が《**入**》の時はMACビジョンに《**BACK UP**》が表示され《**切**》の時は表示されません。





・バックアップ機能

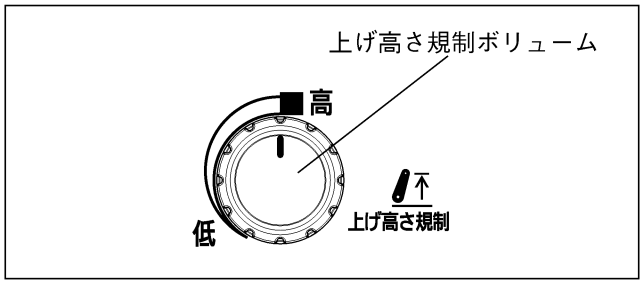
⑴ バックアップ機能が《**入**》の時，(BACK UP表示）主変速レバー（走行レバー）を《**後進**》に入れるとリフトアップランプ ⑩ が「**点灯**」し作業機が自動的に上昇します。

⑵ 作業機を下げる時は，クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。リフトアップランプ ⑩ が「**消灯**」となり作業機が下がります。

ポジションコントロールレバーで下げる場合は，レバーを一度最上げにし，その後レバーを下げることにより，作業機が下がります。

❺ 上げ高さ規制ボリューム

上げ高さボリュームで作業機の最上げ位置を規制することができます。



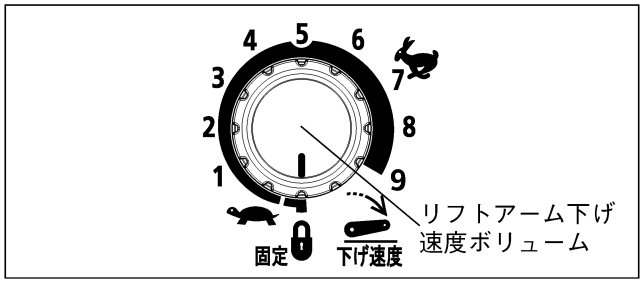
❻ リフトアーム下げ速度ボリューム

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機を上げて，整備・点検・掃除を行う時は，エンジンを停止しリフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下げ》の方向にゆっくり動かして，作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。

◆移動走行時はリフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》にしてください。

リフトアーム下げ速度ボリュームは右サイドパネルにあります。ボリュームを回すことで作業機の降下速度が調節できます。



リフトアーム下げ速度ボリューム	降下速度
《🐢》側に回す	遅くなる
《🐇》側に回す	速くなる
《固定 🔒 》位置	固定される

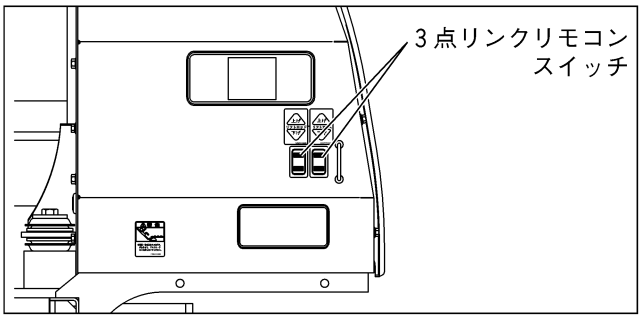
・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。

❼ 3点リンクリモコンスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機着脱時に3点リンクリモコンスイッチを操作する場合はトラクタと作業機の間，またはトラクタ後方で行わないでください。守らないと，作業機と接触して，傷害事故を起こすことがあります。

◆作業機装着時に3点リンクリモコンスイッチで作業機を上昇させる場合，作業機の種類によりリヤウインドウを破損し傷害事故になる恐れがありますので，作業機の位置を確認しながら操作してください。



3点リンクリモコンスイッチは，右側後方にリフトアーム及びリフトロッド，左側後方にはリフトアームのスイッチがあります。作業機装着時に使用してください。

このスイッチには安全機能が付いています。スイッチを操作後に作業機が動かない場合は下記の解除方法を参照し，安全機能を解除します。

(1) **リフトアームスイッチ**

作動させるとリフトアップランプがゆっくり点滅します。

《**上げ**》……作業機が上がります。

《**下げ**》……作業機が下がります。

・解除方法

リフトアームの位置とポジションコントロールレバーの位置を一致させると解除します。

(2) **リフトロッドスイッチ**

作動させると傾き自動ランプが点滅します。

《**上げ**》……リフトロッドシリンダが縮みます。

《**下げ**》……リフトロッドシリンダが伸びます。

・解除方法

作業機を最上げにすると解除します。

取扱いのポイント

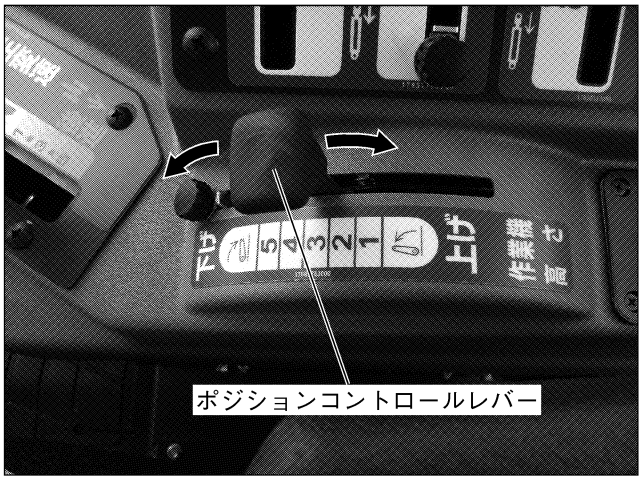
- スイッチ操作時は通常のマイコン制御時よりゆっくり動作します。
- リフトアームが最上げになっているとリフトロッドスイッチは作動しません。

❽　エンジン始動時の安全機能

エンジン始動時，作業機が急に上下しない為の機能です。エンジン始動後，ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが“ピッ，ピッ，ピッ”と鳴り一致点に近づくにしたがって，ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致です。その後ポジションコントロールレバーで作業機を上げ下げできます。

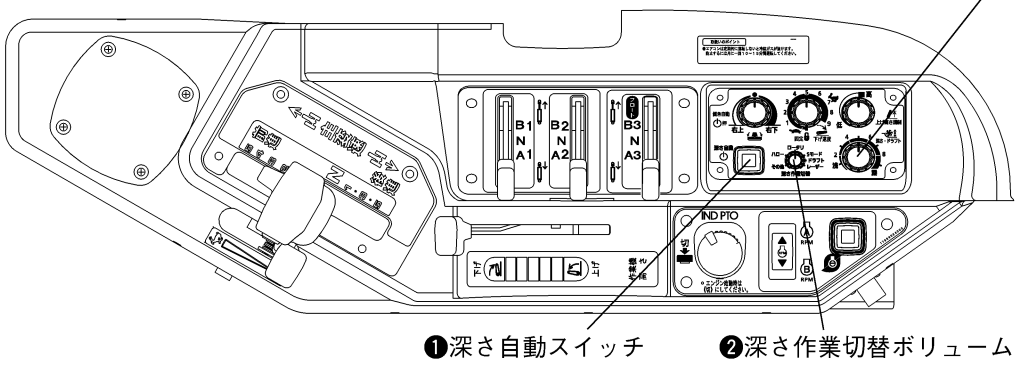
取扱いのポイント

- ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。



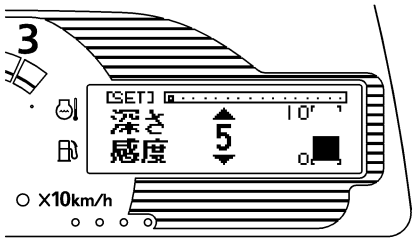
3．深さ自動の取扱い

［サイドパネル］

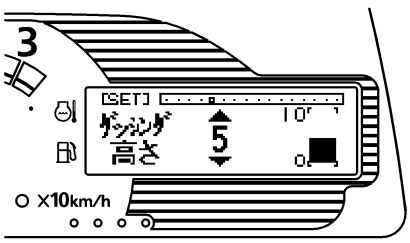


［液晶パネル部］

❹深さ感度調整機能



❺ダッシング高さ調整機能



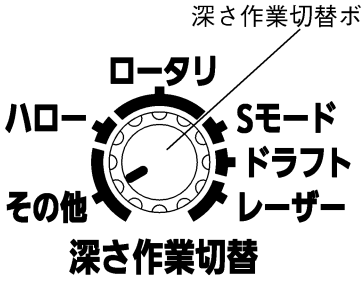
❶ 深さ自動スイッチ

深さ自動を《**入**》⟷《**切**》するスイッチです。うね立て作業等，深さ自動を使用しないときはこのスイッチを押して《**切**》にします。
スイッチ内のランプとパネルの 深さ ランプが消灯します。

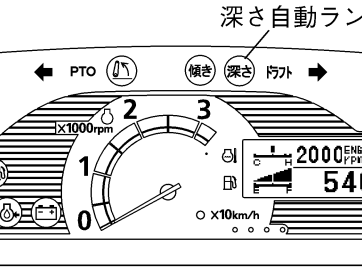
> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆ほ場以外では，深さ自動を《切》（深さ自動ランプ消灯）にします。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

❷ 深さ作業切替ボリューム

トラクタに取付けた作業機，作業方法に応じてこのボリュームを切り替えてください。このボリュームで指定した作業機，作業方法に最適の深さ制御を行います。
ボリュームの位置により次のような制御となります。



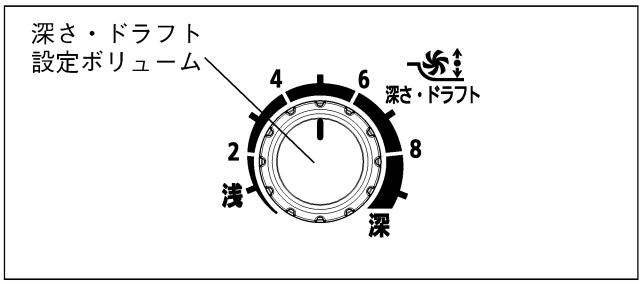
No.	作業(機)名称	作業(制御)名称
(1)	その他	(2)～(6)の作業(機)以外での作業。
(2)	ハロー	駆動型ハローでの作業。
(3)	ロータリ	ロータリでの一般作業。
(4)	Ｓモード	Sモード自動制御が作動します。
(5)	ドラフト	ドラフトキット（オプション）での自動作業。
(6)	レーザー	レーザーキット（オプション）での自動作業。



❸ 深さ・ドラフト設定ボリューム

ロータリの耕深量の調整は深さ・ドラフト設定ボリュームによって行います。

・《4》～《6》位置……120～140㎜の耕深を維持します。
・《浅》へ回す……耕深が浅くなります。
・《深》へ回す……耕深が深くなります。

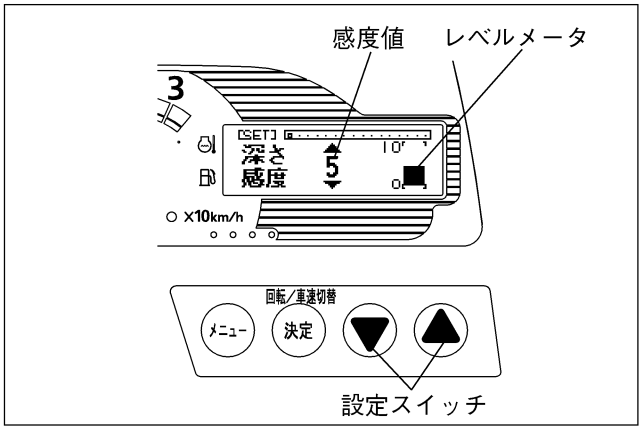


❹ 深さ感度調整機能

メータパネルのMACビジョンで深さ自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて調整することができます。（感度値 0 ～10：11段階）

・《0～3》…浅耕・除草などの作業に適します。
・《4～6》…通常の作業に適します。
・《7～10》…しろかき作業などに適します。

仕上りを確認しながら，ほ場条件によって切替えます。



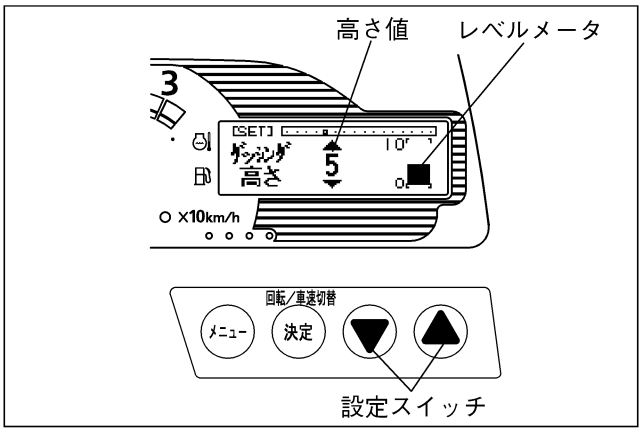
取扱いのポイント

●深さ感度の調整は MACビジョンの取扱い を参照します。

❺ ダッシング高さ調整機能

メータパネルのMACビジョンでほ場条件，作業条件によってダッシング高さが調整できます。（ダッシング高さ値 0 ～10：11段階）

高さ値が高くなるのに従い，ダッシング防止効き始め位置が高くなります。



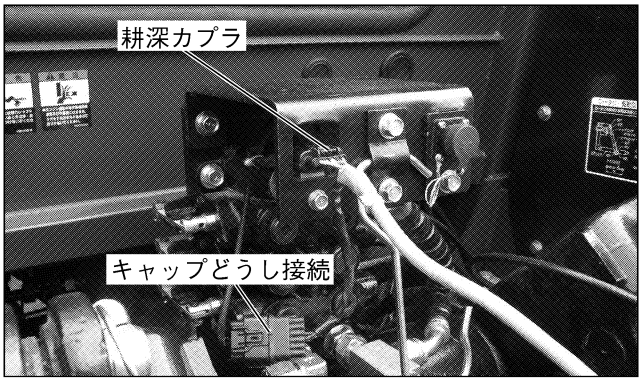
取扱いのポイント

●ダッシング高さの調整は MACビジョンの取扱い を参照します。

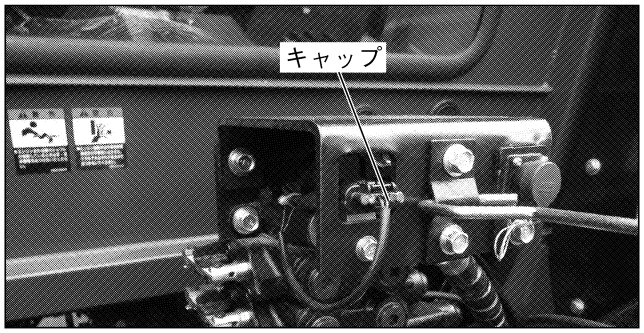
❻ 耕深カプラ

耕深カプラの接続状態によりつぎのようになります。（深さ自動《入》の時）

・キー《 入》時に接続してある
……深さ自動が作動します。
・キー《 入》時に接続してない
……深さ自動《切》になります。
・エンジン始動後に耕深カプラが外れた場合
……深さ自動ランプが点滅します。
・エンジン始動後に耕深カプラを接続した場合
……深さ自動スイッチを押して《入》にすると深さ自動が作動します。



・耕深カプラを外したときはキャップを被せておきます。



❼ Sモード機能

深さ作業切替ボリュームを《Sモード》位置に回すと，Sモード（深さ自動）が作動します。

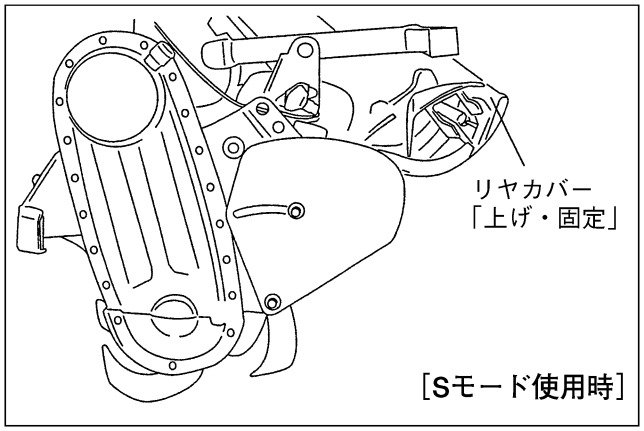


Sモードには次の２つの働きがあります。

・リヤカバーを上げて固定した作業

エンジン負荷率変化により作業機を上昇，下降させて深さを保ちますので，荒耕やうね盛耕等の作業に適します。

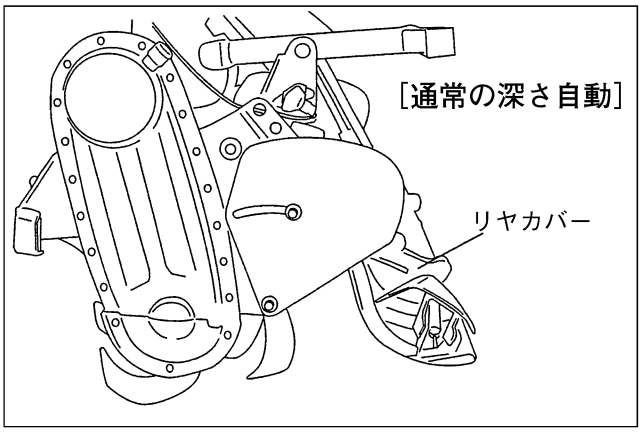
深さランプがゆっくり点滅します。



・リヤカバーをおろした作業

ロータリモード同様にリヤカバー位置により深さを保ちます。その時，エンジン負荷率が上がった場合作業機を自動的に上げますので，凹凸の多い所や土の硬さが変化する条件においてもエンストを防止することができます。

深さランプは点灯します。

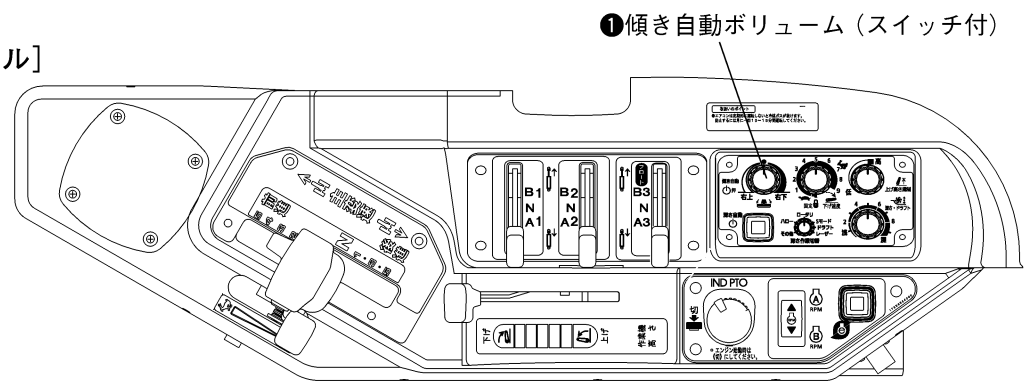


取扱いのポイント

- **深さはすべて深さ・ドラフト設定ボリュームで設定します。**

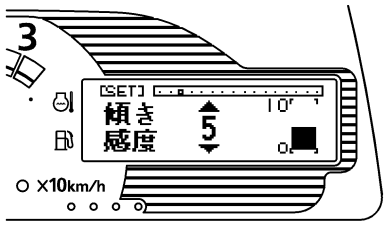
4．傾き自動の取扱い

［サイドパネル］

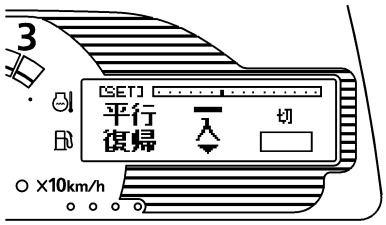


［液晶パネル部］

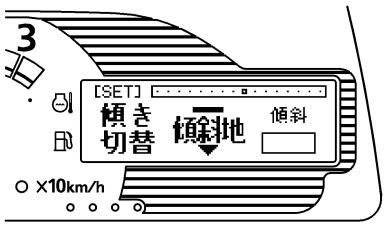
❷傾き感度調整機能



❸平行復帰切替機能



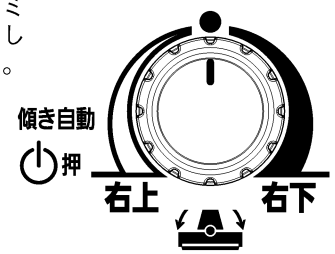
❹傾き切替機能



⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では傾き自動が《切》（傾き自動ランプ消灯）になるように傾き自動ボリューム（スイッチ付）を押します。守らないと，作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

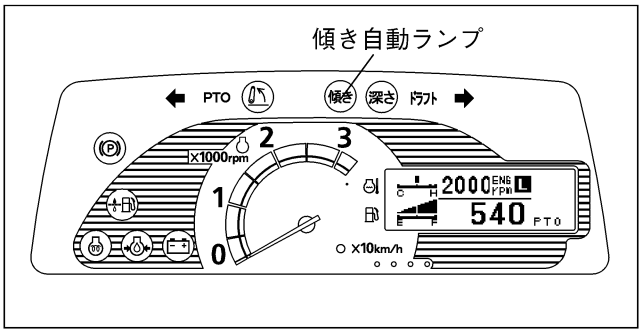
●傾き自動の入切はツマミの中央をおしてください。



❶ 傾き自動ボリューム（スイッチ付）

このボリュームはスイッチの機能もあり，⑴自動切替機能，⑵傾き設定機能があります。

⑴ **自動切替機能：**ボリュームの中央を押すたびに《**入**》⟷《**切**》を繰り返します。自動《**入**》の時はパネルの傾き自動ランプが点灯します。

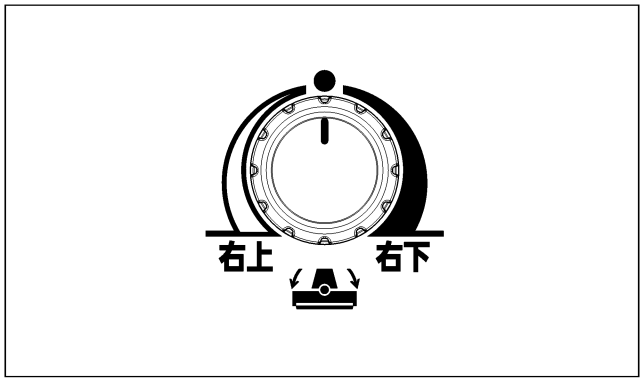


⑵ 傾き設定機能

● **傾き自動《入》の場合**

傾き設定ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

・《 ● 》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。
・《**右上**》……常に右上がりで保たれます。
・《**右下**》……常に右下がりで保たれます。

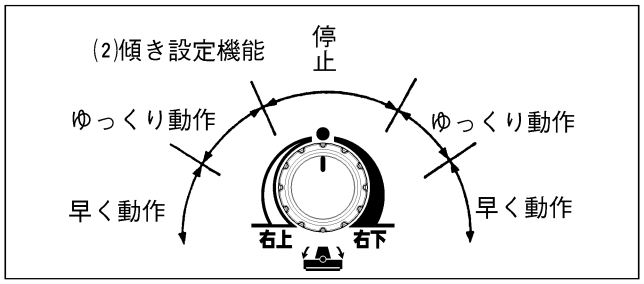


● **傾き自動《切》の場合**

リフトロッドシリンダの長さを変えたい時は，傾きボリュームの操作でシリンダを動作させてください。

・《 ● 》……リフトロッドシリンダは停止します。
・《**右上**》……リフトロッドシリンダは縮みます。
・《**右下**》……リフトロッドシリンダは伸びます。

動作させたい位置までシリンダが動いたら傾き設定ボリュームを《●》にして停止させます。

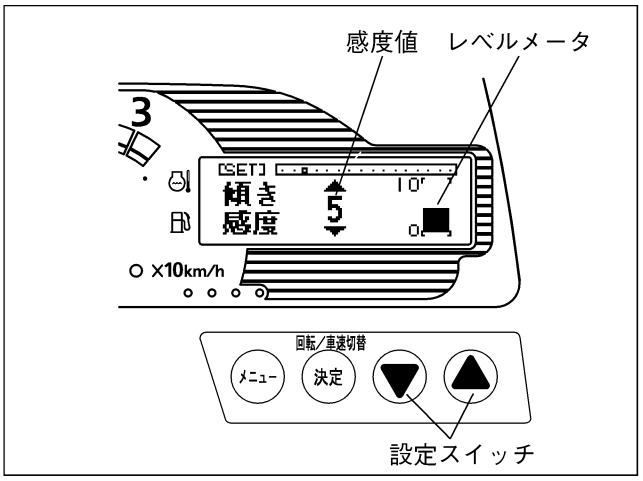


❷ 傾き感度調整機能

メータパネルのMACビジョンで傾き自動（リフトロッドの動作）の感度を作業スピードに応じて調整することができます。（感度値０～10：11段階）

・《**０～３**》…作業スピードの遅いものに適します。
・《**４～６**》…通常の作業に適します。
・《**７～10**》…しろかき作業などに適します。

仕上りを確認しながら，ほ場条件によりそのつど切替えます。



取扱いのポイント

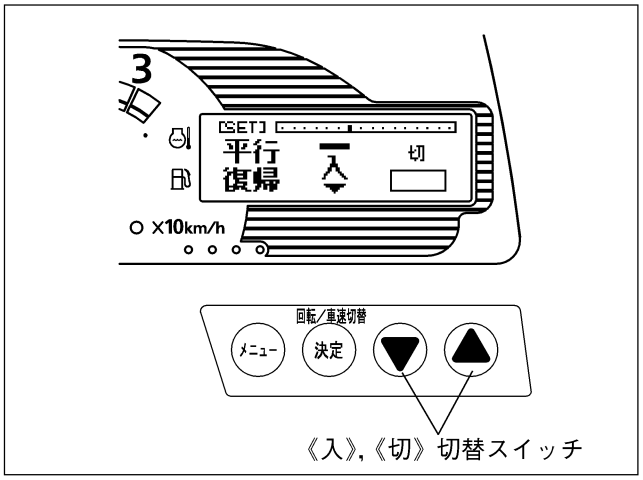
●傾き感度調整機能は MACビジョンの取扱い を参照します。

❸ 平行復帰切替機能

作業機を「**最上げ**」にすると自動的に本機と平行になる機能があります。(平行復帰機能)

- 傾き自動が《**入**》(**傾き自動ランプ点灯**)の時は，平行復帰切替機能の《**入**》,《**切**》に関係なく作業機を「**最上げ**」にすると，自動的に本機と平行になります。
- 傾き自動が《**切**》(**傾き自動ランプ消灯**)の時は，平行復帰切替機能の《**入**》,《**切**》操作により平行復帰切替機能を切替えることができます。
  - ・平行復帰切替機能が《**入**》の時は，作業機を「**最上げ**」にすると，自動的に本機と平行になります。
  - ・平行復帰切替機能が《**切**》の時は，作業機を「**最上げ**」にしても，平行復帰せずにそのまま上昇します。

※平行復帰切替機能の《**入**》,《**切**》はメータパネルのMACビジョンで行います。

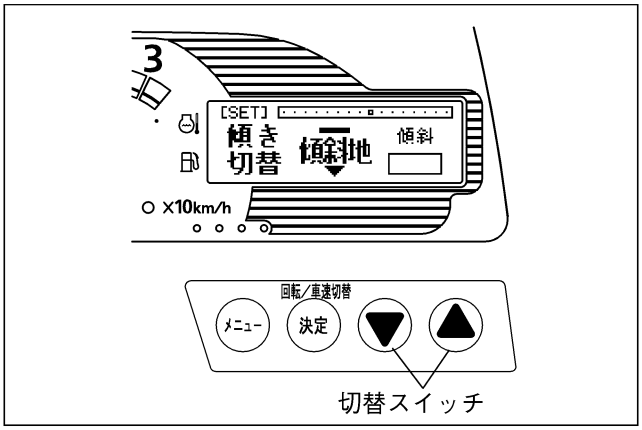


取扱いのポイント

- 平行復帰切替機能の《**入**》,《**切**》は，MACビジョンの取扱い を参照します。

❹ 傾き切替（傾斜地モード）機能

MACビジョンスイッチで平地での「**傾き自動**」作業《**傾斜**》，傾斜地での「**傾き自動**」作業《**傾斜地**》を切替えます。

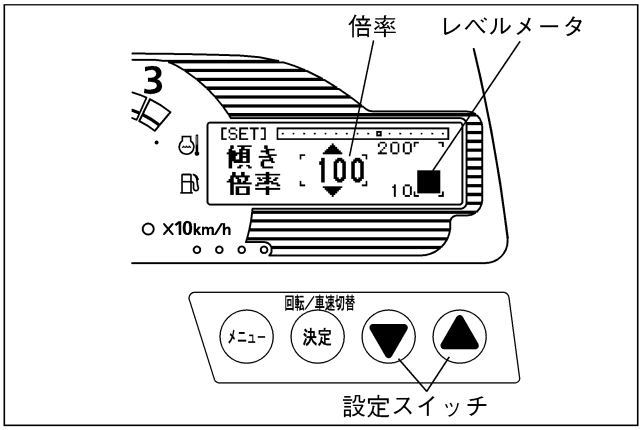


取扱いのポイント

- 傾き切替機能は MACビジョンの取扱い を参照します。
- 傾き自動を《切》にしているときは，傾き切替は表示されません。
- 傾き切替が《傾斜地》の時，(メニュー)スイッチを押すと，《傾き倍率》調整画面になります。傾斜地作業の時，傾き制御の度合いを調整できます。

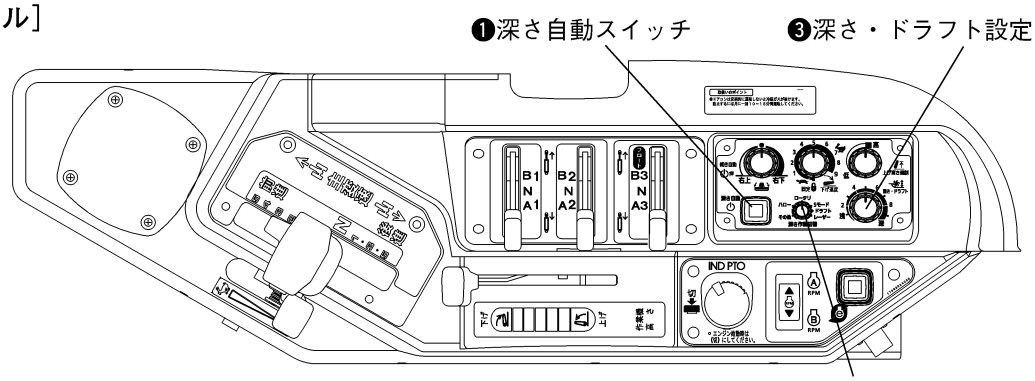
  (度合い10%～200%)

  - ・《10%》 数値が少ない程，傾き制御の度合いが少なくなります。
  - ・《100%》通常の傾き制御を行います。
  - ・《200%》数値が大きい程，傾き制御の度合いが大きくなります。



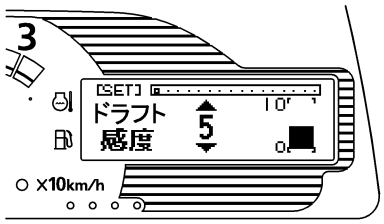
5．ドラフト自動の取扱い　［ドラフトキット（オプション）装着時の機能］

［サイドパネル］



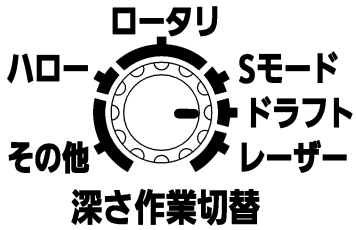
［液晶パネル部］

❹ドラフト感度調整機能



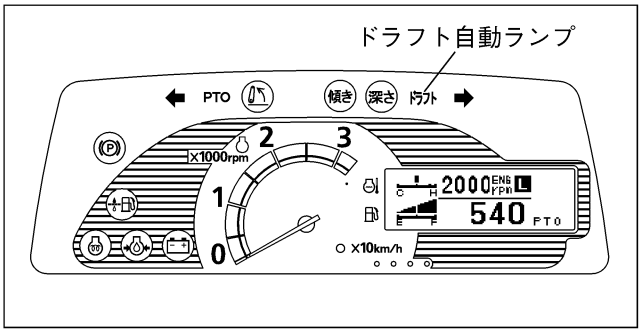
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外では，ドラフト自動が《切》（ドラフト自動ランプ消灯）になるように深さ自動スイッチを《切》にしてください。守らないと作業機が自動的に作動し，傷害事故になることがあります。



❶　深さ自動スイッチ

　深さ自動を《**入**》⟷《**切**》するスイッチです。深さ自動を使用しないときはこのスイッチを押して《**切**》ります。
深さ自動ランプが消灯します。



❷　深さ作業切替ボリューム

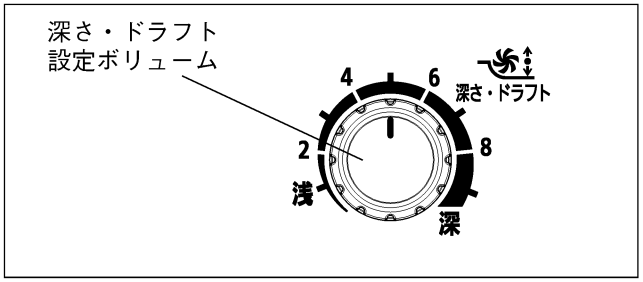
　このボリュームを「**ドラフト**」に切替えるとドラフト自動が作動し，ドラフト自動ランプが点灯します。

❸ 深さ・ドラフト設定ボリューム

プラウ作業等の耕深量の調整は深さ・ドラフト設定ボリュームによって行います。

・《浅》へ回す……小さいけん引力で作動し耕深は浅くなります。

・《深》へ回す……大きいけん引力で作動し耕深は深くなります。



❹ ドラフト（深さ）感度調整機能

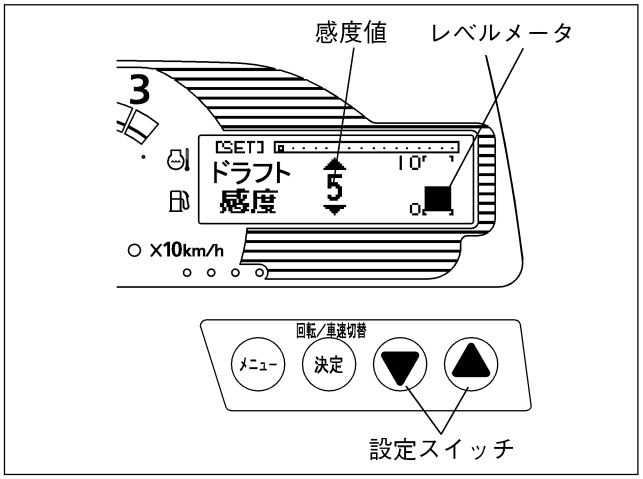
メータパネルのMACビジョンでドラフト自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて調整することができます。（感度値０～10：11段階）

・《０～３》…かたい土に適します。

・《４～６》…通常の土に適します。

・《７～10》…やわらかい土に適します。

仕上りを確認しながら，ほ場条件によって切替えます。



取扱いのポイント

- ドラフト感度の調整は MACビジョンの取扱い を参照します。

６．作業に適した速度の選びかた

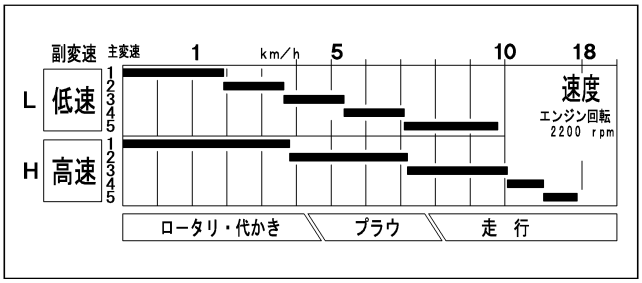
トラクタの走行速度及びPTO回転速度は，作業内容，ほ場の条件によって異なります。

安全で最適な速度で運転します。

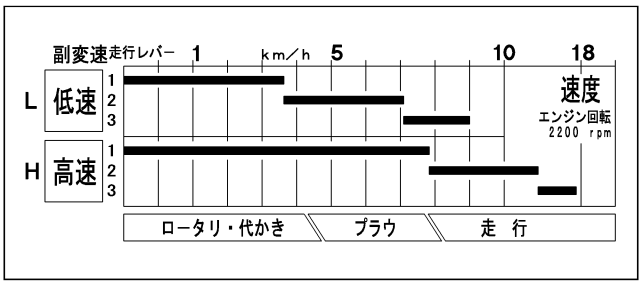
❶ 走行速度

（エンジン定格回転　2200rpm時）

［丸ハンドル仕様］



［２本レバー仕様］



❷ PTO回転速度

（エンジン回転　2000rpm時）

PTO変速位置	１速	２速	３速
	559	793	1040

❸ PTO回転速度540rpm時のエンジン回転数

PTO変速位置	１速	２速	３速
	1932	1362	1038

取扱いのポイント

- 作業機のPTO回転速度は，「作業機の取扱説明書」に従ってください。
- PTO回転速度は，MACビジョンで液晶モニタに表示する事ができます。くわしくは，MACビジョンの取扱い を参照して下さい。

7．エンジン回転設定機能

作業に応じてエンジンの回転数を記憶したり微調整する機能です。

❶ エンジン回転メモリー機能

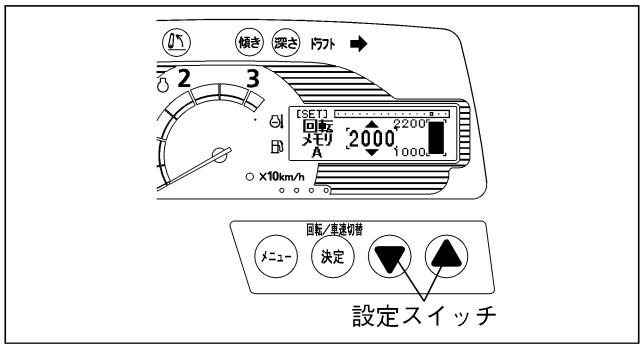
特定の作業に適した回転数をあらかじめ記憶し呼びだす機能です。

メモリーAとメモリーBの2種類の回転数が設定できます。

・設定方法

(1) MACビジョンの設定画面でエンジン回転メモリーAを表示します。

(2) 設定スイッチで記憶したい回転数をセットし，(決定)スイッチを押せば完了です。



設定可能なエンジン回転数	1000rpm～2200rpm
設定単位	50rpm

(3) エンジン回転メモリーBの設定も同様におこなえます。

取扱いのポイント

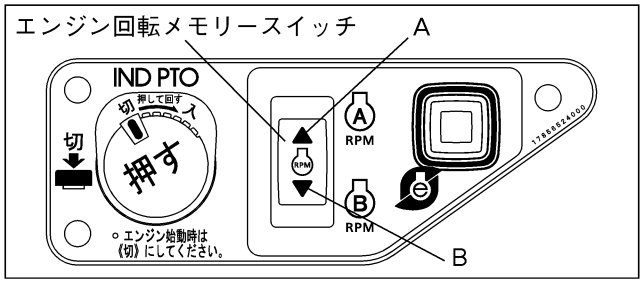
●MACビジョンの設定画面の表示方法は「MACビジョンの取扱い」を参照してください。

・呼びだし方法

(1) エンジンコントロールレバーをアイドリング位置以外にします。

(2) エンジン回転メモリースイッチAを押すとメモリー機能が作動し，スイッチA側の▲ランプが点灯します。

(3) エンジン回転メモリースイッチBを押すとメモリー機能が作動し，スイッチB側の▼ランプが点灯します。



・解除方法

(1) 呼びだしているメモリー側スイッチを再度押すと解除されます。メモリーAを呼びだしている場合，エンジン回転メモリースイッチAを押します。

(2) エンジンコントロールレバーをアイドリング位置にすると解除できます。

❷ エンジン回転上昇／下降スイッチ

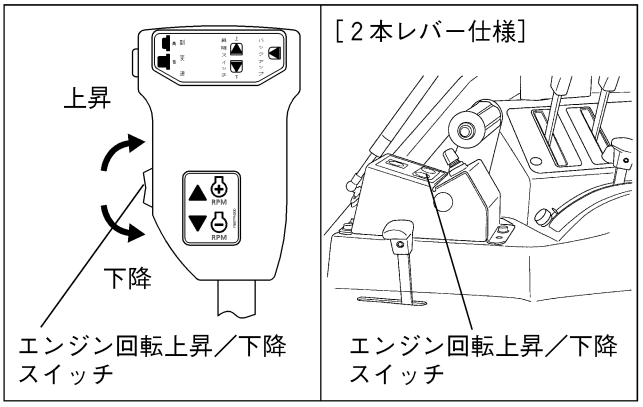
エンジン回転数を微調整するスイッチです。

・調整方法

(1) エンジンコントロールレバーをアイドリング位置以外にします。

(2) エンジン回転上昇／下降スイッチの上昇側(▲)を1回押すとエンジン回転が50rpm上昇し，下降側（▼）を1回押すと50rpm下降します。

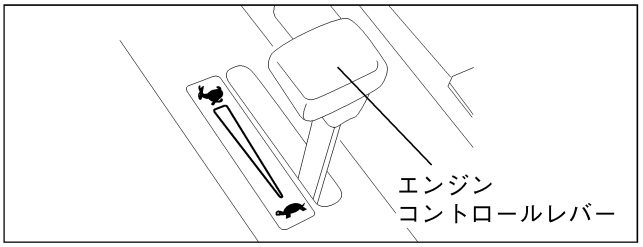
(3) エンジン回転上昇／下降スイッチの上昇側及び下降側を長押し（0.8秒以上）すると500rpm上昇もしくは下降でき，長押しを続けると連続して500rpmずつ調整できます。



・解除方法

(1) エンジンコントロールレバーをエンジン回転位置から離れる方向に操作すると解除できます。

(2) エンジンコントロールレバーをアイドリング位置にすると解除できます。



取扱いのポイント

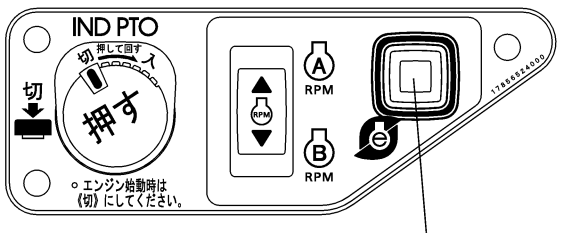
●エンジン回転メモリー機能を使用している場合はそのエンジン回転数以下には調整できません。

❸ エコノミーモード機能

エンジンの出力を強制的に落として燃料消費量を減らす機能です。

エコノミーモード切替スイッチを押すたびに《**入**》，《**切**》をくり返します。

エコノミーモード《**入**》の時は，エコノミーモード切替スイッチ内のランプが点灯します。



エコノミーモード切替スイッチ

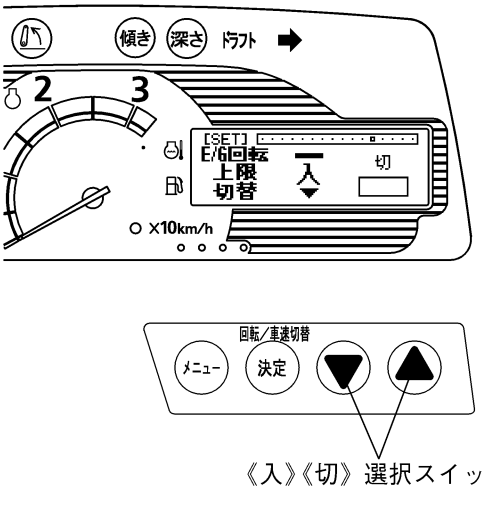
出力切替	切	入
エコノミーモードランプ	消灯	点灯
出力馬力	126PS	116PS

❹ エンジン回転上限設定機能

エンジン回転数の上限を制限して本機及び作業機の保護と燃費を向上させる機能です。

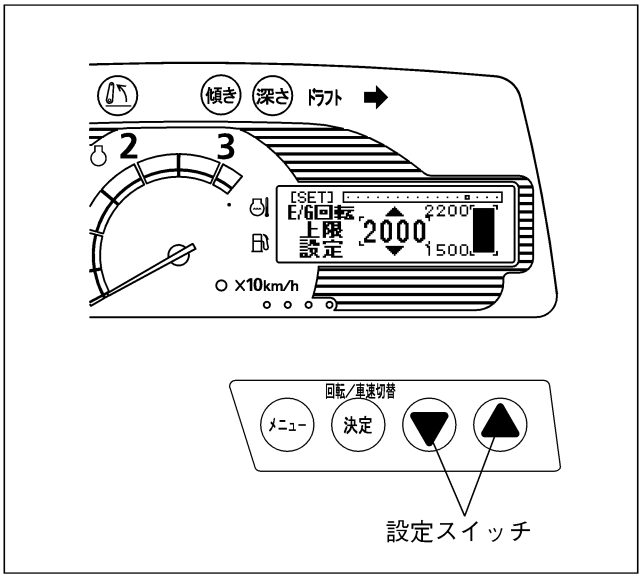
・設定方法

(1) MACビジョンの設定画面でエンジン回転上限設定機能の《**入**》,《**切**》を選択します。



《入》《切》選択スイッチ

(2) 《**入**》を選択し 決定 を押し，メニュー スイッチを押すとエンジン回転の上昇値を設定する画面に移ります。



設定スイッチ

(3) 設定スイッチで上限値をセットし 決定 スイッチを押して設定完了です。

設定可能なエンジン回転数	1500rpm～2200rpm
設定単位	50rpm

取扱いのポイント

●MACビジョンの設定画面の表示方法は MACビジョンの取扱い を参照してください。

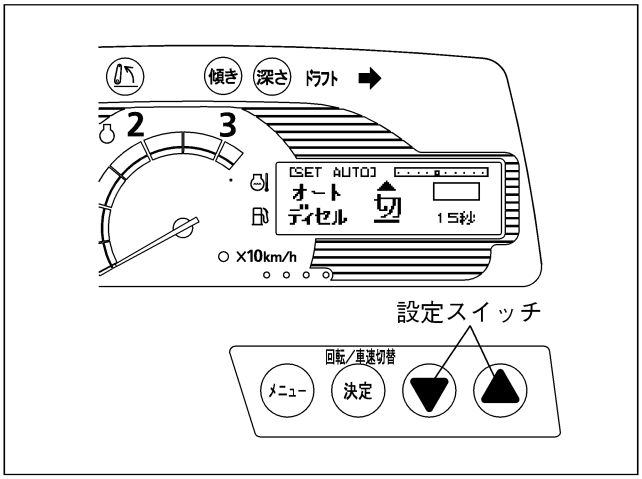
❺ オートディセル機能

作業状態にないまま，ある程度の時間がたつとエンジン回転数をアイドリング状態に落とす省エネ機能です。

・設定方法

(1) MACビジョンの設定画面でオートディセルを表示します。

(2) 設定スイッチで《**切**》,《**15秒**》,《**30秒**》,《**1分**》のいずれかを選択し，決定 スイッチで設定完了です。



設定スイッチ

・オートディセル作動後の復帰方法

以下のいずれかの操作で復帰します。

⑴ エンジン回転上昇／下降スイッチ操作でオートディセル作動前のエンジン回転数に戻ります。

⑵ エンジンコントロールレバーをアイドリング《🐢》位置戻し，再度エンジン回転数を設定します。

取扱いのポイント

- **オートディセル作動後の復帰方法⑵で復帰すると，エンジン回転メモリー機能は解除されます。**
- **道路走行時はオートディセル機能を《切》にしてください。**
- **MACビジョンの設定画面の表示方法は「MACビジョンの取扱い」を参照してください。**

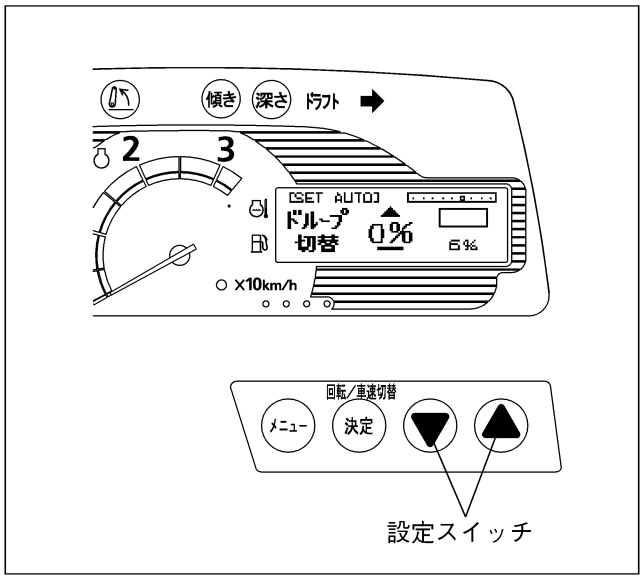
❻ ドループ切替機能

エンジンにかかる負荷によるエンジン回転数の変化割合を切り替える機能です。

・設定方法

⑴ MACビジョンの設定画面でドループ切替を表示します。

⑵ 設定スイッチで《0％》,《6％》のいずれかを選択し，(決定)スイッチを押せば完了です。



《0％》……作業負荷によるエンジン回転の変化を感じにくい。

《6％》……作業負荷によるエンジン回転の変化を感じやすい。

取扱いのポイント

- **MACビジョンの設定画面の表示方法は「MACビジョンの取扱い」を参照してください。**

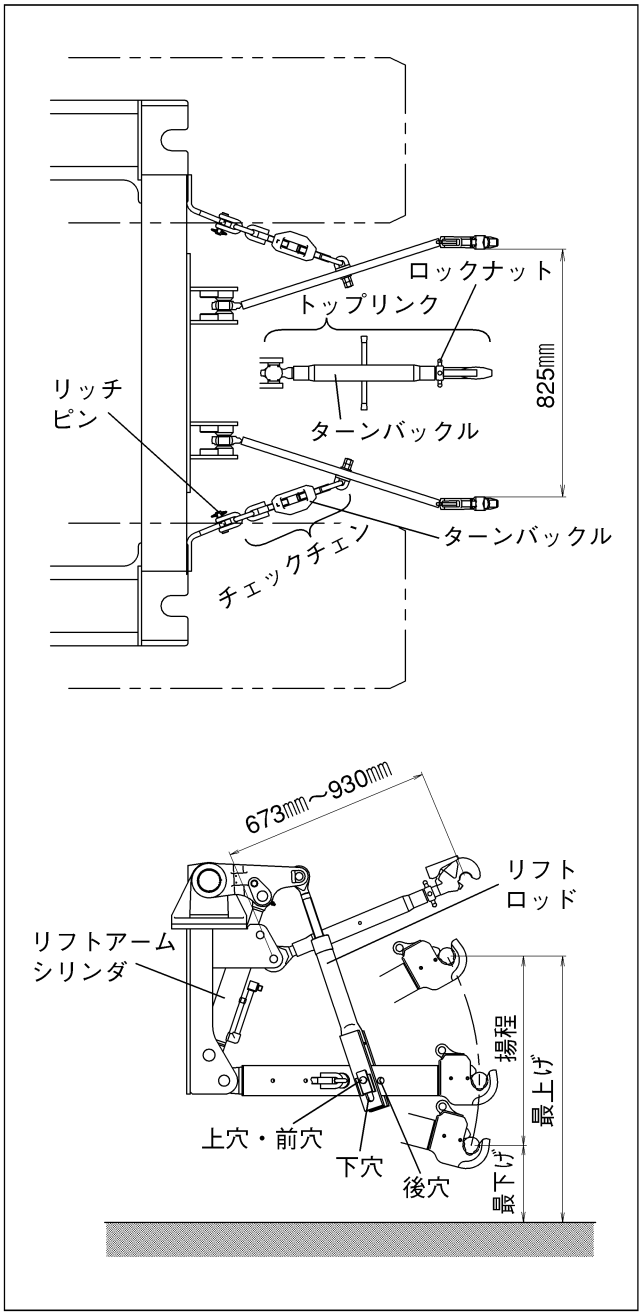
2．作業に必要な装置の使い方

1．3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付ける時は作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「**作業機の取扱説明書**」を参照してください。

❶ リフトロッド・トップリンクの長さの調整範囲

トップリンクの長さの調整は，ロックナットを弛め，ターンバックルを回して調整します。調整後ロックナットを締めます。



❷ ロワリンク後方目玉の地上高 （単位㎜）

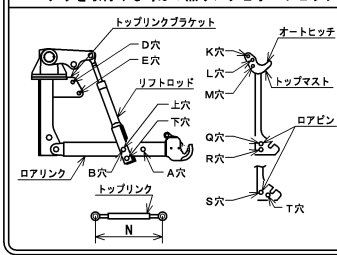
		ロワリンク	前穴	後穴
リフトロッド	上穴	最上げ	886	783
		最下げ	257	121
		揚程	629	662
	下穴	最上げ	884	789
		最下げ	314	186
		揚程	570	603

❸ 3点リンクの取付け

3点リンクの取付けは作業機によって異なりますので，下表及び作業機の取扱説明書により取付けを行なってください。

ロータリ・駆動型ハロー取付要領 17857783000

ロータリを取付ける時は3点リンクとオートヒッチを下表に合わせてください.



装着方式	オートヒッチ	
	マツヤマ	コバシ
リフトロッド取付穴	上 穴	上 穴
ロアリンク取付穴	B 穴	B 穴
トップリンクブラケット穴	E 穴	E 穴
トップリンク長さ （N）mm	700	710
オートヒッチトップマスト取付穴	K 穴	K 穴
オートヒッチロアピン 取付穴	R 穴	S 穴

❹ チェックチェン

チェックチェンは，ロワリンクとクローラとの接触を防止するために取付けられています。チェックチェンは工場出荷時に標準の長さにセットされていますが，使用する作業機に合わせて，長さ調整を行ってください。

(1) 振れ調整

スナップピンを取外し，ターンバックルを回して，次のように調整を行います。調整後はスナップピンを確実に取付けてください。

(2) プラウ，ハロー，サブソイラ等の作業機は，作業機取付部が左右に5～6㎝動く程度に調整します。調整後，作業機が横振れしてクローラに当たらないことを確認します。

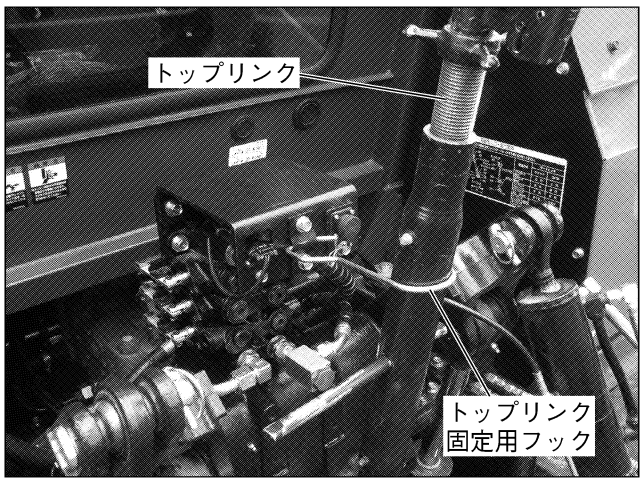
(3) ロータリ，モア等の作業機は，作業機取付部が1㎝程度左右に振れる程度に調整します。

取扱いのポイント

- 作業機の横振れはポジションコントロールレバーで作業機を上げた時と下げた時に異なる場合がありますので作業機を上げ下げして振れを確認し，振れの最小値を前記調整寸法に合わせます。
- 作業機装着時には周囲との干渉に注意しながら，ゆっくりとリフトアームを上下させてください。

❺ トップリンク

作業機を取付けていないときはトップリンク固定用フックにトップリンクを掛けて固定します。



2．ドローバ（オプション）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業をする時は，純正ドローバを使用し，ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。

◆ドローバは，横方向へは引かないようにしてください。横方向では，ドローバが外れたり，フレームが曲がるおそれがあります。

・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたら「**お買いあげ先**」に相談し，無理なけん引は避けてください。

・けん引作業をする場合は，ドローバを使用します。他の所を使用してけん引すると転倒することがあります。

（装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。）

取扱いのポイント

- ロータリ等でジョイントを装着の際はドローバを横に振っておきます。

3．外部油圧取り出し装置の取扱い

❶ 外部油圧操作レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油の高温，高圧の噴油が目や皮膚に当たると，皮膚への浸透，損傷を負う恐れがあります。負傷した場合は，直ちに専門医の診察を受けてください。医療処置をしなかった場合，重度の感染症や副作用，壊死が生じることがあります。

◆油圧系統に圧力を掛ける前に，すべての接続部がしっかりと締付けられており，ホースやホースの配管状態が正常であることを確認してください。また油圧配管を外したり，他の作業を行うときは，必ず油圧系統の圧力を解放してから行ってください，油圧部品に加圧状態で漏れを発見したときは，絶対に素手で圧油に触れないでください。直ちに油圧系統の圧力を解放して「お買いあげ先」で点検を受けて下さい。

◆作業機のホースをトラクタに接続する際は，トラクタが左右どちらにも方向転換できるだけの，十分な長さがあることを確認してください。但し，あまり長すぎると周囲に接触したり，作業機に巻き込まれたりする危険性がありますので，「作業機の取扱説明書」をよくお読みになって，適切な接続を行ってください。

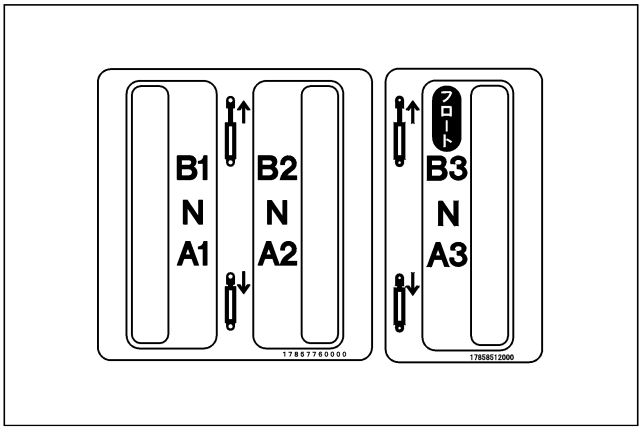
◆トラクタから圧油を供給されて操作する作業機をトラクタに装着する場合，「作業機の取扱説明書」に記載されている量の油圧作動油を油圧オイルタンクに補給してください。又，作業機や付属装置のシリンダにオイルを通した後には，必ず油圧オイルタンクのオイルレベルを点検してください。オイルのレベルが低下している場合は，絶対に負荷を掛けてトラクタを操作しないでください。機械の故障だけでなく，作業機の落下等思わぬ事故を招くことがあります。

油圧で作動する作業機等を取り付けたとき，トラクタの後部に装備されている「**油圧**」と作業機の油圧ホースを接続して使用します。

外部油圧操作レバーは，油圧で作動する作業機を「**油圧**」に接続したときに，その作業機への送油を切替，加減するレバーです。



レバーは 3 本装備されていて，前側から①番，②番，③番となっています。



各レバーはそれぞれ別の油圧作業機を操作することができます。各レバーの番号①番，②番，③番は「**油圧バルブ**」の番号①番，②番，③番と対応しています。

油圧作業機が「**油圧バルブ**」に接続されている時に，レバーを手前に倒すとシリンダが縮み，押すとシリンダが伸びます。

4．作業機の取扱い

下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機の着脱は，平坦な場所で，作業機の取扱説明書に従って行なってください。

◆作業機を着脱調整する時は，トラクタの駐車ブレーキスイッチを《入》にし，エンジンを停止し，PTO切替スイッチを《切》にして行なってください。

◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は，トラクタと作業機の間に人が入らないようにしてください。

◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のＰＴＯ回転速度を守ってください。

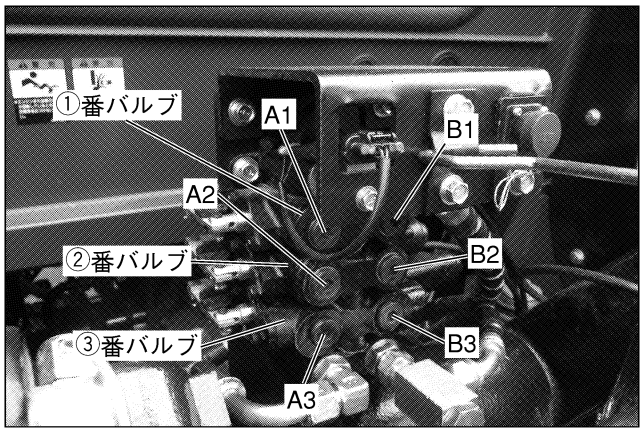
◆高速回転用作業機を低速回転で使用しないで下さい。作業機指定のＰＴＯ回転速度を守ってください。

◆作業機を装着すると，長さが長くなりますので，旋回時は周囲を確認して行なってください。

◆作業機を装備した時は別の自動車で運搬して下さい。自走するのであれば作業機を取外して下さい。
作業機を装着して走行すると道路交通法の違反になります。

取扱いのポイント

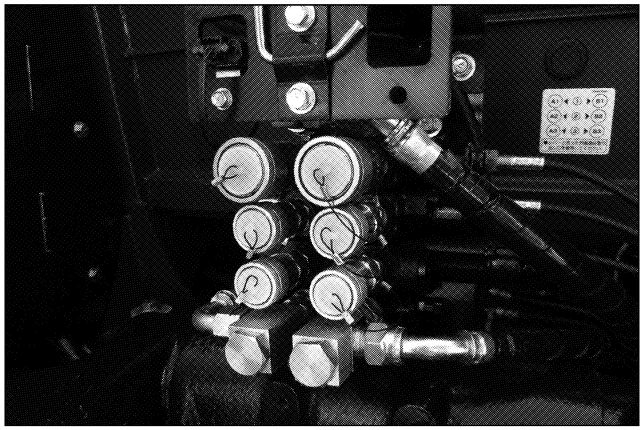
- **各レバーの番号，①番，②番，③番に対応した番号の「油圧バルブ」に作業機の油圧ホースを取り付けないと，レバーを操作してもシリンダは作動しません。**
- **油圧取出口は複動式（３口）です。**
- **「油圧取出口」に油圧ホースを接続する時はエンジンを停止して行ってください。**
- **油圧ホースを脱着する際は，圧抜きを行ってください。**
  圧抜きはエンジンを停止し，①番レバー②番レバー③番レバーを数回動かせば回路内の圧力が抜けます。



❷ 油圧取出コネクタ（油圧取出口）［オプション］

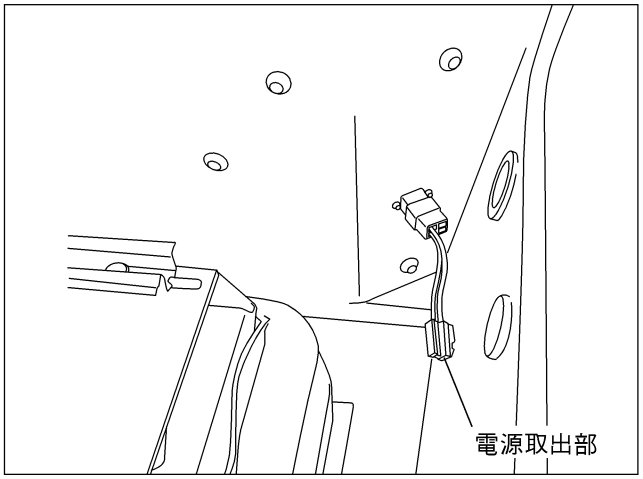
油圧で作動する作業機に圧油を送り込むためのコネクタです。全ての油圧バルブに（1/2）または（3/8）サイズのコネクタが装着可能です。

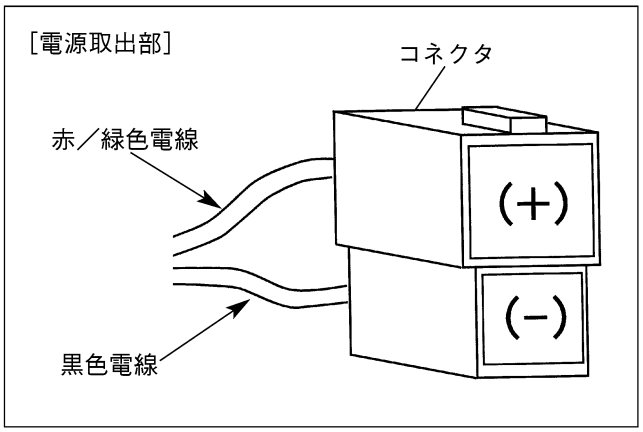
コネクタは左右一対で使用します。片側が「伸び」，もう一方が「縮み」です。作業機の油圧ホースを取り付ける場合は「作業機の取扱説明書」の指示に従ってください。



5．作業機用電源の取扱い

・作業機等の電源として使用します。
・電源取出部は運転席右側後方にあります。





取扱いのポイント

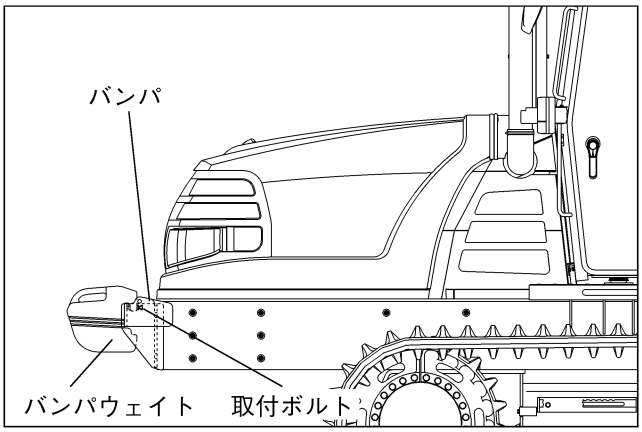
- この電源はDC12V，15A（最大）です。それ以上の負荷電流で使用するとヒューズが切れます。
- コネクタの（十），（一）に針金等を差込まないでください。ショート（短絡）の原因になります。

6．バンパ及びバンパウエイト（オプション）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタにバンパとバンパウェイトを付けて，バランスを保ってください。

・バンパウェイトは純正品を使用してください。
・バンパウェイトを取付けるときは固定ボルトで固定してください。



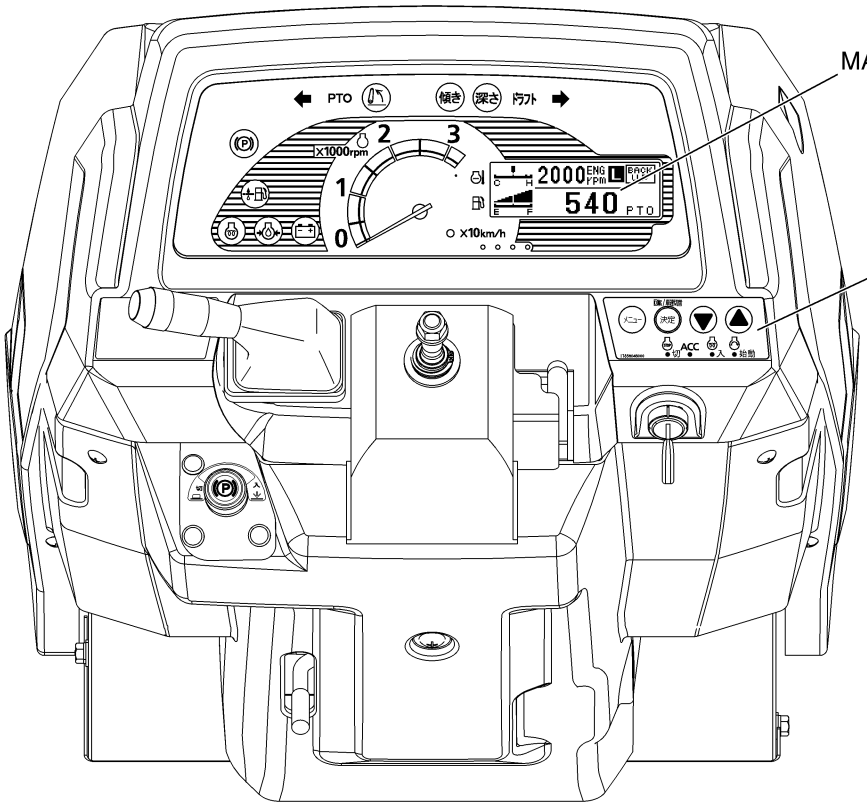
取扱いのポイント

- バンパウェイトは，１個30kgタイプで最大18個，１個45kgタイプで最大12個の装着が可能です。詳しくは「お買いあげ先」にご相談ください。

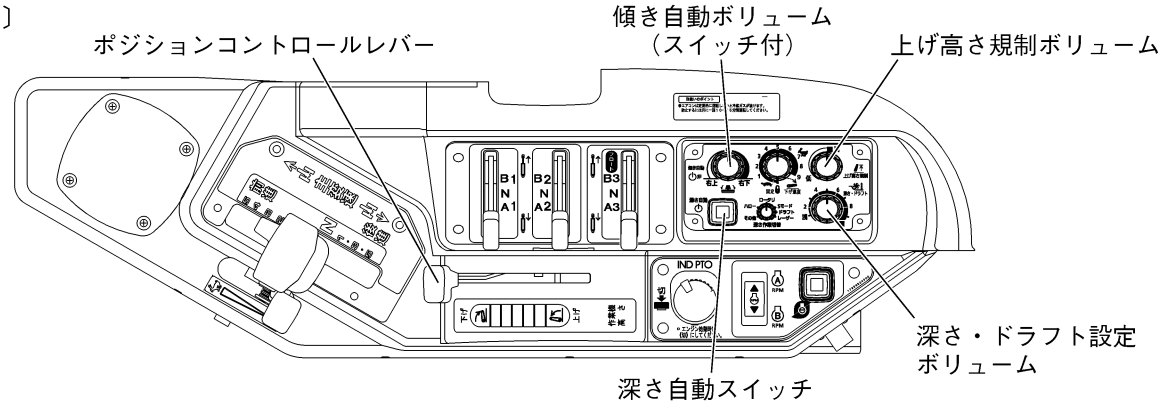
MACビジョンの取扱い

1．操作部名称

［メータパネル］



［サイドパネル］



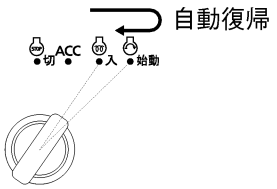
⚠警告 傷害事故防止のために

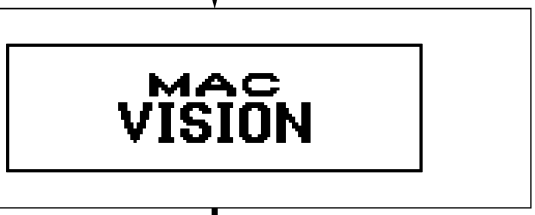
◆走行中にMACビジョンの操作部を操作しないでください。わき見運転となり，事故の原因となります。MACビジョンの操作は機械を平坦な場所に停止し，駐車ブレーキをかけてから操作してください。

2．MACビジョン表示

❶ エンジン始動時の表示

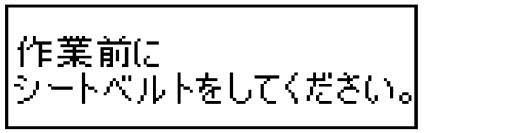
エンジン始動後に液晶画面が自動的に切替わります。

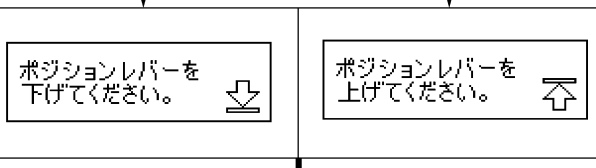




機種表示

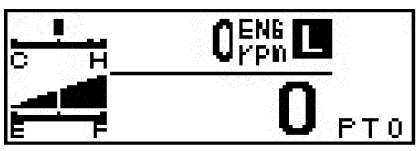






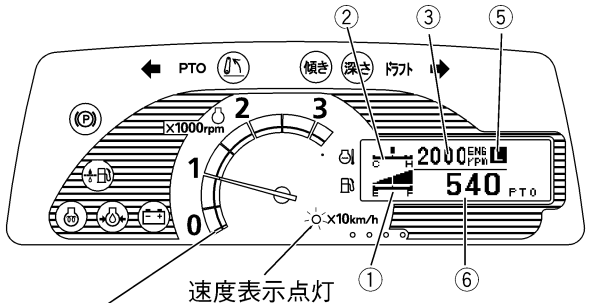
ポジションコントロールレバーを操作します。





❷ 運転時の表示

《回転》表示



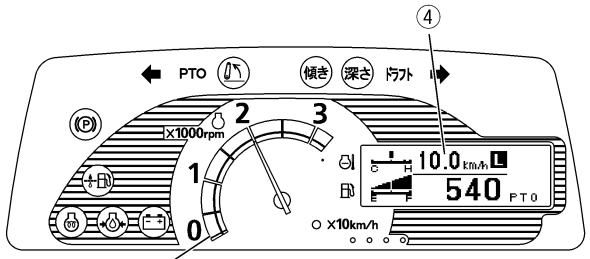
速度表示点灯

タコメータ
（速度を示す×10km/h）



《回転》,《車速》表示切替スイッチ

《車速》表示



タコメータ
（エンジン回転数を示す
×1000rpm）



《回転》,《車速》表示切替スイッチ

① **燃料計**

キーを《 入》にすると燃料の残量を示します。

黒いレベルメータが《E》近くになったら早めに補給してください。

② **水温計**

キーを《 入》にすると《 》の表示でエンジン冷却水温度を示します。

取扱いのポイント

- **水温計の《 ▮ 》の表示が《H》を示した場合は，オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトの張りを点検してください。冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。**

③　《回転》表示

移動走行時用の画面でエンジン回転数を表示します。走行速度は速度表示灯が点灯し，タコメータの針で示します。

④　《車速》表示

作業時用の画面で走行速度を表示します。エンジン回転数はタコメータの針で示します。

⑤　副変速表示

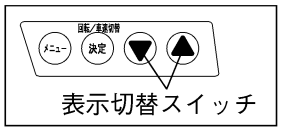
副変速スイッチの設定状態を《H》,《L》で表示します。

⑥　切替画面

切替スイッチ操作により下記の内容が表示されます。（詳細は❸項を参照。）

❸　運転時の表示切替

MACビジョン操作部の▼▲スイッチを押すとMACビジョン右下の表示が替わります。



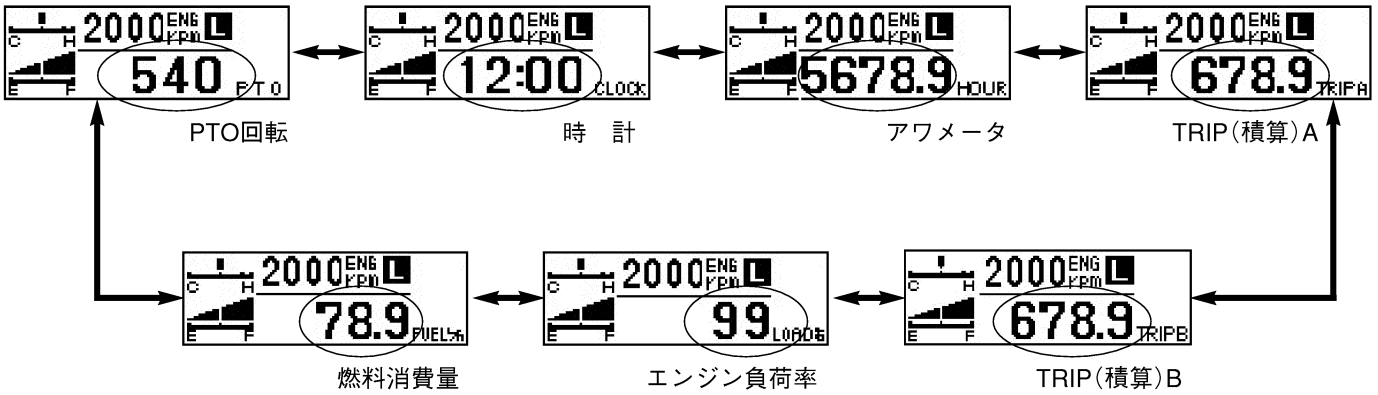
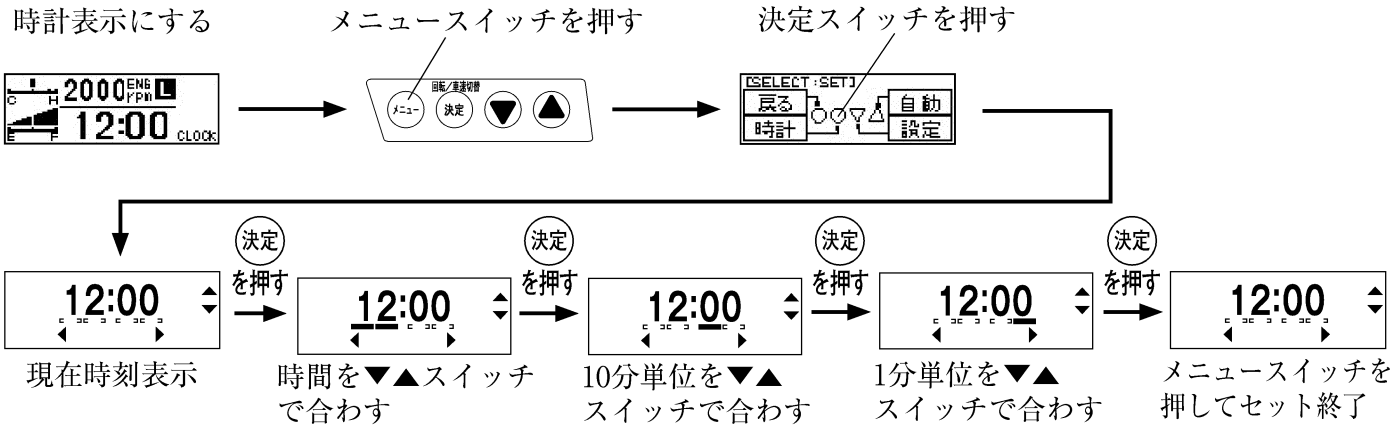


表　示　項　目	表　示　内　容
PTO回転（rpm）	PTOの回転数を表示します。
時　　計	時刻を表示します。
アワメータ	エンジンの総稼働時間を表示します。
TRIP（積算）A	リセット操作時からのエンジン稼働時間を表示します。
TRIP（積算）B	
エンジン負荷率（%）	現在の回転数での最大出力に対する割合を目安表示します。
燃料消費量（L／h）	時間あたりの燃料消費量を目安表示します。

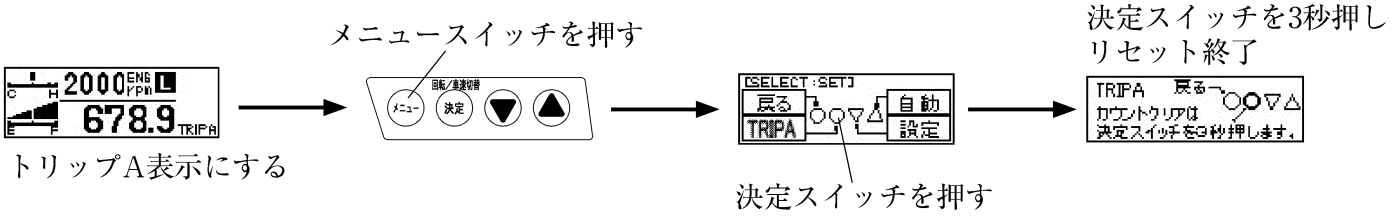
3．各種設定のしかた

❶ 時計のセットのしかた

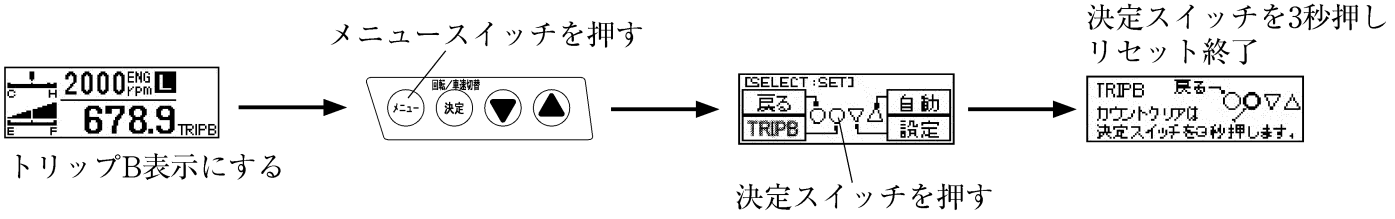


❷ トリップ（積算）のリセット

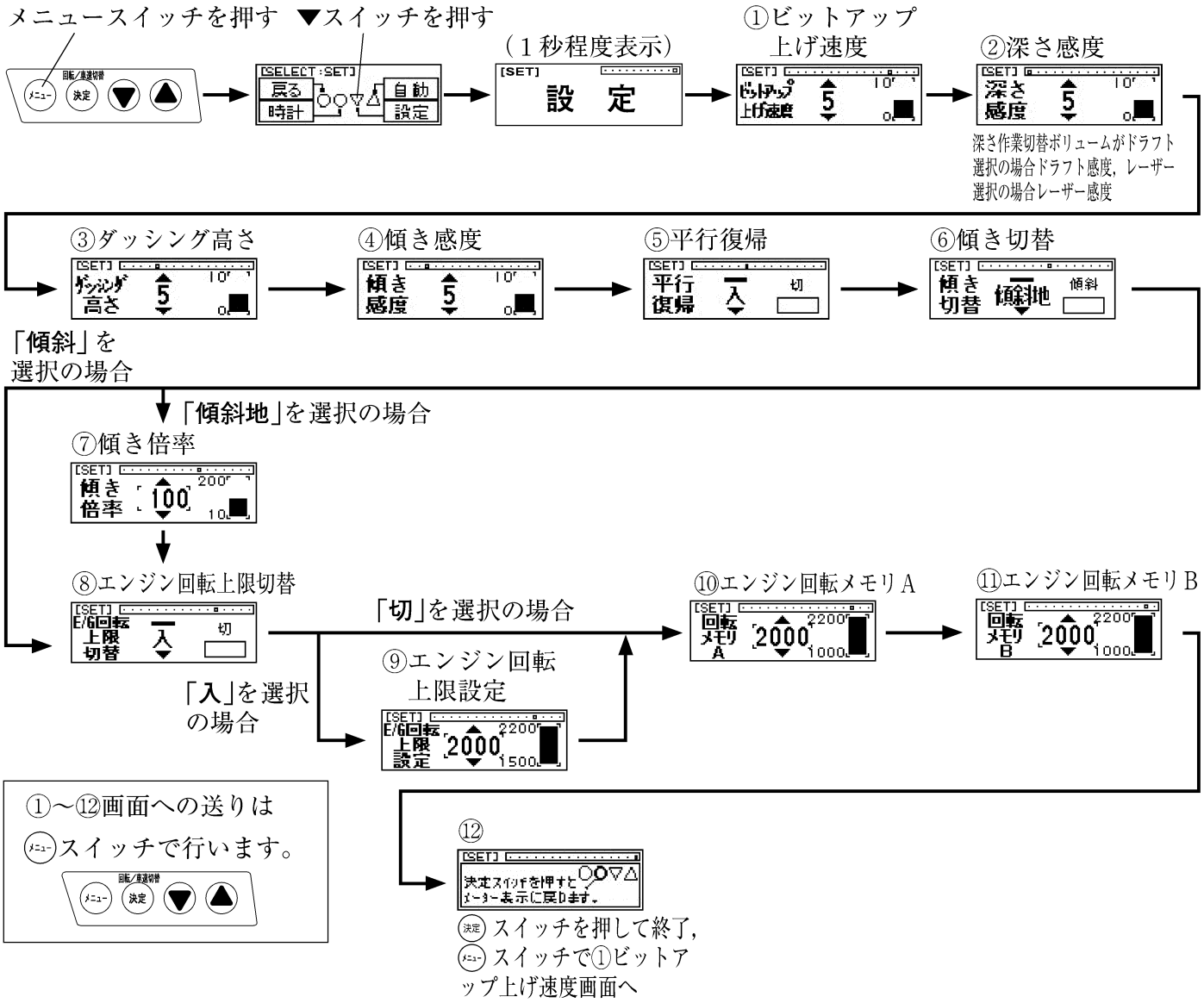
(1) トリップAのリセット



(2) トリップBのリセット



❸ 感度，ダッシング等の設定のしかた



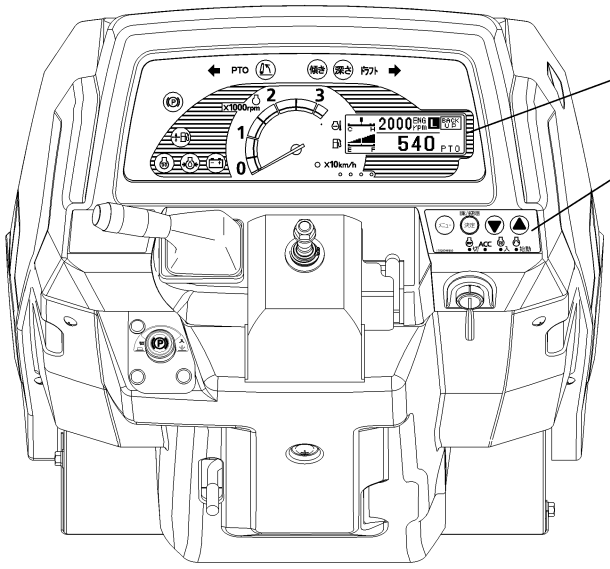
No.	項　　目	設　　定	出荷時の設定	スイッチの操作
①	ビットアップ上げ速度	10（速い）～0（遅い）	5	各画面での設定は▼▲スイッチで選択し決定スイッチを押します。
②	深さ感度（ドラフト感度）	10（鋭い）～0（鈍い）	5	
③	ダッシング高さ	10（高い）～0（低い）	5	
④	傾き感度	10（鋭い）～0（鈍い）	5	
⑤	平行復帰	入・切	入	
⑥	傾き切替	傾斜地・傾斜	傾斜	
⑦	傾き倍率	200（大）～10（小）	100	
⑧	エンジン回転上限切替	入・切	切	
⑨	エンジン回転上限設定	2200～1500（50単位）	2200	
⑩	エンジン回転メモリA	2200～1000（50単位）	1000	
⑪	エンジン回転メモリB	2200～1000（50単位）	1000	

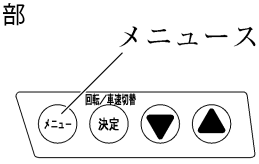
取扱いのポイント

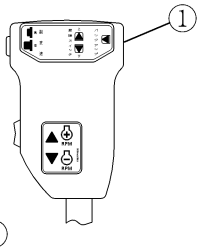
- 深さ感度設定は作業切替別（その他，ハロー，ロータリ，Sモード，ドラフト，レーザー）に各々できます。
- 傾き感度設定は，⑥傾き切替（傾斜，傾斜地）に各々できます。

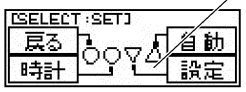
❹ 自動機能の切替設定のしかた

［メータパネル］

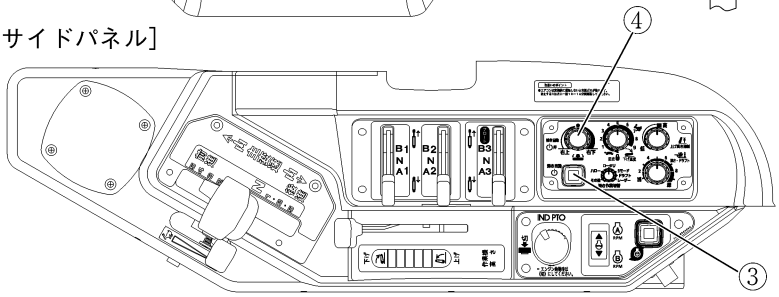


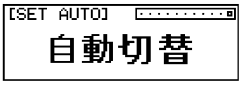




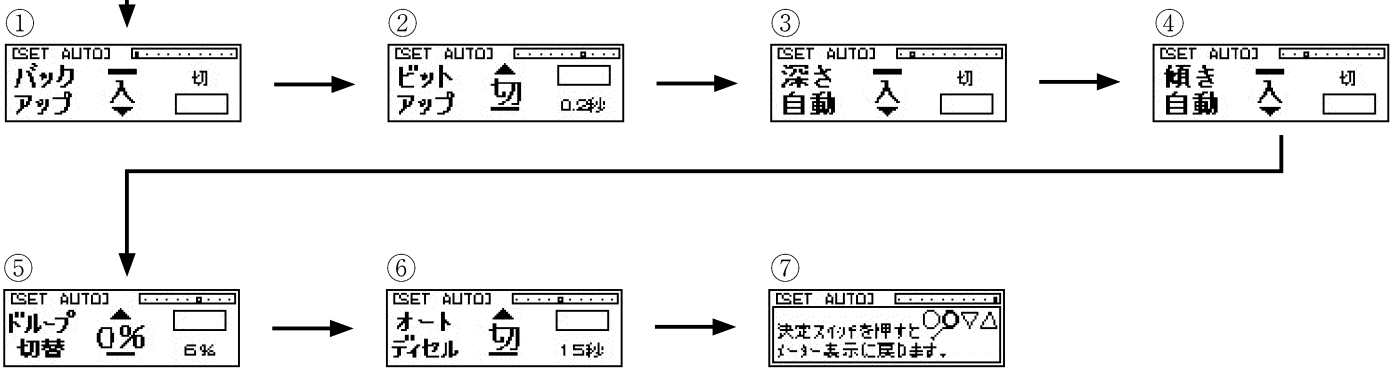


［サイドパネル］





（１秒程度表示）



決定スイッチを押して終了，
メニュースイッチで①バックアップ画面へ

①～⑦画面への送りは メニュー スイッチで行います。



No.	項　　目	設　　定	出荷時の設定	スイッチの操作
①	バックアップ	入・切	切	各画面での設定は▼▲スイッチで選択し 決定 スイッチを押します。
②	ビットアップ	切・0.2秒・0.3秒・0.4秒・0.5秒	0.3秒	
③	深さ自動	入・切	切	
④	傾き自動	入・切	切	
⑤	ドループ切替	0％・ 6％	0％	
⑥	オートディセル	切・15秒・30秒・ 1分	切	



4．MACビジョンの注意報知機能

⚠警告 傷害事故防止のために

◆MACビジョンが注意を表示した場合は，注意に対する確認を行ってください。

注意表示は，通常のMACビジョン表示を中断して表示されます。MACビジョン表示に復帰するには，注意の原因を取り除くか，MACビジョン動作関係部を操作します。

注意報知内容は下記の10項目です。

	表示内容	条件・内訳	ブザー音	処置参照ページ
メンテナンス		50時間毎に5秒間表示し，その後2回目のキーON時まで表示します。	有	67
		200時間毎（初回点検時は50時間）に5秒間表示し，その後2回目のキーON時まで表示します。	有	67
操作指示		駐車ブレーキをかけたままで主変速レバー（走行レバー）を前進又は後進操作したときに表示します。	有	13
警告		水温が113℃になると表示します。	有	15
		エアクリーナが詰まった時に表示します。	有	81
	エンジン停止時  エンジン回転時 	バッテリ電圧低下時に表示します。	有	93～97
		エンジンの点検が必要な時に表示します	有	―
		エンジンを保護する為に出力を下げて運転している時に表示します	有	―
	 	メーカーに連絡する必要がある時に表示します	有	―
		燃料残量が少なくなり，MACビジョン表示目盛が1になった時に表示します。	有	68～69

キャビンの取扱い

1．各部の取扱い

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた

❶ ドア

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

⑴ **ドアの施錠・解錠**

ドアキーを差込み，反時計回りに回すと施錠・時計回りに回すと解錠となります。

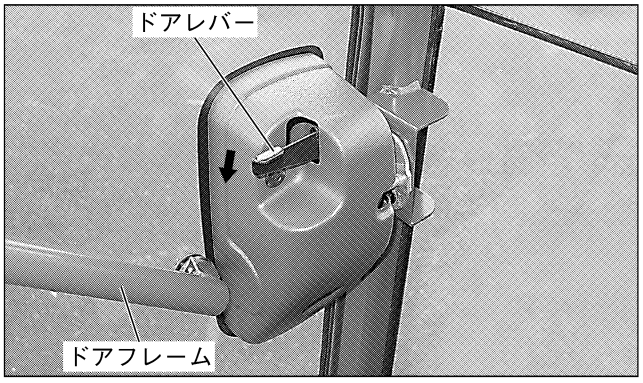
⑵ **車外からの開けかた**

押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと，ドアが開きます。



⑶ **車内からの開けかた**

ドアレバーを押すと，ドアが開きます。
また，閉じるときはドアフレームを引きます。



❷ リヤウインドウ，サイドウインドウ

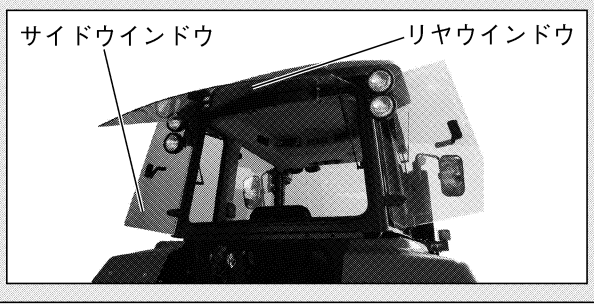
⚠警告 傷害事故防止のために

◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタやリヤウインドウを破損し，傷害事故になることがあります。(「ポジションコントロールレバーの取扱い」参照)

◆サイドウインドウを開く時は周囲の安全を確認してください。
急に開くと傷害事故になることがあります。

◆リヤウインドウを開く時は周囲の安全を確認してください。急に開くと傷害事故になることがあります。

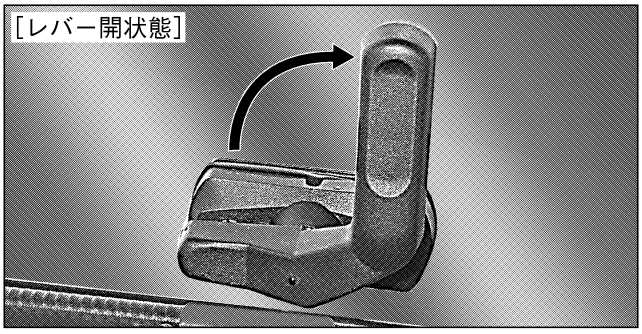
◆リヤウインドウ後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドウの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つおそれがあります。)



・リヤウインドウ
リヤウインドウは跳ね上げ式です。

⑴ **開けかた**

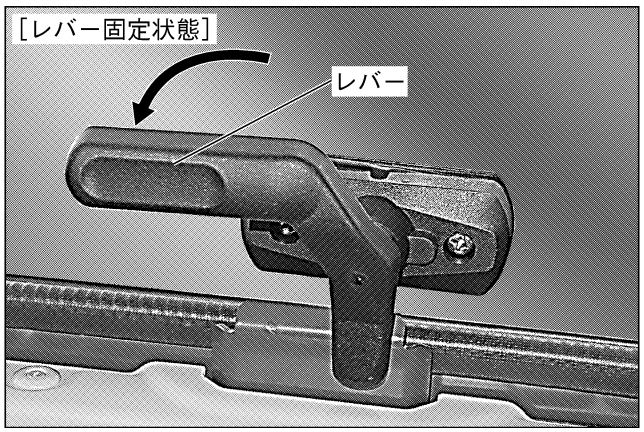
・レバーを時計回りに回します。
・レバーを外側に押出して，リヤウインドウを開けます。



⑵ 閉じかた

・レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

・レバーを手前に引きながら左に回し，確実に固定します。

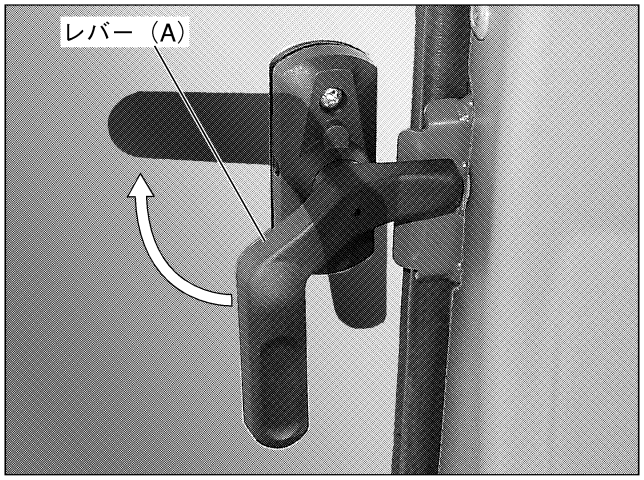


・サイドウインドウ

⑴ 開けかた

・レバー（A）を時計回りに回します。

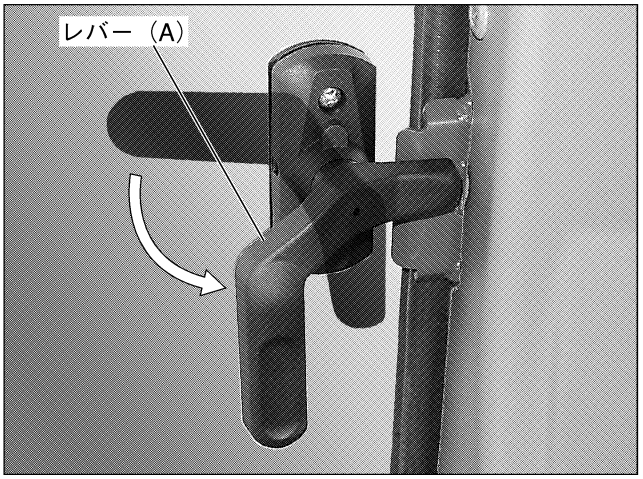
・レバー（A）を外側に押出して，サイドウインドウを半開きにします。



⑵ 閉じかた

・レバー（A）を持って，手前に引きます。

・サイドウインドウが閉じたらレバー（A）を反時計回りに回して確実にロックします。

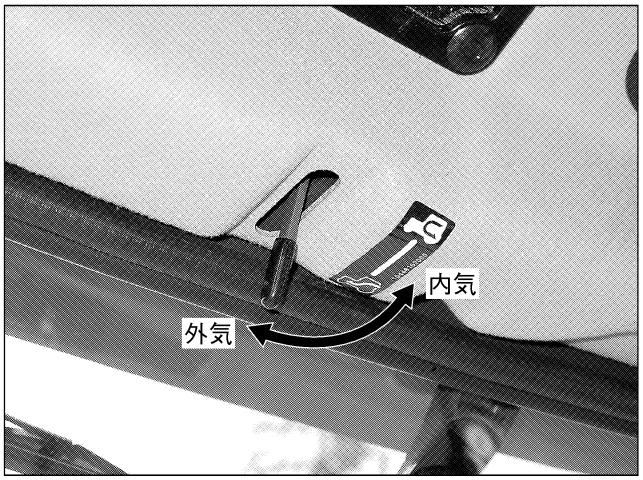


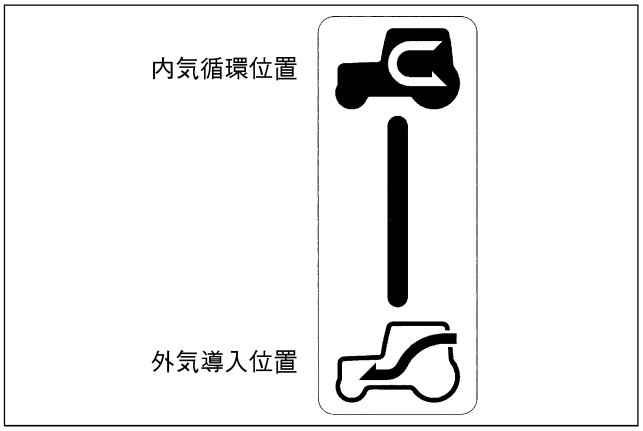
取扱いのポイント

- 作業機によっては，リヤウインドウが開けられないことがありますので，事前に確認して行なってください。
- トラクタ後方での作業機の脱着，調整等の作業をするときは，リヤウインドウを閉めるか，開放位置を確認して行なってください。
- 狭い場所でサイドウインドウを開，閉する時は充分確認して行なってください。
- リヤウインドウ，サイドウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウ，サイドウインドウを閉じ，レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドアおよびリヤウインドウ，サイドウインドウが凍結している場合は，無理に開けるとゴムがはがれたり，損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。
- ドアにぶらさがったり，作動範囲以上無理に押し開かないでください。

❸　内気・外気切替レバー

ファンを回した時に室内の空気を循環させるか，外気を導入するかを選択します。





内気循環位置……早く冷暖房をきかせたい時や強くきかせたい場合に使用します。

外気導入位置……ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

取扱いのポイント

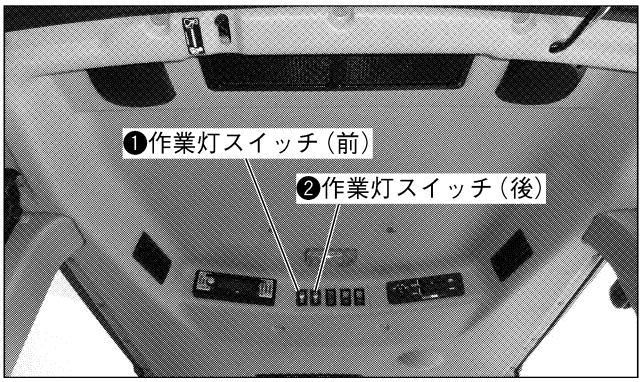
- 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
- ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

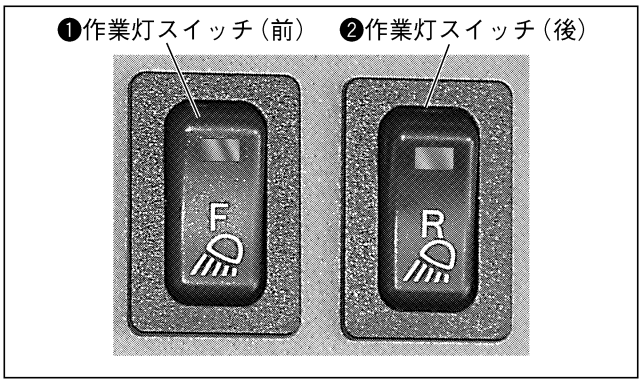
2．スイッチの取扱い

1．灯火スイッチの取扱い

❶　作業灯スイッチ（前）

❷　作業灯スイッチ（後）

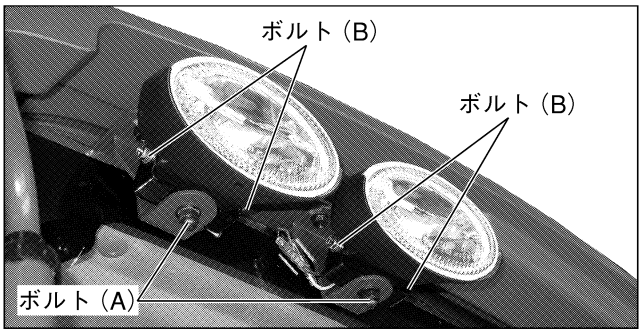




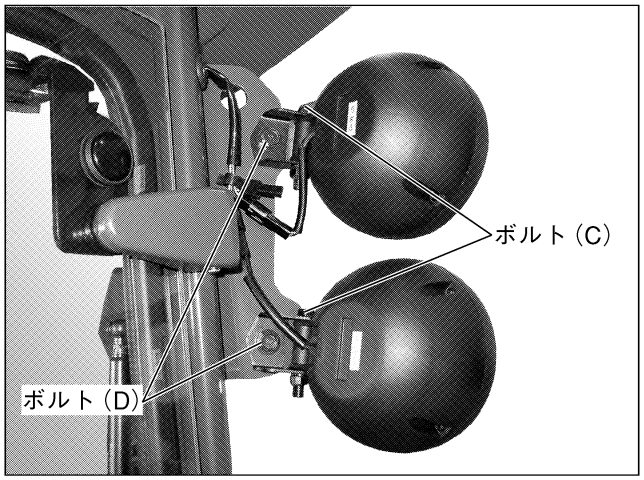
キーを《 入》にし，作業灯スイッチの上側を押すと，作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。下側を押すと消灯します。

取扱いのポイント

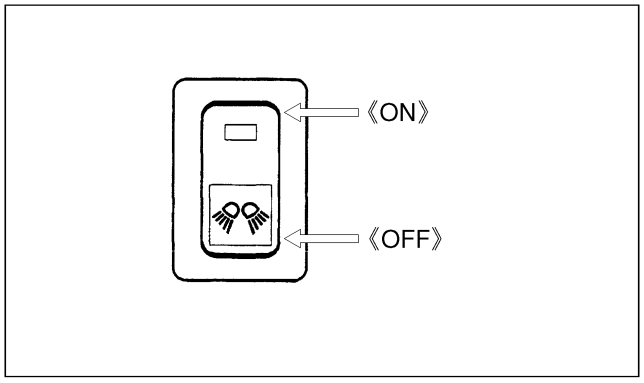
- 作業灯を使用する時は，バッテリがあがらないようにエンジン回転を1600rpm以上で使用してください。
- 道路走行時は，作業灯を消してください。
- 前側作業灯は，ボルト（A）で左右方向・ボルト（B）で上下方向を調整できます。



●後側作業灯は，ボルト（C）で左右方向・ボルト（D）で上下方向を調整できます。



❸ コーナーライトスイッチ



キーを《 入》にし,コーナーライトの《ON》位置を押すと，左右のコーナーライトが点灯します。

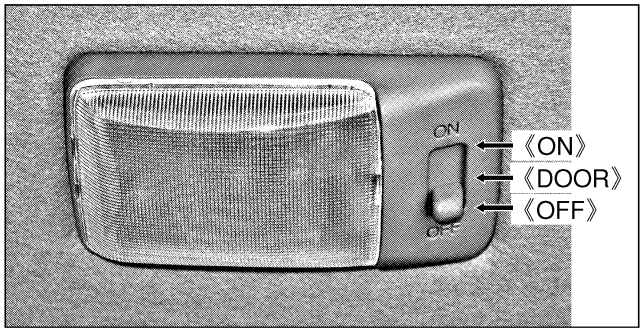
❹ ルームランプ（スイッチ）

キャビン室内の照明に使用します。

《ＯＮ》……ランプが点灯します。

《ＤＯＯＲ》……左右どちらかのドアを開くと点灯し閉めると消灯します。

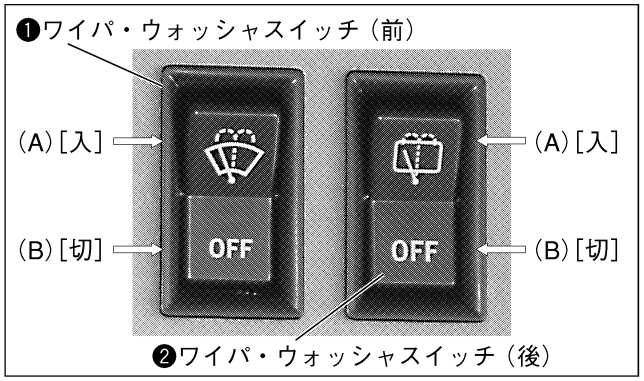
《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。



2．各種スイッチの取扱い

❶ ワイパ・ウォッシャスイッチ（前）

❷ ワイパ・ウォッシャスイッチ（後）



⑴ ワイパの操作

スイッチ（A）側を押すとワイパが作動し，スイッチ（B）側を押すとワイパが停止します。

⑵ ウォッシャの操作

・ワイパ作動中……スイッチ（A）側をさらに押すと,押している間,ウォッシャ液が噴射します。

・ワイパ停止中……スイッチ（B）を押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

取扱いのポイント

●キーが《 切》の時は，作動しません。キーを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。

●ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。

●寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できない為，内蔵のサーキットブレーカが作動します。作動した場合，ワイパブレードの凍結を融解させ，しばらく時間が経過してから使用して下さい。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。

●ワイパ使用中，積雪等によりワイパブレードが途中で止まった時は，ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりキーを《 切》に

しないとヒューズが切れることがあります。トラクタを安全な場所に停止してキーを《 STOP 切》にして，ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。

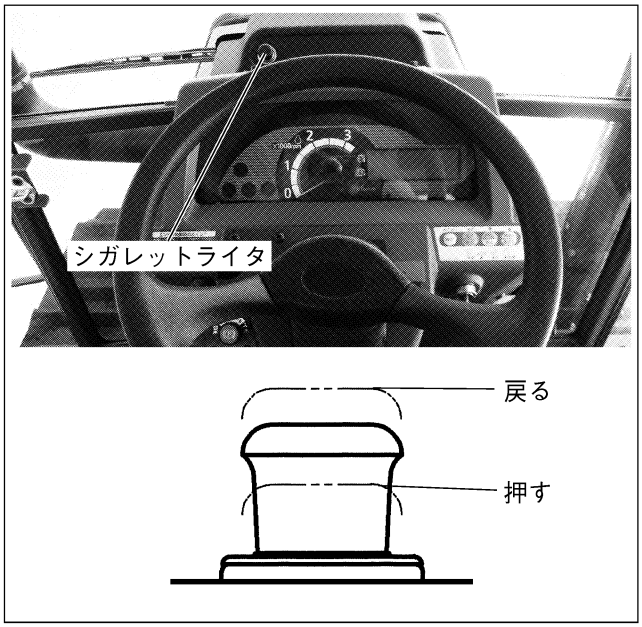
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ない時に20秒以上使用すると，ワイパモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用する時は，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホース等を破損することがあります。

❸ シガレットライタ

⚠警告 火災防止のために

◆キャビン内で喫煙する時は，備付けの灰皿を使用してください。又灰皿の中に可燃物を入れないでください。

エンジン始動状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり，ノブが元の位置に戻ります。その後，引抜いて使用します。



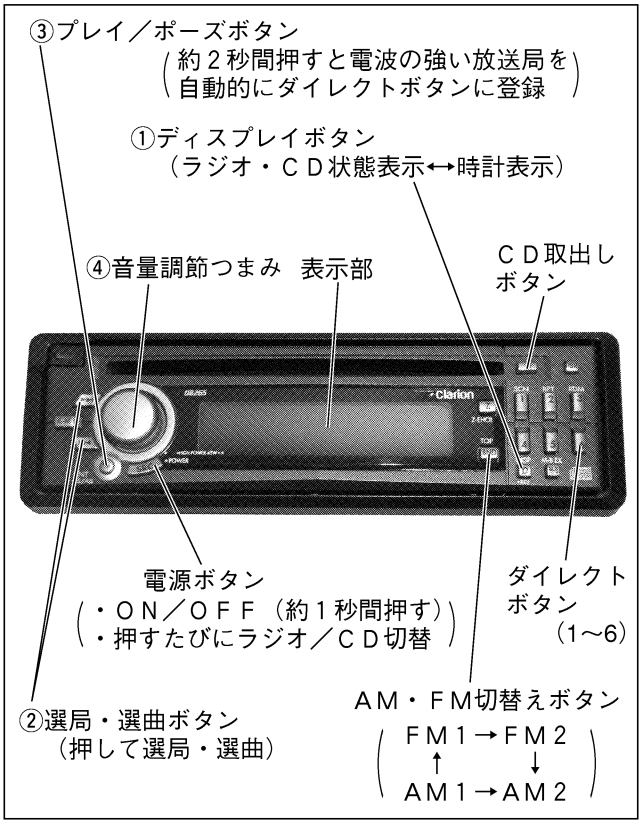
❹ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

時刻合わせ

1．スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。
2．①ボタンを約１秒間押す（「SCRN SVR」の表示になる）
3．②ボタンを押して表示部が「CLOCK〈E〉」になるようにする。
4．③ボタンを押すと設定モードになる。（設定直前の時刻を表示）
5．②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。（点滅部が調整できるところ）
6．④つまみで時刻（数字）を合わせる。
7．③ボタンを押して設定完了。
8．①ボタンを押して（設定）時刻表示。

※バッテリを外すと時刻もリセットされます。



3．室内装備の取扱い

1．灰　　皿

⚠警告　火災防止のために

◆タバコ，マッチの火は，完全に消してから灰皿に入れてください。
使用後，開けたままにしておくと他の吸がらに火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。

◆灰皿には，吸がらをためすぎたり，紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。
火災の原因となります。

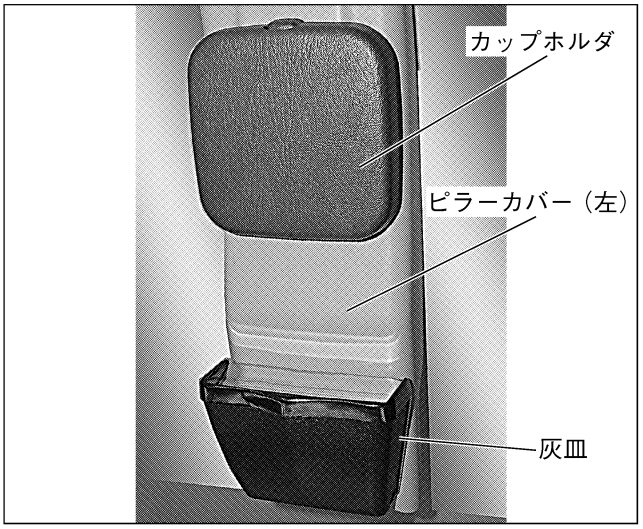
左側のピラーカバーに取付けてあります。使用する時は蓋を開けて使用します。





2．カップホルダ

飲料等のカップをホルダに入れて，固定することができます。

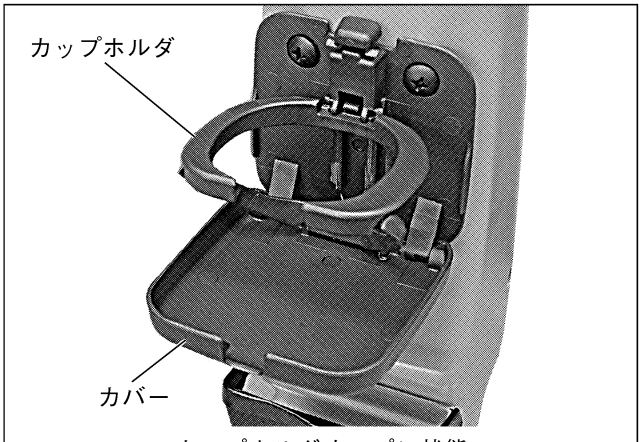


カップホルダは収納式で，ボタンを押すと，オープンします。



カップホルダ収納状態

カップホルダを収納する時は，カバーを「**収納状態**」位置まで押し上げます。



カップホルダオープン状態

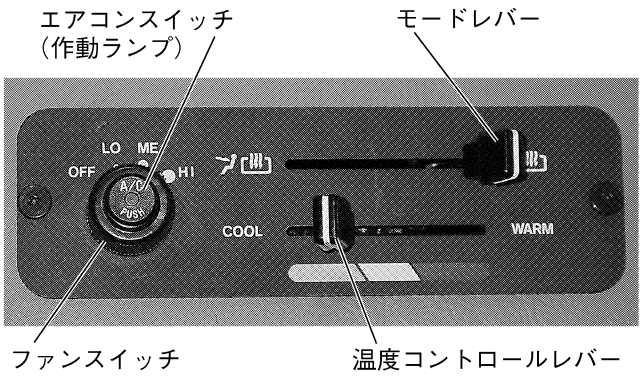
3．エアコン

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

❶操作部



(1) **エアコンスイッチ**



このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2) **モードレバー**



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



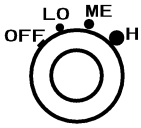
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) **温度コントロールレバー**

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

(4) **ファンスイッチ**

風量を調節します。



《OFF》: ファンが作動しません。
《LO》 : 微風。
《ME》 : 中間風。
《HI》 : 強風。

❷暖房

(1) モードレバーを  又は  にします。

(2) 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。

早く室温を上げたいときは内気循環にします。

(3) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

❸冷房・除湿暖房

(1) モードレバーを にします。

(2) 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。

(3) エアコンスイッチを押し［入］にします。

(4) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。

(5) 温度コントロールレバーをＣＯＯＬ又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

❹頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

❺デフロスタ

フロントガラスの曇り及び凍結解除するときは，

(1) フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。

(2) モードレバーを にします。

(3) 内外気切換えレバーを外気導入にします。

(4) ファンスイッチをHI，温度コントロールレバーをWARM（右側）にします。

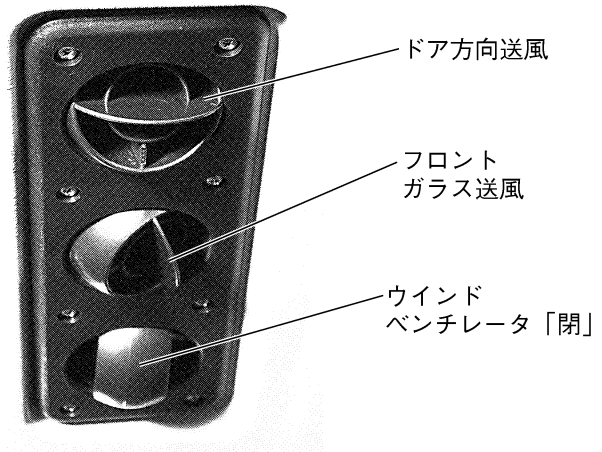
取扱いのポイント

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
  （冷却水の排水のしかたは，トラクタ本機の取扱説明書を参照してください。）
- ウォータホースは 2 シーズンごとに交換を受けてください。
- 日常点検
  次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
  （ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）

＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ。
＊ウォータホースジョイント部の水漏れ。
＊ウォータホースの保護チューブ及び緑ゴムの外れ，破損。
＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損。

- ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
- 冷房し始めた時，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 長時間作業される時，またはタバコを吸われている時は，時々，室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。
- エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差 5 ～ 6 ℃）に調節してください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- エアコンスイッチ，ファンスイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは，シーズンオフでも 1 ケ月に 1 回，10～15分間運転してください。
  エンジンは低回転にした状態で温度コントロールレバーは「冷」の位置，ファンスイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。
  運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

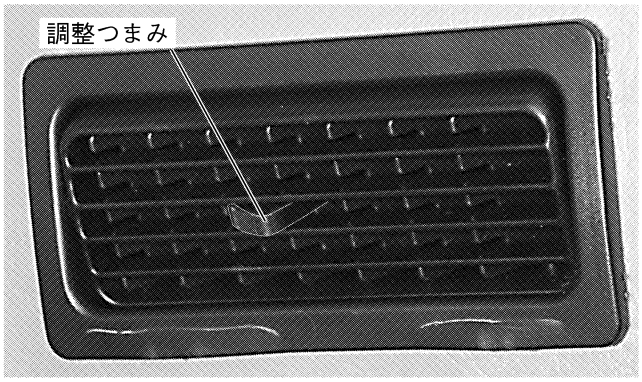
❻フロントベンチレータ



(1) 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

(2) サイドベンチレータからの風量を増したいときは，[閉] にしてください。

❼サイドベンチレータ



(1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備する時は，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備する時は，リフトアーム下げ速度ボリュームを《固定 🔒 》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。
◆取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。

1．定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**を参考に点検・整備をします。
・**「定期点検整備表」**は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。
・**表示記号の説明**　○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔 運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	参照ページ
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給	○					68
	プライマリ燃料フィルタ	点検・掃除・交換			●(初回のみ)	●		71
	セコンダリ燃料フィルタ	点検・掃除・交換				●		69
	燃料ホースの劣化と漏れ	点検・交換	○			●		89
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●(初回のみ)		●		67
	エンジンオイルフィルタ	交換		●(初回のみ)		●		68
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					72〜73
	ラジエータスクリーン・ラジエータフィン	点検・掃除		◎				82〜83
	エアクリーナエレメント	点検・掃除		◎				81
	プレクリーナー	点検・掃除	○					82
	ファンベルト	点検・調整		◎				86
	ラバーカップリング	交換					●(2000時間毎)	76
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○					93〜97
	電気配線（配線，接続部のゆるみ，損傷）	点検・修正	○					90
	計器類	点検	○					—

・表示記号の説明　○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					参照ページ
			運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	
本機関係	油圧作動油タンク	点検・補給・交換	○				●(初回のみ) 1000時間で全量交換	75〜76
	HSTオイルフィルタ	点検・交換			●(初回のみ)		●	77
	ミッションオイル	点検・補給・交換	○		●(初回のみ)	●		74
	トランスミッションオイルフィルタ	点検・交換			●(初回のみ)	●		75
	緊急停止ブレーキペダル	点検	○					10
	各レバー類の作動	点検・調整	○					—
	ボルト，ナットのゆるみ	点検・調整	○					—
	クローラ張り	点検・調整	○					87〜88
	油圧ホース	点検・交換	○					89
	ハンドル・走行レバー	点検	○					89
	走行モータギヤオイル	点検・補給・交換			●(初回のみ)◎		●	73
	油圧作動油フィルタ	交換・掃除					◎(初回のみ) 1000時間で交換	77
	ジョイントシャフト	点検・補給				◎		79
	3点リンクグリスニップル	点検・補給					◎	80
	転輪グリスニップル	点検・補給				◎		80
	アイドラ・トラックローラ	点検・補給・交換	○	◎		●		78
	ウォッシャタンク	点検・補給	○					80〜81
キャビン	コンプレッサベルト	点検・交換	○					86
	内気フィルタ	点検・掃除		◎				84
	外気フィルタ	点検・掃除			◎			85
	ウォータホース	点検・交換			◎			—
	エアコン配管・ホース	点検			◎			—
	ドアヒンジ	点検・補給	○					81
	サイドウインドウヒンジ	点検・補給	○					81
	リヤウインドウヒンジ	点検・補給	○					81

取扱いのポイント

- 機械または，部品等を廃棄するときは「お買い上げ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処理について

■廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

○機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

○地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

○廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，「お買い上げ先」，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

2．給油・給脂・給水のしかた

・工場から出荷の時は，各給油・給脂・給水個所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが，使用する前に点検します。

取扱いのポイント

●各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。

1．給油・給脂・給水表

No.	個所	種類	分類		容量(L)	交換時間	参照ページ
			APIサービス分類	SAE粘度番号			
❶	エンジンクランクケース	エンジンオイル	CH-4/CI-4	10W－30	9.4	作業前点検（必要量補給）・200時間毎交換（初回50時間で交換）	67
❷	燃料タンク	軽油	－	－	180	作業前点検（必要量補給）	68
❸	ラジエータ	冷却水（不凍液５０％含む）	－	－	17.9	作業前点検（必要量補給）	72～73
❹	走行モータ	ギヤオイル	GL－４	＃90	4.0	100時間毎点検（必要量補給） 300時間毎交換（初回100時間で交換）	73
❺	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－４	80W（10W－30）	24	作業前点検，200時間毎交換（初回100時間で交換）	74
❻	油圧作動油タンク	油圧作動油	ISO規格ＶＧ４６	－	89.2	作業前点検（必要量補給） 1000時間毎交換（初回300時間で交換）	75～76
❼	ジョイントシャフト	グリス	－	－	適量	格納前点検（必要量給脂） 200時間ごと給脂	79
❽	３点リンクグリスニップル	〃	－	－	〃	格納前点検（必要量給脂） 300時間ごと給脂	80
❾	転輪グリスニップル	〃	－	－	〃	格納前点検（必要量給脂） 200時間ごと給脂	80
❿	ウォッシャタンク	ウォッシャ液（市販品）	－	－	2.0	作業前点検（必要時補給）	80～81
⓫	ドアヒンジ	ギヤオイル	－	－	適量	作業前点検（必要時注油）	81
⓬	サイドウインドウヒンジ	〃	－	－	〃	作業前点検（必要時注油）	81
⓭	リヤウインドウヒンジ	〃	－		〃	作業前点検（必要時注油）	81
⓮	アイドラトラックローラ	〃	GL－４	#80/#90	0.30～0.33	作業前点検（必要時注油） 50時間毎給油，200時間毎交換	78

取扱いのポイント

●エンジンオイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CH－4又はCI－4に限る，SAE・10W－30

●燃　　料……ディーゼル軽油　JIS２号（－10℃まで）
JIS３号（－15℃まで）
JIS特３号（－15℃以下）

●ギヤオイル……純正油またはAPI分類GL－４級以上，SAE・80Wまたは10W－30

●油圧作動油……ISO規格VG46

※使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。

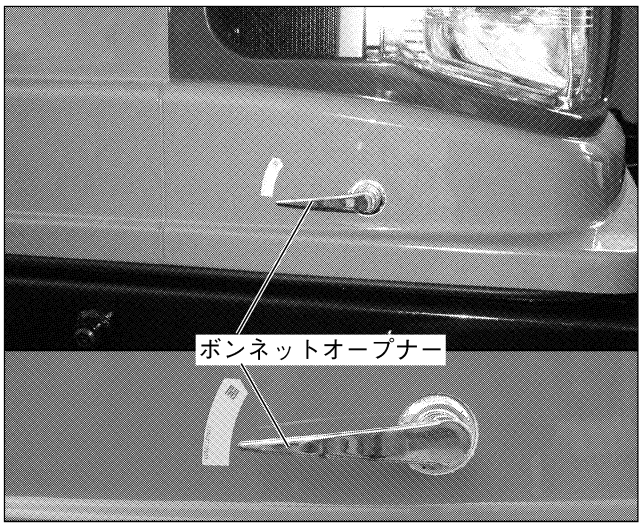
2．ボンネットの開閉

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ボンネットは，エンジンが停止して，冷えた状態の時に開けてください。
◆ボンネットを閉めるときに手を挟まないように気をつけてください。
◆ボンネットは確実に閉めてください。ロックされていないと，走行中に開いて，前方視界を遮ることがあります。

❶　ボンネットの開けかた

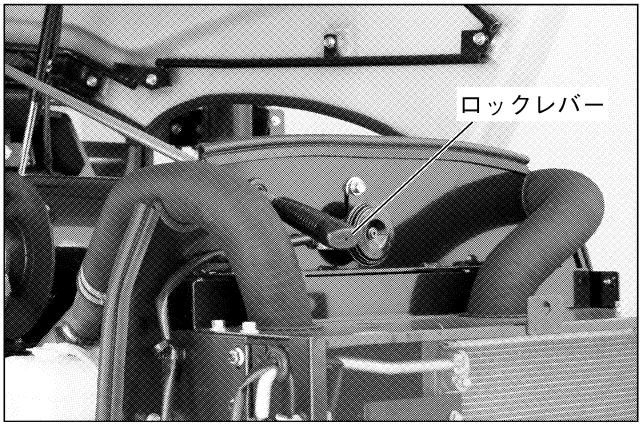
⑴　ボンネットオープナーを上方に回動させるとロックが解除します。

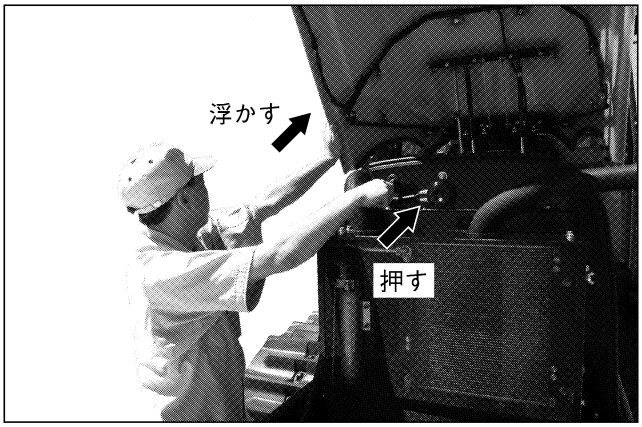


⑵　ボンネットをゆっくり持ち上げます。
ガスダンパーの力でボンネットは軽く持ち上がり，一定の位置まで上がると自動的に固定されます。

❷　ボンネットの閉じかた

⑴　左手でボンネットを浮かし右手でロックレバーを押すとボンネットのロックが解除できます。





⑵　ボンネットを閉める時はボンネット端部を両手で支えて，ゆっくりと降ろします。「カチャッ」とロック音がしたら，固定完了です。

3．エンジンオイルの点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。**
- **オイルの粘度は，外気温によって下表のように使い分けてください。**

気温℃	−20	−10	0	10	20	30
エンジンオイル	SAE10W−30					
	SAE5W−40					

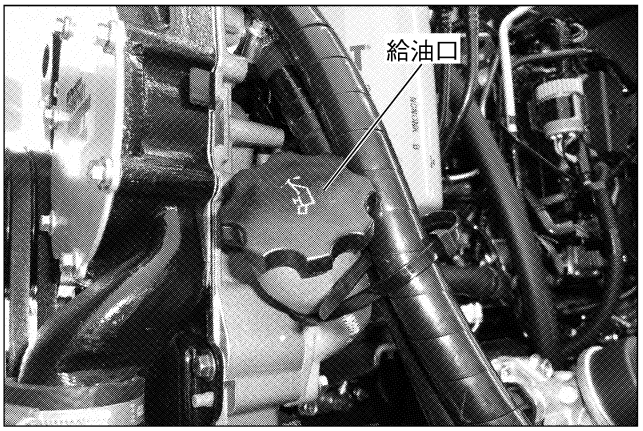
❶　エンジンオイルの点検

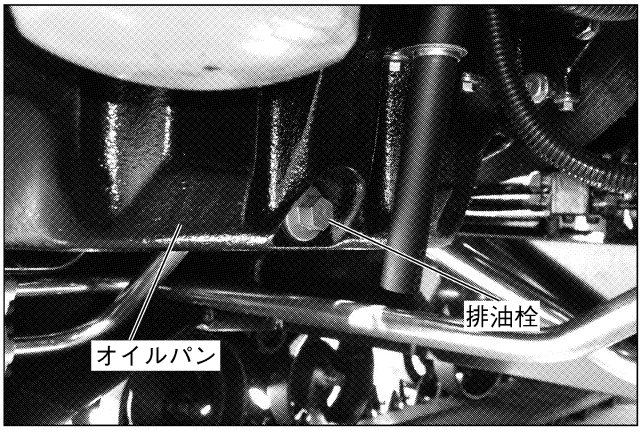
レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜出し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」と「**下限**」の間（規定量）にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。

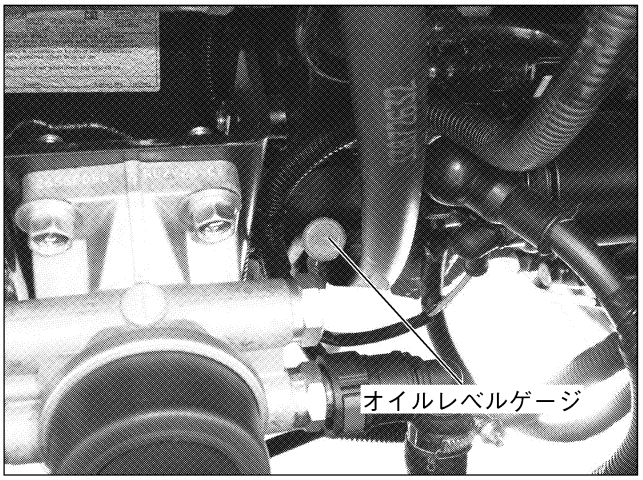
❷　エンジンオイルの交換

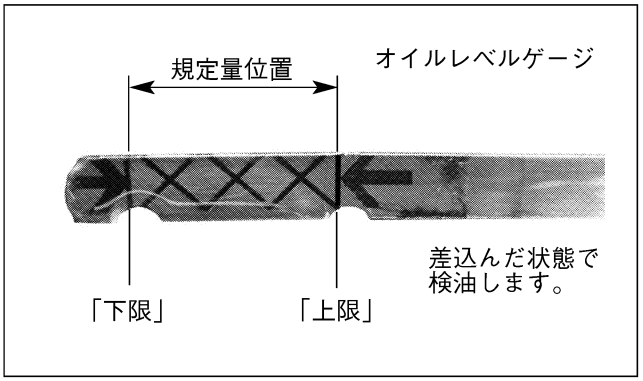
⑴　オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓（エンジン下部）を外し，オイルを抜きます。

⑵　排油栓を締め新しいエンジンオイルを，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。









4．エンジンオイルフィルタの交換

エンジンオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，ご購入のうえ交換します。

・初回……50時間運転後に交換

・第2回目より…200時間運転ごとに交換

❶ エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して，外します。

❷ エンジンオイルフィルタを交換した時は，オイルフィルタの容量分オイルが多く入ります。オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときはオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイルフィルタを取付ける時は，パッキン面にオイルを塗り，エンジンオイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

5．燃料の補給

⚠警告 火災防止のために

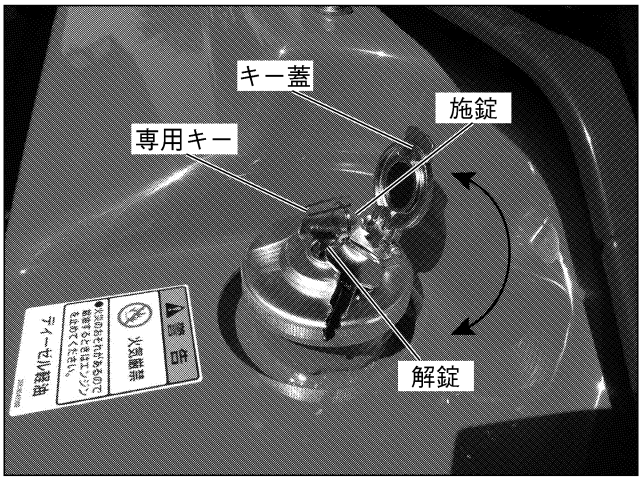
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。

◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

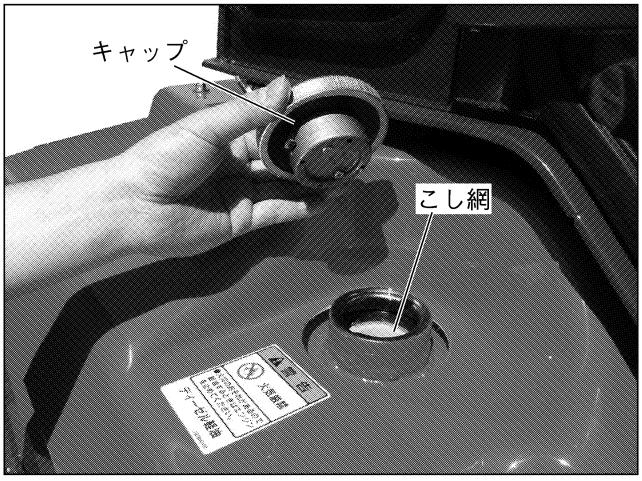
◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし，もれている場合は交換してください。

燃料カバー開閉のしかた

❶ キャップのキー蓋を起こし，専用キーをキー溝に入れ，右に回すと解錠され，施錠は左に回します。



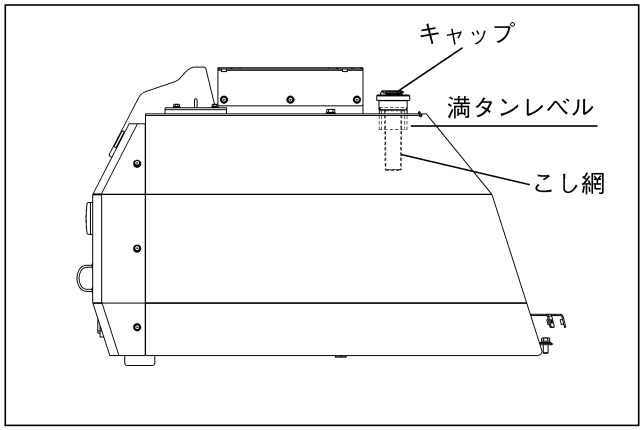
❷ タンクのキャップをねじって外し，「**こし網**」をとおして燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。



❸ キーを《 入》（エンジン停止状態）にして燃料を補給すると満タン付近になったときにブザー（ピーピーピー）でお知らせします。

取扱いのポイント

- **燃料補給後は，キーを《 切》にしてください。キーが《 入》（エンジン停止状態）で放置されると，ブザー（ピー）で切り忘れをお知らせします。**
- **燃料は，下図の満タンレベルまで補給してください。満タンレベル以上補給すると燃料があふれる場合があります。**



6．セコンダリ燃料フィルタの交換

⚠警告 火災防止のために

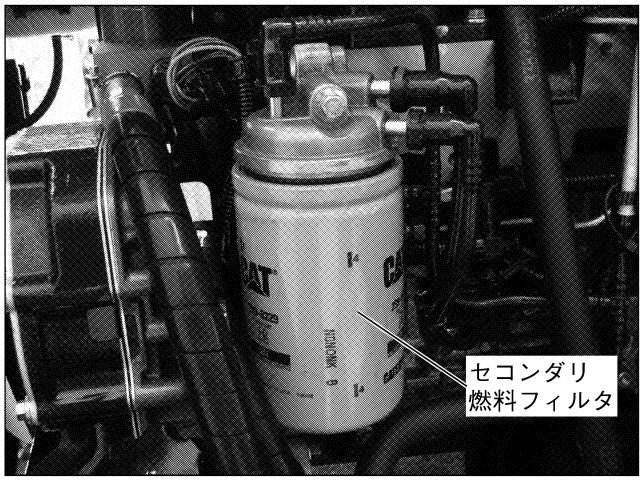
◆セコンダリ燃料フィルタを交換するときに，燃料がこぼれることがありますので，こぼれた燃料をふきとってください。

燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，ご購入のうえ交換します。

・200時間運転ごとに交換

❶ セコンダリ燃料フィルタ（カートリッジタイプ）は，手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して，外します。

❷ セコンダリ燃料フィルタを交換した時は，7. **エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。



取扱いのポイント

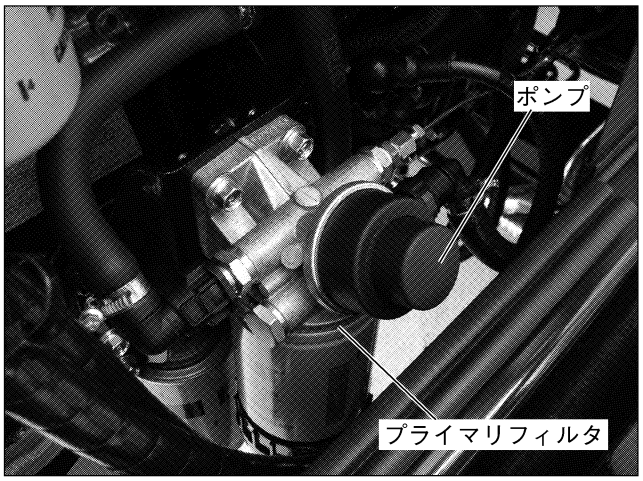
- **セコンダリ燃料フィルタは，プライマリ燃料フィルタと同時に交換してください。**

7．エア抜き要領

❶　燃料が空のときは10L以上補給します。

❷　ボンネットを開きます。

❸　プライマリ燃料フィルタ上部のポンプを数回押すと，燃料中に含まれている空気が抜けます。



❹　ボンネットを閉めます。

❺　スタータスイッチを《**始動**》にしてエンジンを始動します。

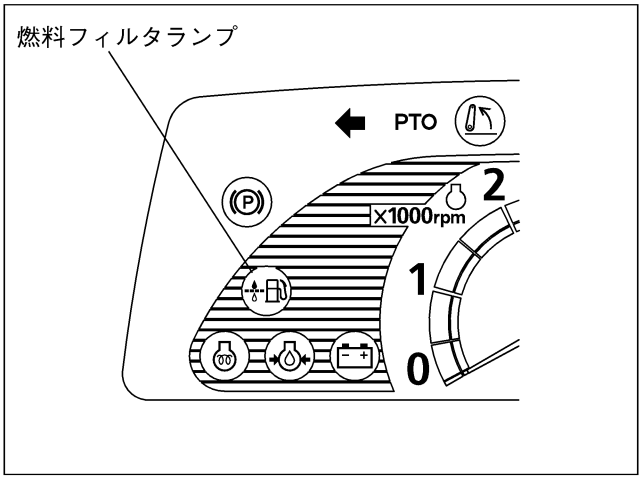
エンジンが始動しない場合は，まだ燃料中に空気が入っていることが考えられます。❷～❺の手順を繰り返して行ってください。

取扱いのポイント

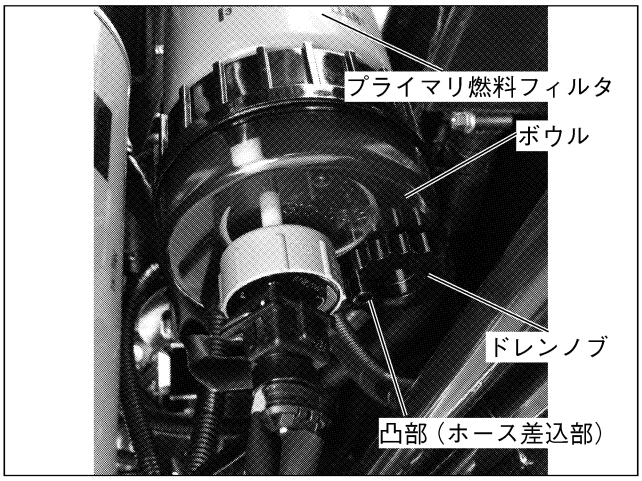
- **燃料切れなどによる，燃料への空気混入は，たとえエンジンが再始動できたとしても，馬力の低下などを引き起こし，作業に支障をきたします。エア抜きは必ず行うようにしてください。**

8．プライマリ燃料フィルタの水抜き要領

燃料フィルタランプが点灯したらただちに水抜きを行ってください。



❶　プライマリ燃料フィルタの底にあるドレンノブの凸部に適切なホースを差し込んでドレンノブをゆるめます。



❷　ボウルに溜まっていた水がホースから出てきますので容器に受けてください。

❸　水を抜き終わったらホースを抜きドレンノブを締めます。

9．プライマリ燃料フィルタの交換

⚠警告 火災防止のために

◆プライマリ燃料フィルタを交換ときに，燃料がこぼれることがありますので，こぼれた燃料をふきとってください。

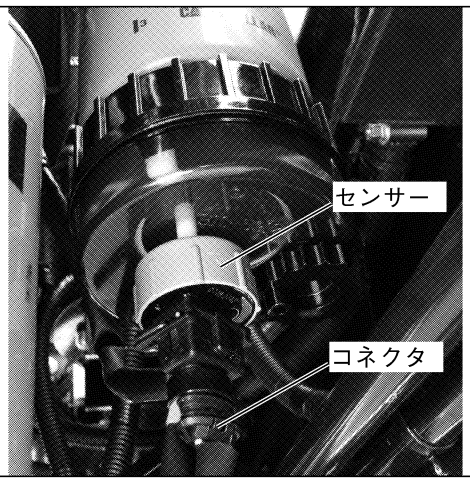
燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，ご購入のうえ交換します。

・初回……100時間運転後に交換

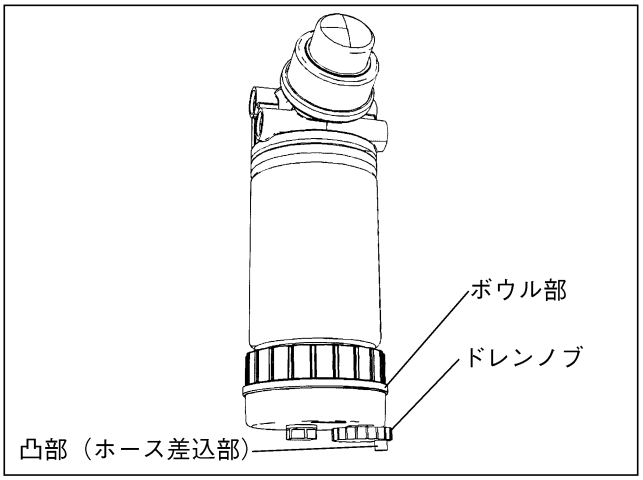
・第 2 回目より…200時間運転ごとに交換

❶ **8. プライマリ燃料フィルタの水抜き要領** の手順であらかじめ水抜きをおこないます。

❷ センサーにつながっている配線ハーネスをコネクタ部から外します。

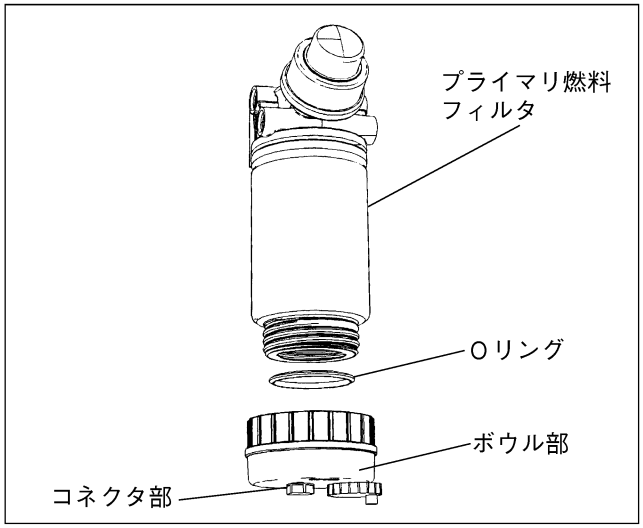


❸ ボウル部を回して外します。



❹ プライマリ燃料フィルタを交換します。

❺ Oリングをボウル部にセットしてボウル部を取付けます。



❻ センサー用の配線ハーネスをコネクタ部につなぎます。

❼ プライマリ燃料フィルタを交換した時は **7.エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。

取扱いのポイント

- **プライマリ燃料フィルタは，セコンダリ燃料フィルタと同時に交換してください。（初回，「100時間運転後」時を除く）**

10. 冷却水の保守管理

⚠警告 ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

◆冷却水の交換時期・濃度管理を確実に行なってください。ヒーターが室内にあり，管理が不充分な場合ヒーターコアチューブが腐食し室内に熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。

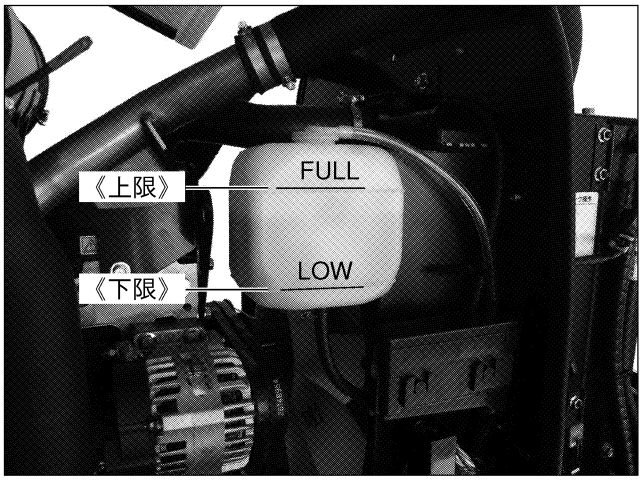
ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

❶ 冷却水の点検

(1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足している時は補給します。

(2) ボンネットを開いてリザーブタンク内の冷却水が《**FULL**》（**上限**），《**LOW**》（**下限**）の間にあることを確認します。

(3) 冷却水が不足している時はリザーブタンクに補給します。



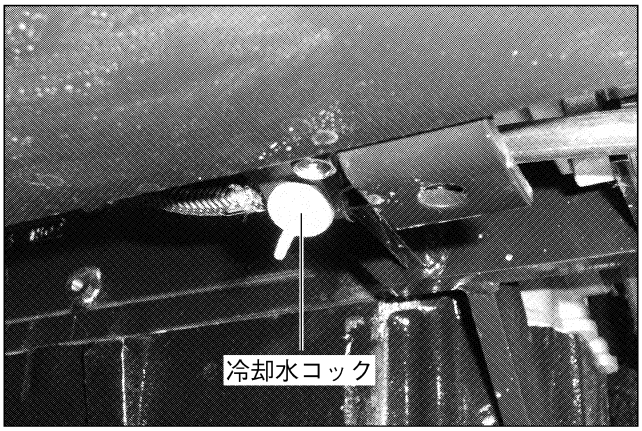
❷ 冷却水の交換

(1) ボンネットを開きラジエータキャップを外します。



(2) ラジエータ下側のエンジン冷却水コックをゆるめ，冷却水を排水します。

リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



(3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

(5) リザーブタンクの《**FULL**》（**上限**）まで冷却水を入れます。

・一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますのでリザーブタンクの《**FULL**》（**上限**）まで補給します。

・ラジエータ内部の腐食を防止するため，冷却水に防錆剤を添加します。

❸ 不凍液の注入要領

⑴ 工場出荷の時は不凍液が注入され「**外気温度ー25℃**」まで効力がありますが，納入後２年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き，**清水５０％，不凍液５０％**の割合で混合したものと入れ替えます。

・不凍液は純正品の「**ロングライフクーラント(LLC)**」を使用します。

・交換方法

⑴ 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量入れます。

⑵ 清水を加え，よく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

- **冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。**
- **ロングライフクーラント（LLC）を使用しないと，冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。純正品の「ロングライフクーラント(LLC)」を清水と５０対５０の割合で混合してご使用ください。**
- **ロングライフクーラント（LLC）は緑色です。他の色の不凍液は，純正品の「ロングライフクーラント(LLC)」ではありません。**
- **純正品の「ロングライフクーラント（LLC)」と他の種類の不凍液を混合して使用しないでください。混合して使用すると，エンジンやラジエータを破損することがあります。**
  もし間違って，他の不凍液を混合した場合は，すぐに全量交換します。
- **不凍液は産業廃棄物にあたります，河川，土壌への廃棄は行わないでください。廃棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。**

11．走行モータオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行モータの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

・オイルの点検・補給・交換時は走行モータの給油口を下の写真の位置にします。

❶ 点検

・検油栓を外し，オイル油面が検油口と同じ位置なら適量です。

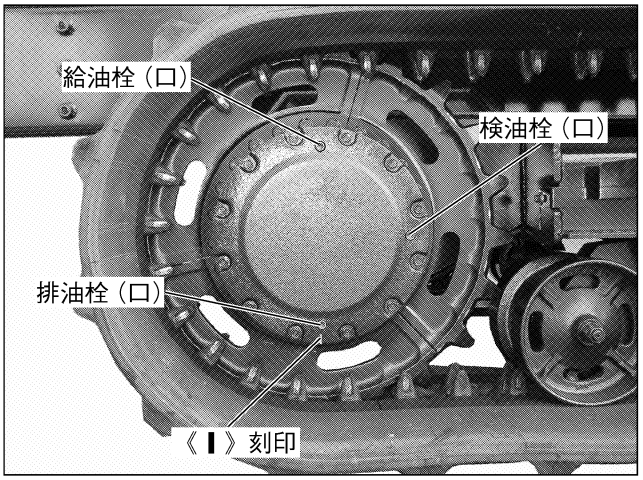
❷ 補給

・不足している場合はオイルが検油口より溢れてくるまで補給します。

❸ オイルの交換

⑴ 排油栓，検油栓を外しオイルを抜きます。

⑵ 排油栓を締め新しいギヤオイルを，検油口より溢れてくるまで補給します。



取扱いのポイント

- **作業後，各栓は確実に取り付けてください。**
- **点検やオイル交換の時は写真のように，《▌》が真下にくる様に機械を移動してから行います。**

12．ミッションオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検

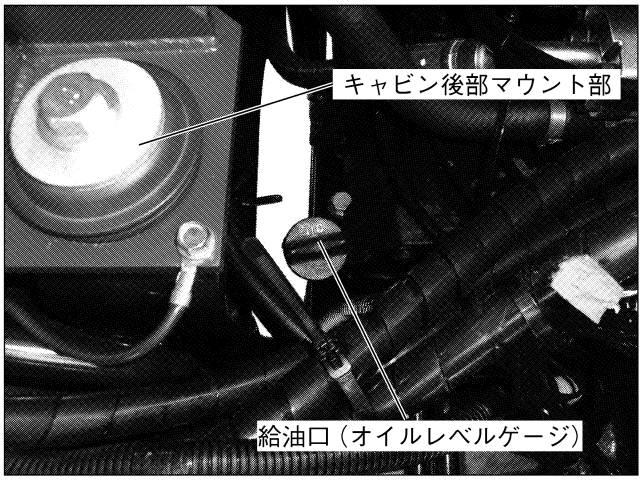
・給油栓を外し，オイルレベルゲージに付いているオイルをきれいにふき取ります。給油栓を下図の様にミッションケースに**ねじ込まない状態**で検油します。オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」から「**下限**」の間 (規定量) まであれば適量です。

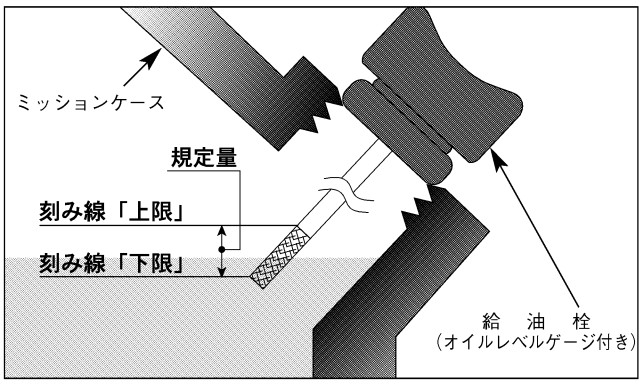
・エンジンを始動しているときは，オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して，５分以上たってから行います。

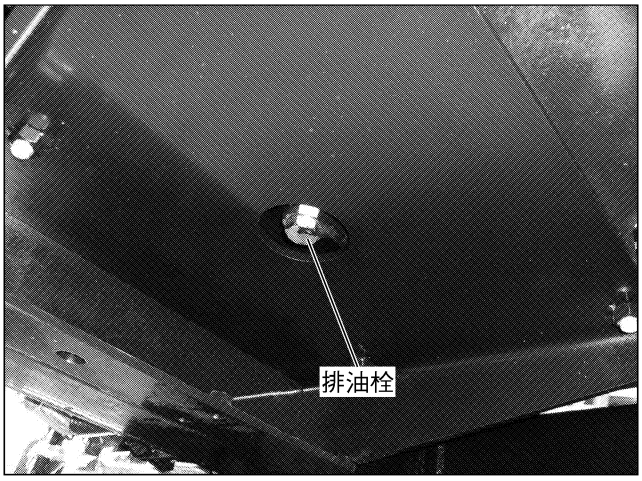
・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

❷ 補給

・不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。







❸ オイルの交換

(1) ミッションハウジング後方下部の排油栓を外しオイルを抜きます。

(2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **作業後は給油栓を確実に締めてください。**

13．トランスミッション オイルフィルタの交換

トランスミッションオイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので，お買いあげのうえ交換します。

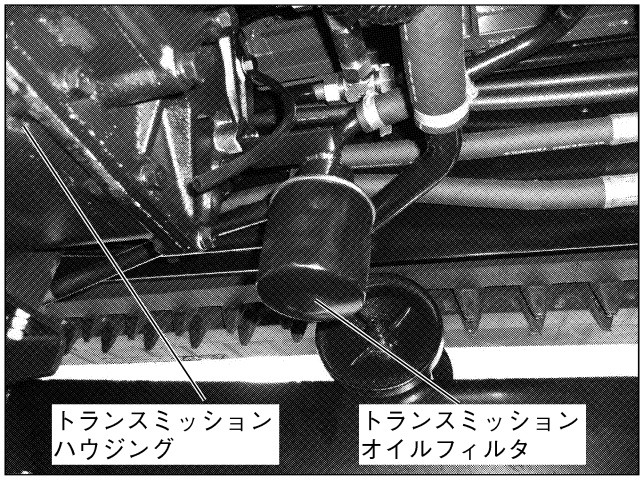
・初回……100時間運転後に交換。

・第２回目より……200時間運転ごとに交換。

❶　ミッションハウジング下のトランスミッションオイルフィルタの回りの土などを取除きます。

❷　トランスミッションオイルフィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外します。

❸　トランスミッションオイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入ります。５分間運転してエンジン停止し，５分以上たってからオイルレベルゲージで確認して，不足している場合は，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **トランスミッションオイルフィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り，トランスミッションオイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

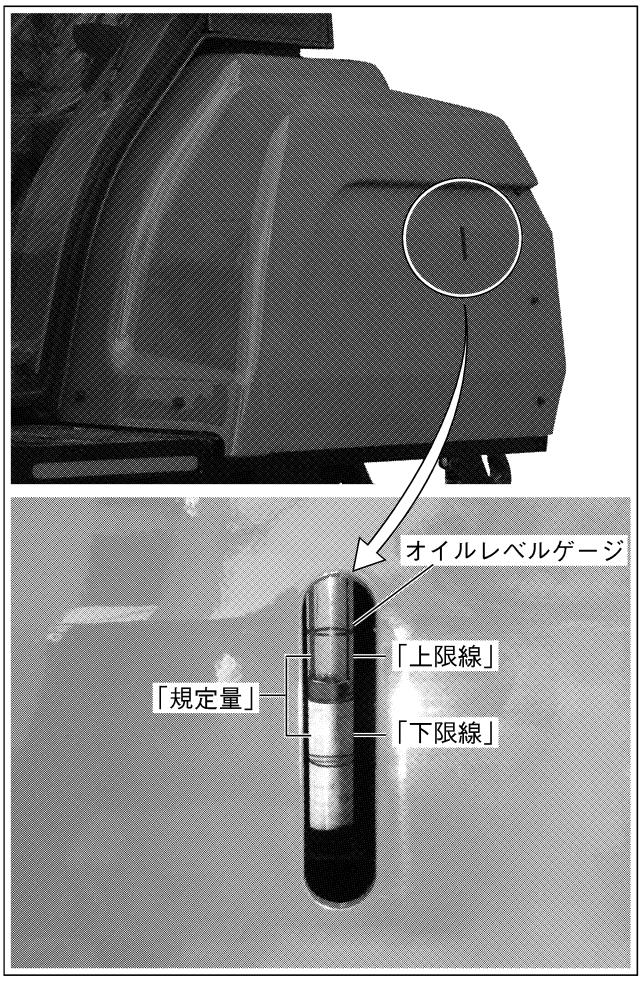
14．油圧作動油の点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆油圧作動油の点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶　点検

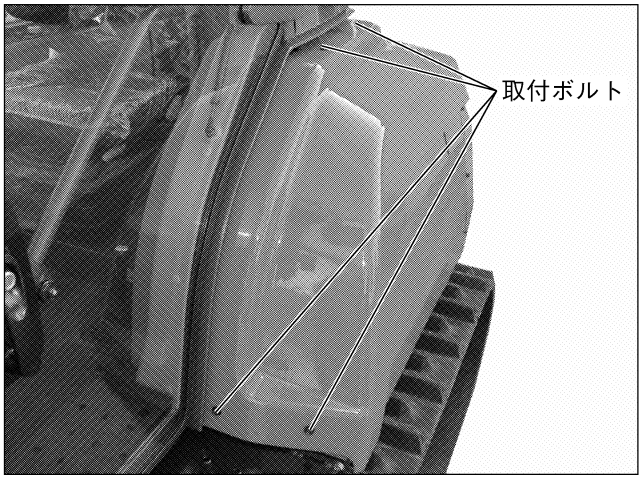
油圧作動油タンク右側面の穴からオイルレベルゲージが見えます。油圧作動油の量が規定量（上限線と下限線の間）であれば適量です。不足している場合は，オイルレベルゲージの「**上限線**」まで補給します。

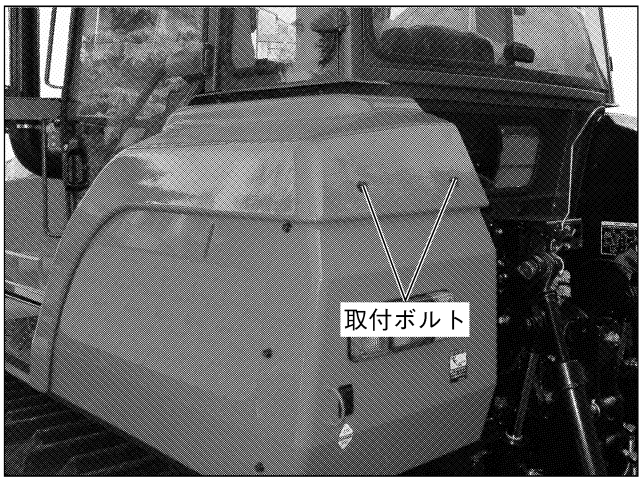


❷ 補給

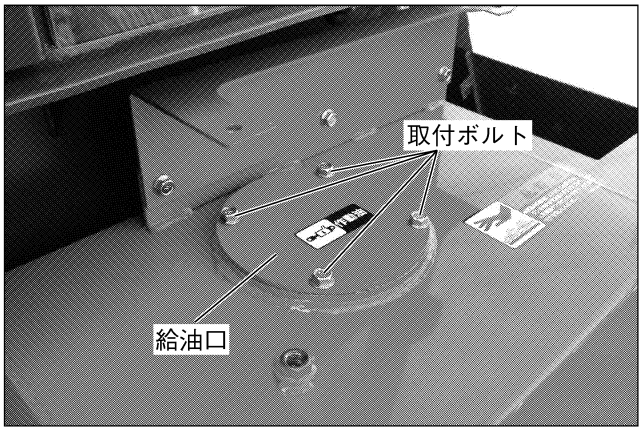
・点検時にオイル量が不足している場合は以下の手順で補給します。

(1) 油圧作動油タンク上部のカバーを外します。





(2) 給油口（フタ）を固定しているボルト（4個）を徐々に緩めて，内圧を解放してから給油口（フタ）を外します。



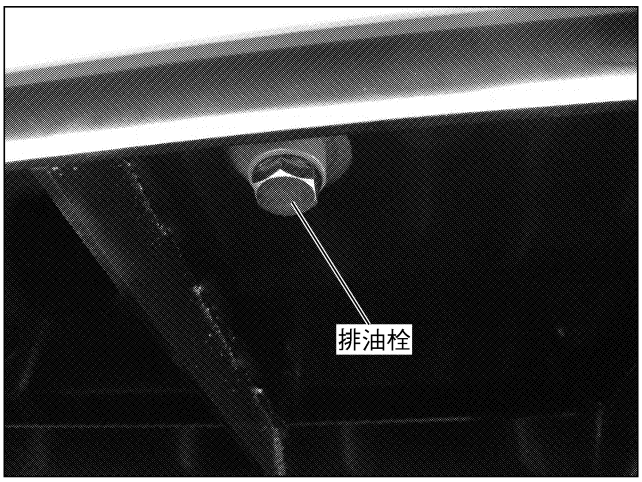
(3) オイルレベルゲージ「**上限線**」まで補給し給油口（フタ）を締めてボルトで固定します。

(4) タンク上部のカバーを取り付けます。

❸ 交換

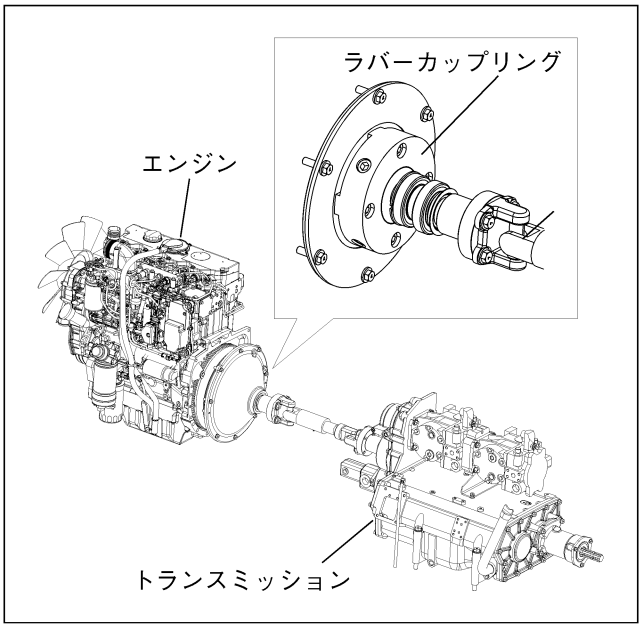
・定期交換時間に交換します。

(1) 油圧作動油タンク底部の排油栓,（ボルト）を緩めて外すと，タンク内のオイルが排出されます。



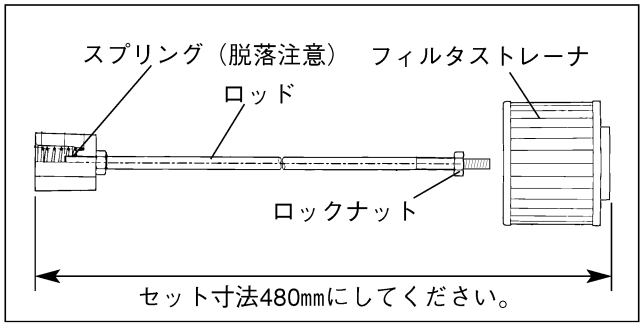
15．ラバーカップリングの交換

ラバーカップリングは2000時間運転毎に交換が必要です。交換については「お買いあげ先」にご相談ください。

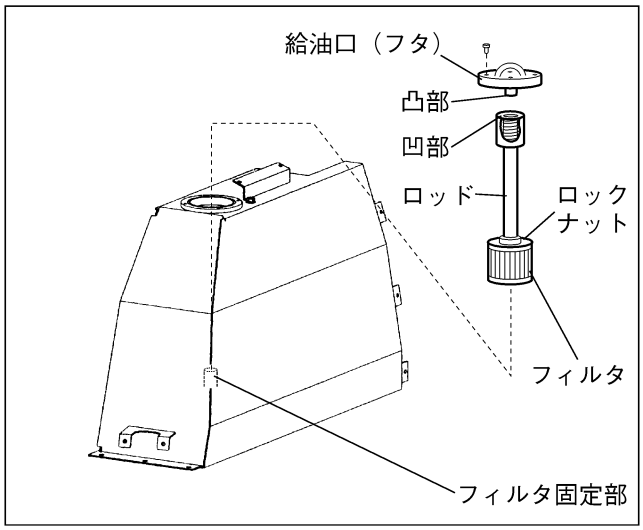


16．油圧作動油フィルタの交換

油圧作動油フィルタは「フィルタストレーナ」を，お買いあげのうえ交換します。
油圧作動油の交換と併せて，タンクが空の状態で交換します。
・初回……３００時間で白灯油で洗浄します。
・第２回目より……１０００時間ごとに交換。
❶ 給油口（フタ）を外すと，油圧作動油タンク内からロッドが覗きます。このロッドを引き上げると，先端にフィルタが付いているので，ロックナットをゆるめてフィルタを外します。

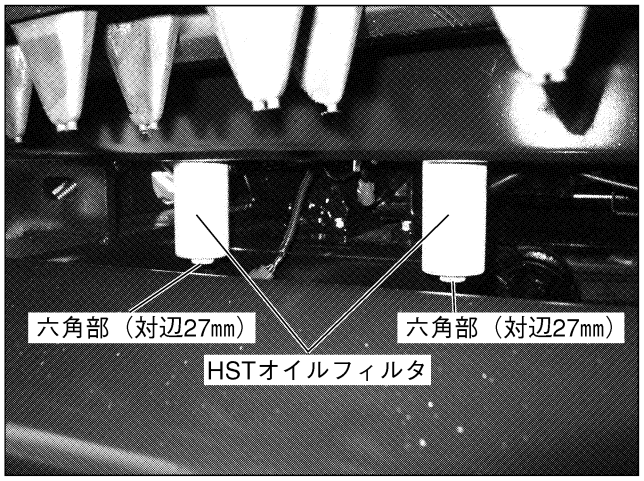


❷ 交換後は，フィルタを下にして油圧作動油タンク内に降ろし，フィルタをフィルタ固定部にはめ込みます。
❸ 給油口（フタ）の凸部とロッドの凹部がはまる様に挿入し，給油口（フタ）を固定します。



17．HSTオイルフィルタの交換

HSTオイルフィルタは「エレメントアセンブリ」をお買いあげのうえ交換します。
・初回……１００時間運転後に交換。
・第２回目以降……３００時間運転毎に交換。
❶ ミッションハウジング下のHSTオイルフィルタの回りの土などを取除きます。
❷ HSTオイルフィルタは底の六角部をスパナでゆるめて外します。
❸ HSTオイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入ります。５分間運転してエンジン停止し５分以上たってから油圧作動油タンクの検油パイプで確認し，不足している場合は，オイルレベルゲージの「**上限線**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **フィルタカートリッジのOリングには清浄なオイルを塗布してから取付けます。**

18．トラックローラの給油

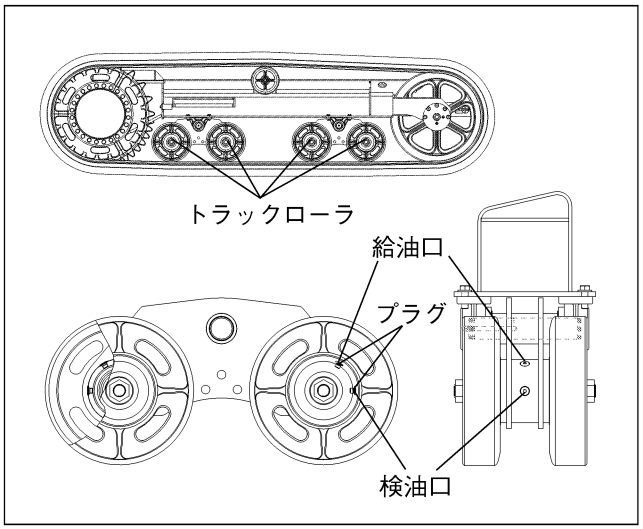
トラックローラ部はオイルバス構造となっていますので定期的に給油する必要があります。

❶ プラグ２ヶ所を外します。

❷ 検油口からオイルが出てくるまで給油口より給油します。

❸ プラグ２ヶ所を締め付けます。

❹ こぼれたオイルはきれいに拭き取ってください。



取扱いのポイント

- **オイル補給量がいちじるしく多い場合はオイルシールが破損している場合がありますので「お買いあげ先」にご相談ください。**

19．アイドラの給油

アイドラ部はオイルバス構造となっていますので定期的に給油する必要があります。

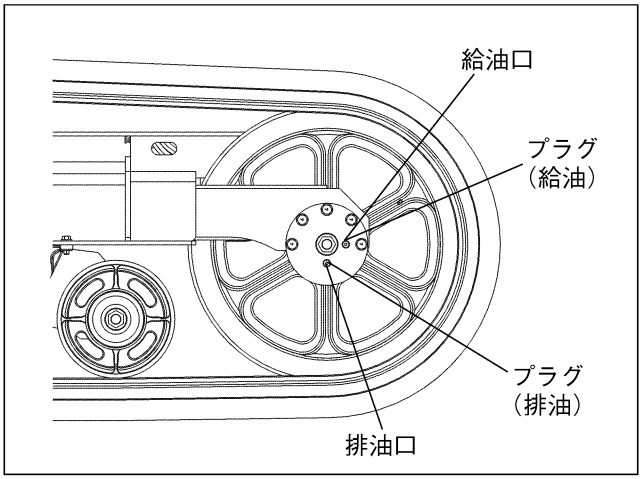
❶ 補給のしかた

(1) プラグ（給油）を外します。

(2) 給油口からオイルが出てくるまで給油します。

(3) プラグ（給油）を締め付けます。

(4) こぼれたオイルはきれいに拭き取ってください。



❷ 交換のしかた

(1) プラグ（給油）とプラグ（排油）を外しオイルを抜きます。

(2) プラグ（排油）を締め付けます。

(3) 給油口からオイルが出てくるまで給油します。

(4) プラグ（給油）を締め付けます。

(5) こぼれたオイルはきれいに拭き取ってください。

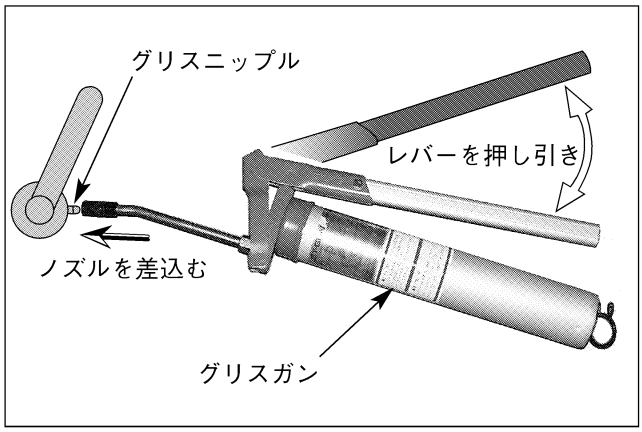
取扱いのポイント

- **オイル補給量がいちじるしく多い場合はオイルシールが破損している場合がありますので「お買いあげ先」にご相談ください。**

20．グリスガンによる給脂

・機械の給脂部にはグリスニップルが付いています。

❶　グリスニップルにノズルを差込み，レバーを押し引きしてグリスを注入します。



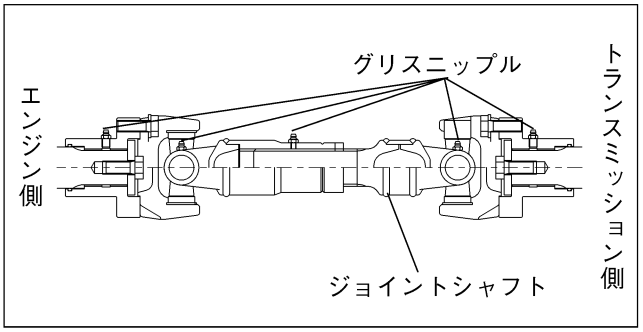
❷　グリスが溢れるまで注入し，溢れたグリスを布等でふき取ってください。

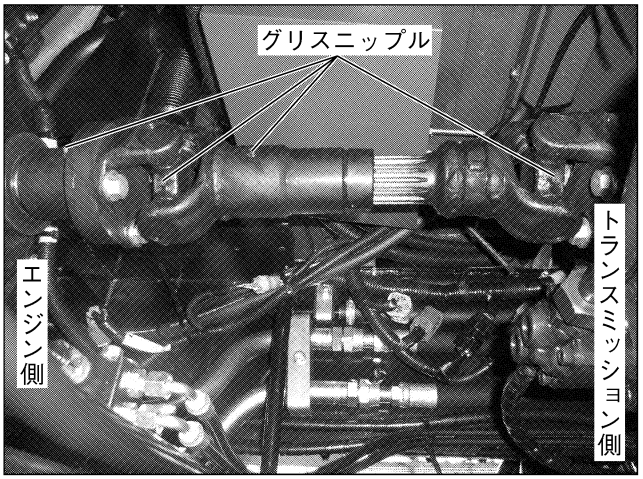
取扱いのポイント

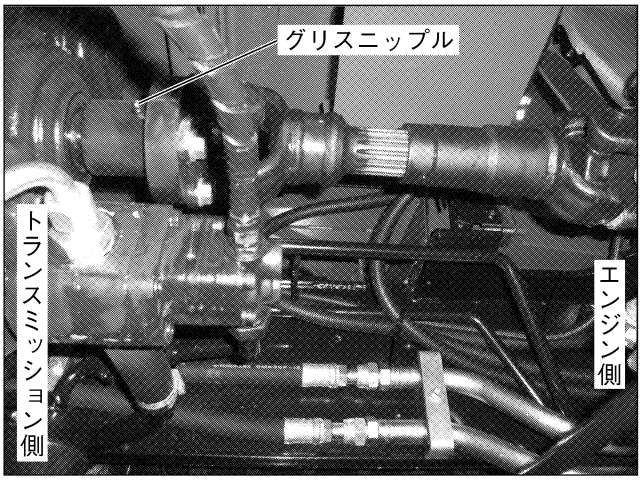
- **機械の性能を長く保つために給脂，注油は頻繁に行ってください。**

21．ジョイントシャフトの給脂

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。
（ジョイントシャフト両端 5 個所）



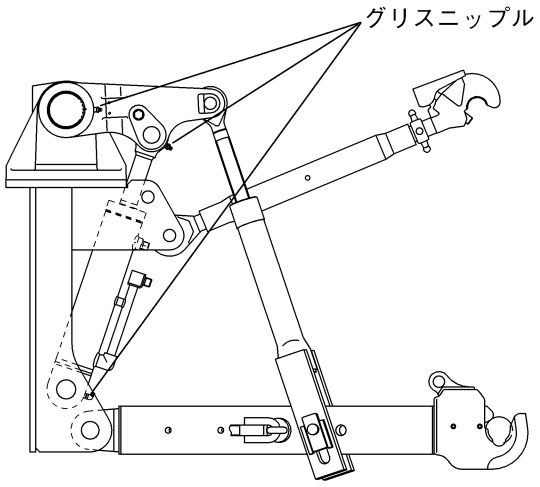


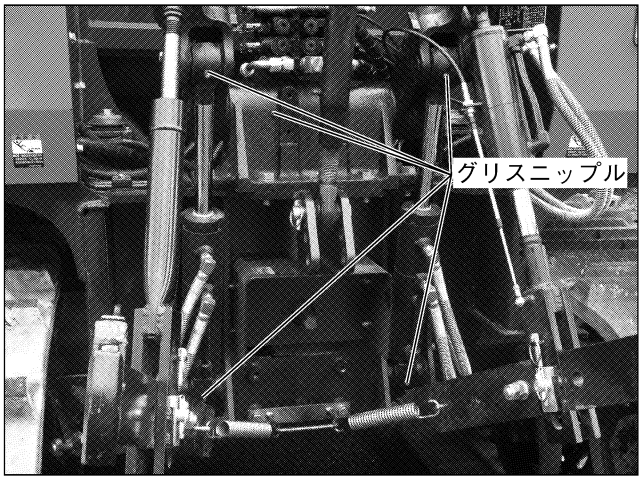


22．3点リンクの給脂

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。
（5個所，片側2個所，中央1個所）

［3点リンク側面］

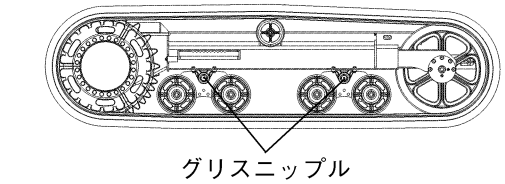


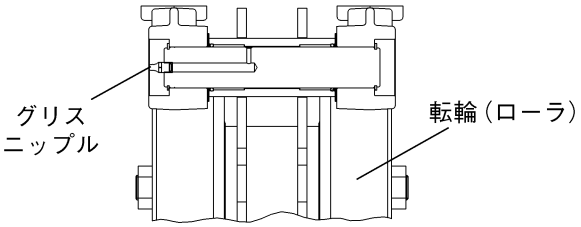


23．転輪（ローラ）の給脂

シャフト部の給脂

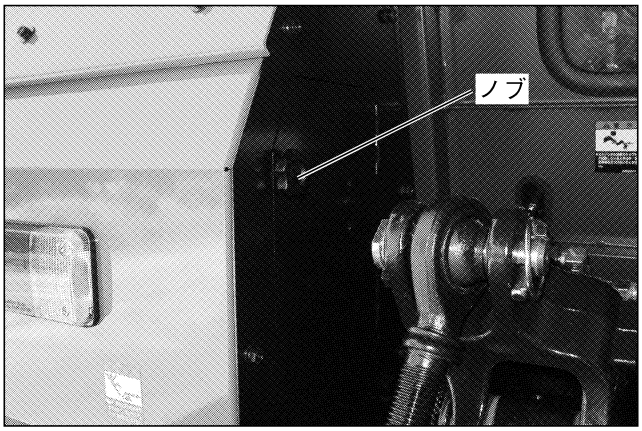
・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



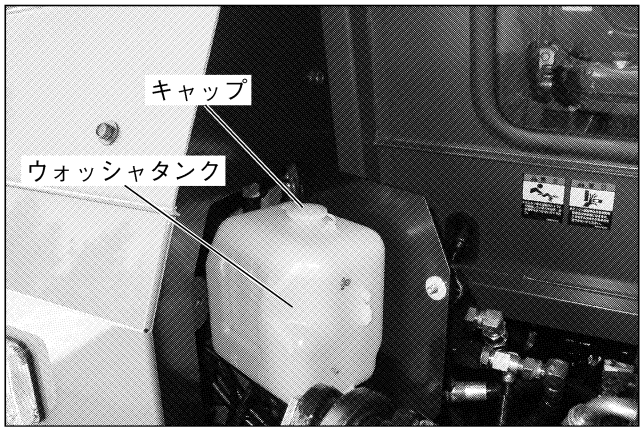


24．ウォッシャ液の補給

❶　機械左側後方のノブをゆるめ開けます。

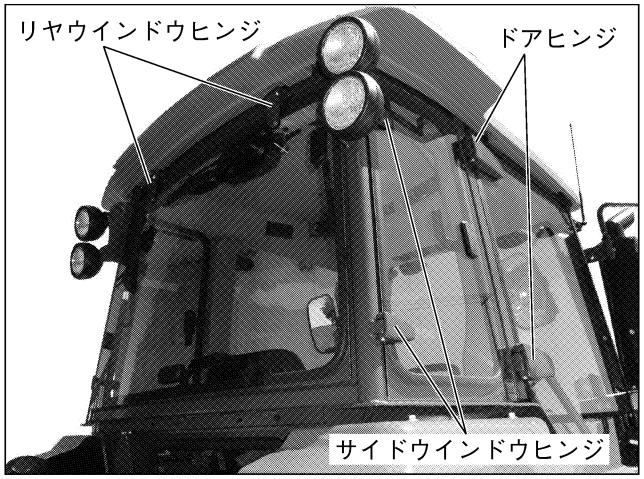


❷ ウォッシャタンクのキャップを開いて必要量補給します。（満量2.0L）



25．ヒンジ部の注油

・オイル差しにギヤオイルを入れたもので注油します。
・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。
・開閉するとき重く感じた時，または開閉時に音がする場合は注油します。
・ドアヒンジ部の注油（片側 2 個所）
・サイドウインドウヒンジ部の注油（片側 2 個所）
・リヤウインドウヒンジ部の注油（ 2 個所）



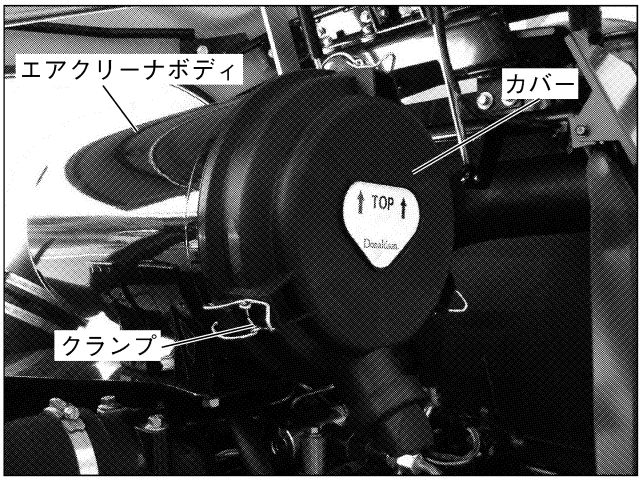
3．各部の掃除のしかた

1．エアクリーナの掃除

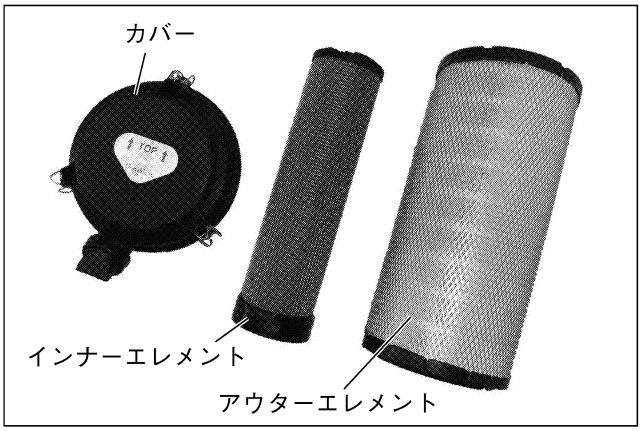
エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると，エンジン内部が摩耗します。また出力が低下します。

❶ ボンネットを開きます。

❷ クランプ（**3 個所**）を外し，エアクリーナのカバーを取外します。



❸ エレメントを取出します。



❹ エレメント・カバー・エアクリーナボデーの内部を掃除します。

❺ 掃除が終わったらエレメント，カバーを元どおり組み付けます。

取扱いのポイント

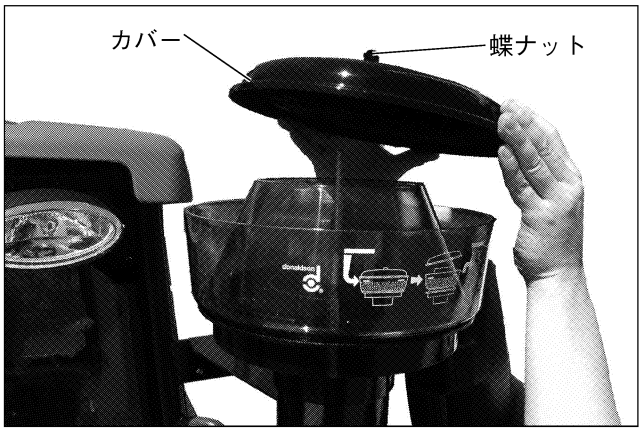
● コンプレッサで吹きつける場合は，空気圧「686kPa（7 kgf／㎠）以下」で行なってください。

2．プレクリーナの掃除

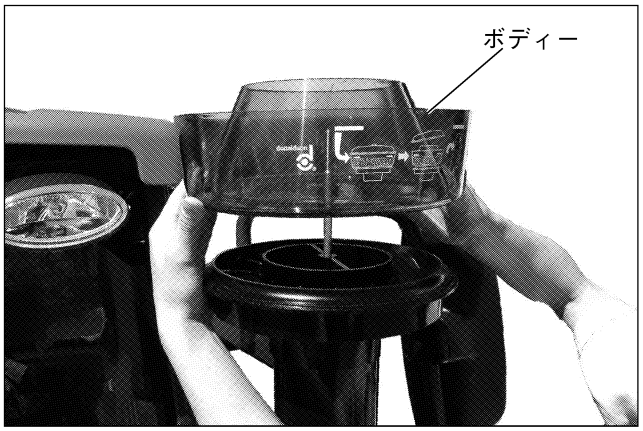
プレクリーナにゴミが溜まったまま使用するとエアクリーナが汚れエンジン出力が低下する場合があります。警告マーク位置以上にゴミが溜まらぬよう掃除します。



❶　蝶ナットをゆるめてカバーを取外し，内側を掃除します。



❷　ボディーを取外し中に溜まっている「ゴミ・ワラ」等を取除き内部を掃除します。



❸　掃除が終わったらボディー，カバーを取り付け蝶ナットを締め付けます。

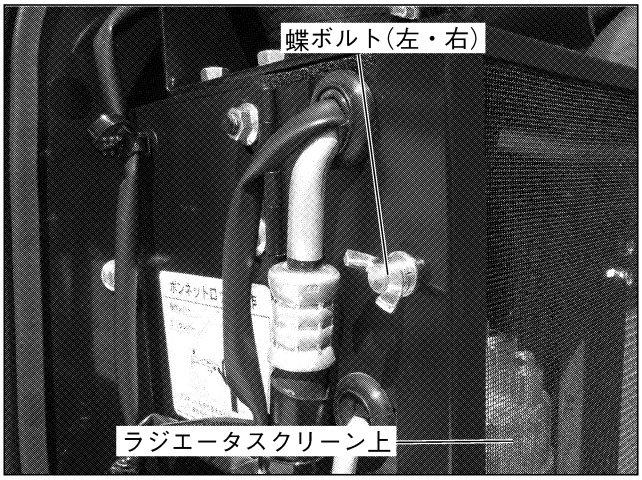
3．ラジエータスクリーン，コンデンサフィンの掃除

⚠警告　ヤケド防止のために

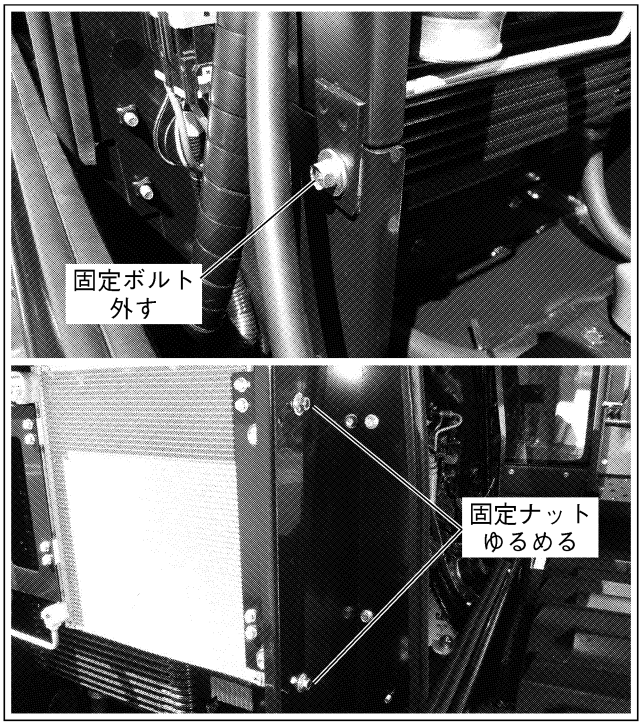
◆ラジエータスクリーン，コンデンサフィンの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶　ボンネットを開きます。

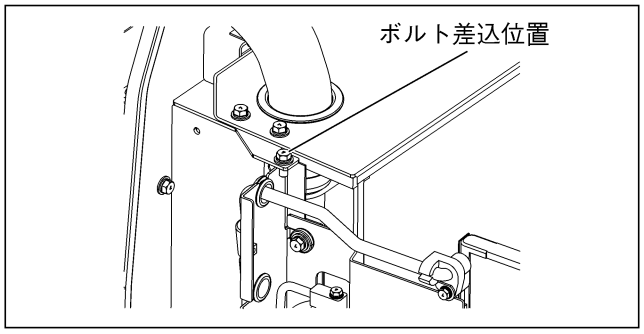
❷　ラジエータスクリーン（上）の左右にある蝶ボルトを外しラジエータスクリーン（上），（下）を外します。

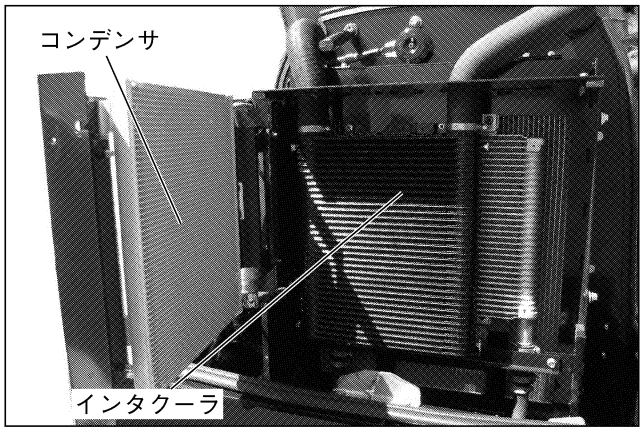


❸　コンデンサフィン固定ボルト１個を外し，２個をゆるめ回動させます。



❹　コンデンサフィンを開いた状態で先程外した固定ボルト１個をラジエータサポートの穴に差しておくとオープン状態で固定できます。





❹　コンデンサフィンの「**ゴミ・ワラ**」等を取除きます。

❺　フィンの目詰まりを点検し，詰まっている場合は，まずフィン前面の手で取れる大きな「**ゴミ・ワラ**」等を取除き，エアをエンジンファン側より吹きつけ「**ホコリ・ゴミ**」等を取除きます。

❻　掃除が終わったらコンデンサフィン，ラジエータスクリーンを元どおり組み付けボンネットを閉じます。

４．インタークーラフィン，オイルクーラの掃除

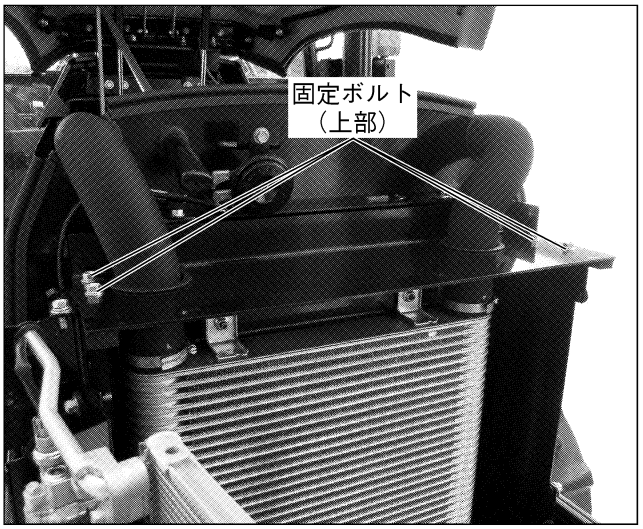
⚠警告　ヤケド防止のために

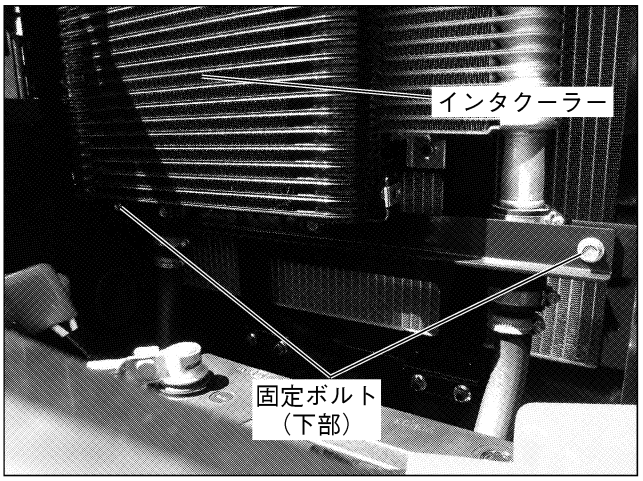
◆ラジエータの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶　ボンネットを開きます。

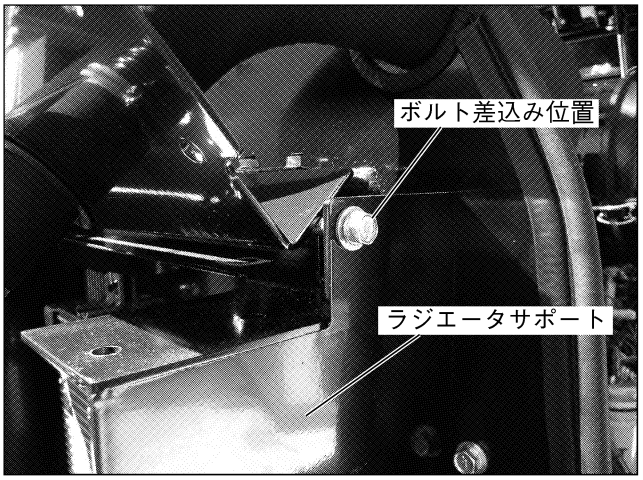
❷　ラジエータスクリーン上・下を抜取り，コンデンサフィンをオープン（開）します。

❸　インタクーラの固定ボルト（上部４個，下部２個）を外し手前（前方）に引き起します。

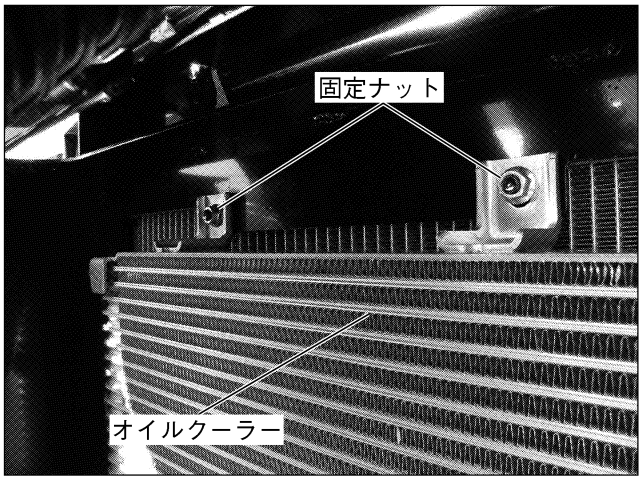




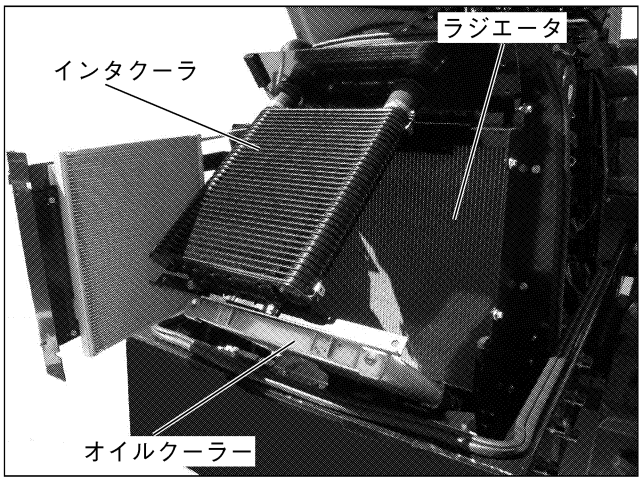
❹　インタクーラを手前に引き起した状態でラジエータサポートの穴に先程外した固定ボルト（１個）を差し込むとオープン状態で固定できます。



❺ オイルクーラ固定ナット（2個）を外し手前（前方）に倒します。



❻ インタクーラ・オイルクーラ・ラジエータのフィンの「**ゴミ・ワラ**」等を取除きます。

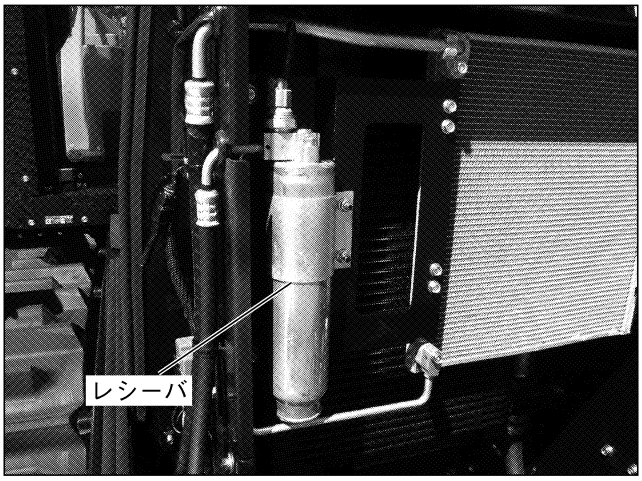


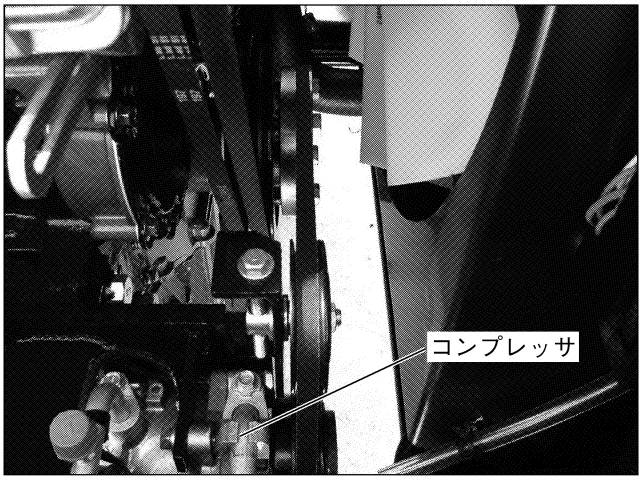
❸ 掃除が終わったら各部を元どおり組み付けボンネットを閉じます。

5．エアコンの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

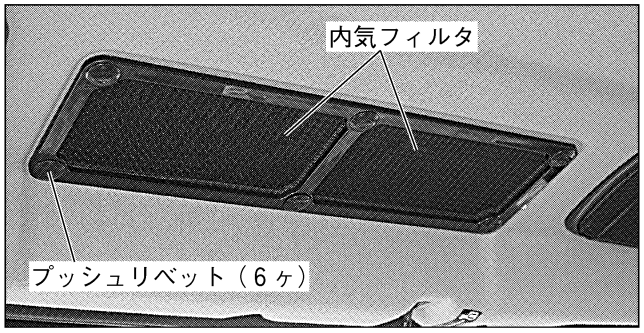
◆コンプレッサ及びレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし，傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。





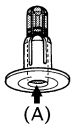
❶ 内気循環口の掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアでフィルタの網目を損傷させない様に汚れを落とします。

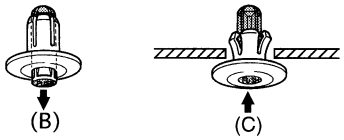


(1) 内気フィルタを取外すには，プッシュリベットの（A）部を少し押してから，抜き取ります。（6個）

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



(2) 取り付け方は，内気フィルタを元の位置に押し付け，プッシュリベットで固定します。固定の仕方は，プッシュリベットの中央（B）部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央（C）部を押し固定します。



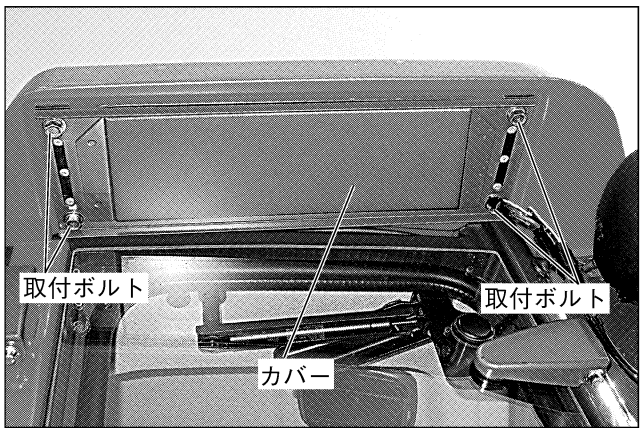
取扱いのポイント

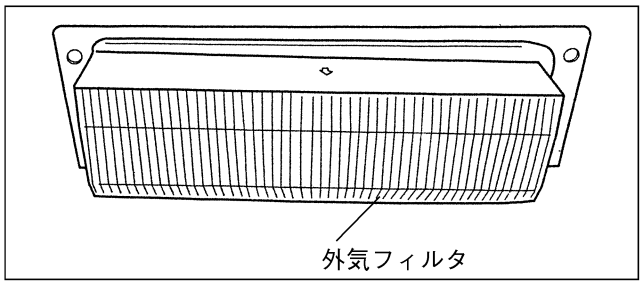
- 汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。

❷ 外気フィルタの掃除

(1) キャビン左側後方の外気取入口の取付ボルト（4個）を外して，カバーを外します。

(2) 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。





取扱いのポイント

- 汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。
- 外気フィルタをたたかないでください。
  外気フィルタが変形するとエアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。

4．各部の点検と調整のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

・各部は出荷の時に正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

1．ファンベルトの点検・調整

❶　点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が「**10～13㎜**」の範囲であれば良好です。

❷　調整

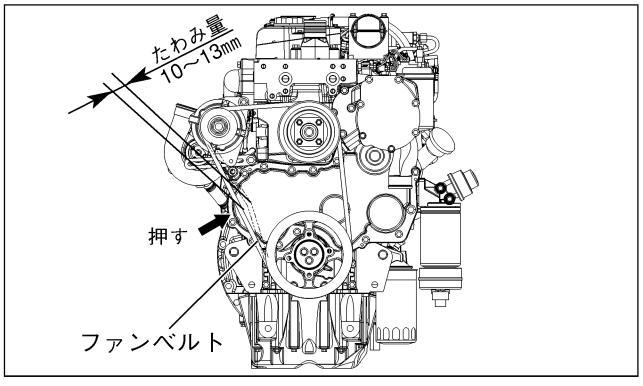
⑴　オルタネータ取付ボルトA，Bをゆるめます。

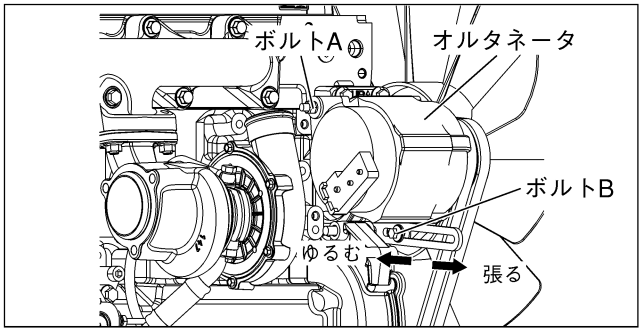
1）オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。

2）オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。

⑵　調整後は取付ボルトA,Bを確実に締付けます。

締付けトルク　22N・m(220kgf・cm)





2．コンプレッサベルトの点検・調整

❶　点検

コンプレッサベルトは，ベルト中央部を押して，タワミ量が「**10～12㎜**」の範囲であれば良好です。

❷　調整

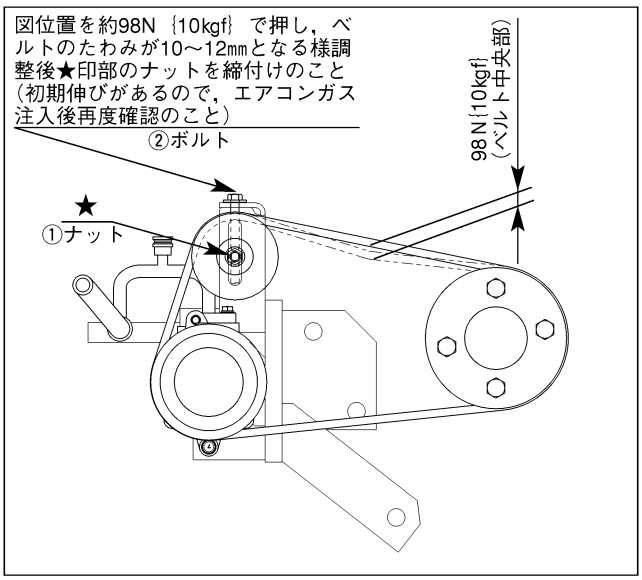
アワメータが50時間経過毎，コンプレッサベルトの張り調整を行います。

⑴　テンションプーリの①ナットをゆるめます。

⑵　テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。

⑶　テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付けトルク　44～54N・m(450～550kgf・cm)



⑷　コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。

取扱いのポイント

- **コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。**
- **ベルトを交換するときは純正部品をご使用ください。**

3．ゴムクローラの点検

⚠警告　死傷事故防止のために

◆ゴムクローラを張りすぎないでください。また緩めすぎないでください。ゴムクローラが転輪から外れたり，断裂して死傷事故につながることがあります。

◆ゴムクローラ張り調整シリンダの内部は高圧になっています。ゴムクローラを緩める際に，給脂バルブを急に緩めると，グリスが噴出したり，給脂バルブが飛んできたりする可能性がありますので１回転以上緩めないでください。

◆ジャッキアップされた機械の下に入らないでください。機械をジャッキアップする場合は，その重量に耐えうる固定脚で機械を支えてください。

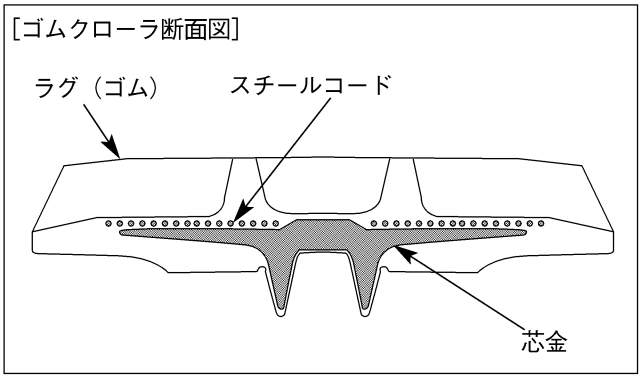
◆ゴムクローラに傷があり，その傷がスチールコード（ケーブル）に達している場合は，牽引力が低下するだけでなく，スリップ事故の原因となりますので使用しないでください。

◆ゴムクローラの交換・修理を行う場合は「お買いあげ先」に相談してください。
お客様ご自身で交換・修理を行うのは，危険を伴いますので，適切な設備のある「お買いあげ先」にご用命ください。

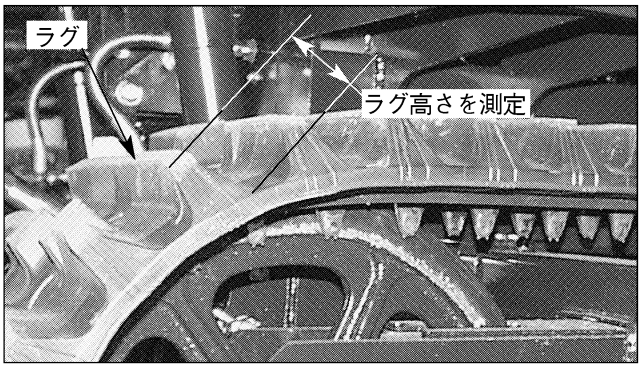
❶　点検

作業条件や環境条件などによって、足回り部品の摩耗が一様とならず，左右クローラの張り状態が変わってきます。左右のクローラの張りが異なると，走行曲がりの生ずる原因にもなります。《随時》張りの点検をし標準の張りを保ちます。

⑴　ゴムクローラにキレツ等損傷がないか点検します。ゴムが剥がれていたり，芯金が露出してぐらぐらしてきた場合，スチールコード（ケーブル）が露出していたり，切れていたりした場合は，ゴムクローラを交換します



⑵　ゴムクローラのラグの高さを点検します。新品時の１／３の高さ以下になっている場合はゴムクローラを交換します。（交換しない場合，スリップ事故，牽引力の低下を招きます。）



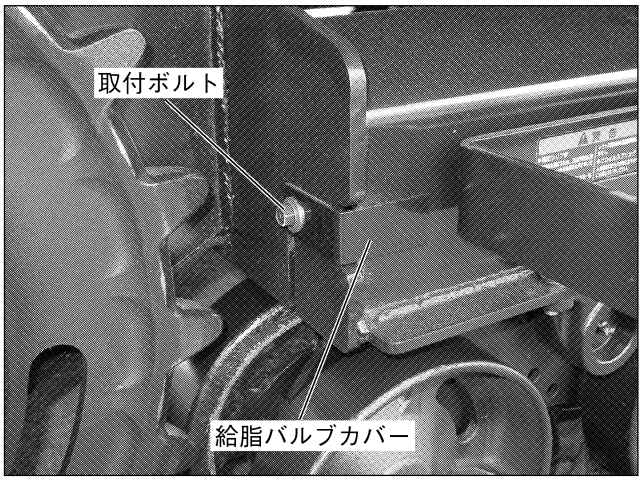
⑶ 次のような損傷はスチールケーブルまで，傷が達していなければ継続して使用できます。

1．接地面側のゴム部分の切損
（走行路面の石や鋭利な物により発生します。）
2．ラグの欠け
（走行時の無理な旋回により発生します。）
3．ラグ根本のひび割れ
（屈曲の繰返しにより発生します。）
4．細かいひび割れ
（直射日光により発生します。）
5．芯金の外側のゴム部分だけの切損
（砂や砕石などのかみ込みにより発生します。）

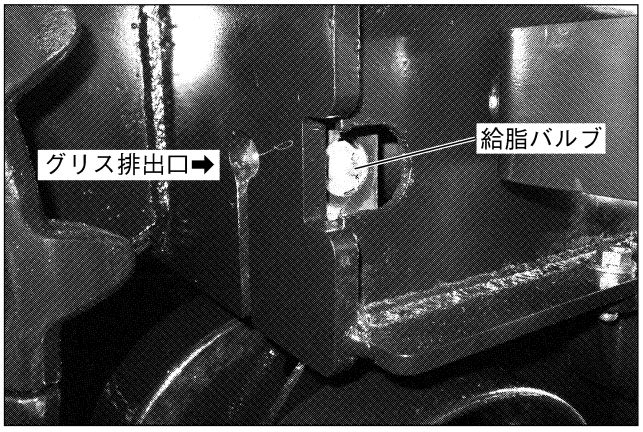
❷ 調整

⑴ ゴムクローラを張る場合

1．給脂バルブ及びその周辺を掃除してください。
2．給脂バルブカバーを外します。



3．トラックの張りが正しく調整されるまで，給脂バルブからグリスガンでグリスを注入してください。



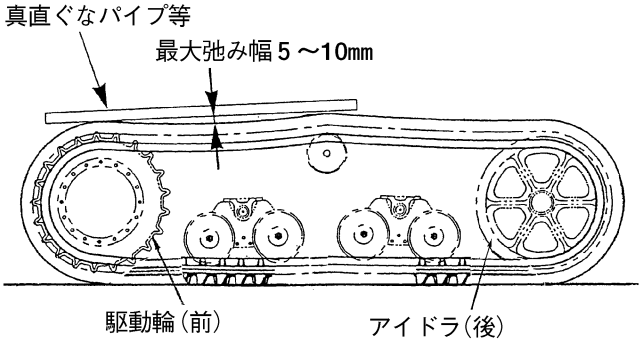
4．左右のトラックの張りがほぼ同じになるように調整してください。
5．張り具合を同じにするため，車両を前後進させて再度張りを確認してください。
6．給脂バルブカバーを取付けます。

⑵ ゴムクローラをゆるめる場合

1．給脂バルブを及びその周辺を掃除してください。
2．給脂バルブカバーを外します。
3．シリンダの給脂バルブを最大１回転ゆっくりとゆるめて，グリスを排出してください。
4．トラックが適正な張りに調整されたら，給脂バルブを締め付けてください。
5．給脂バルブを必要以上に締付けますと，バルブの先端部，及びシート面を破損させることがあります。｛片手でやや強めに締め付ける程度が最良です。＊締め付けトルクを数値にすると**60〜90N･m（600〜900kgf･cm）**です。｝
6．給脂バルブカバーを取付けます。

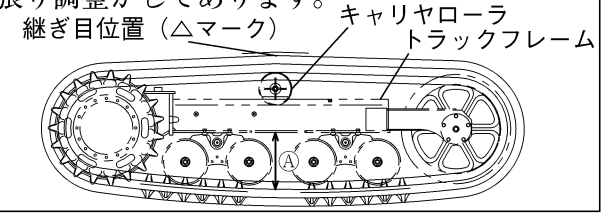
❸ 調整基準

機械を後進させた後に，下図の様に最大弛み幅を測定します。（真直ぐなパイプ等を置くと容易に測定できます。）この弛み量が**5〜10㎜**になるように調整します。



・工場出荷時の調整（参考）

機体を浮かせ（クローラが接地しない状態）クローラの継ぎ目位置（△マーク）がキャリヤローラの上部付近にある状態でキャリヤローラ中心軸上でのトラックフレーム下面とクローラ踏面の距離Ⓐが330〜340㎜となるよう張り調整がしてあります。



4．ハンドル，走行レバーの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

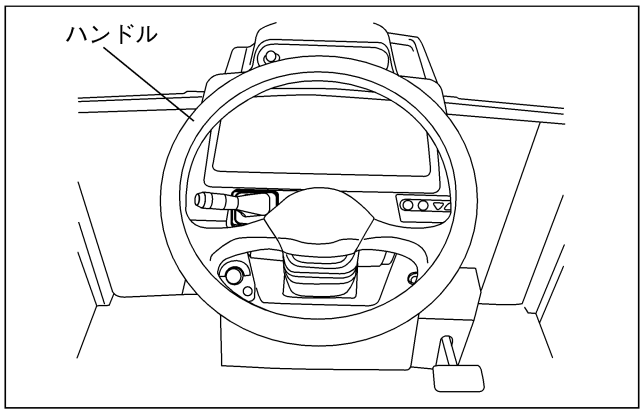
◆ハンドル，走行レバーに著しいガタや遊びがないか点検してください。著しいガタや遊びがあると思わぬ事故になることがあります。

❶ 点検（ハンドル）

・ハンドルの遊び量が適正でないと，ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

・エンジンを始動させ，ハンドルを軽く左右に動かして，少し遊びがあるようであれば適正です。

・遊びが，全くない場合，大きすぎる場合はただちに「**お買いあげ先**」で点検を受けます。

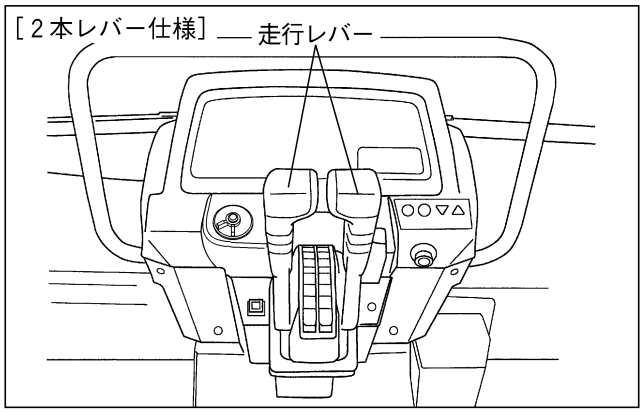


❷ 点検（走行レバー）

・左右の走行レバーの遊び量が適正でないと，操作性が悪くなります。

・エンジンを始動させ，左右の走行レバーを前後に動かし，少し遊びがあるようであれば適正です。

・遊びが，全くない場合，大きすぎる場合はただちに「**お買いあげ先**」で点検を受けます。



5．ホース類の点検

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

◆油圧ホースの継ぎ部のゆるみや，油もれがないか点検してください。油がもれると走行装置が作動しなくなり事故を引起こす原因になります。

❶ 点検

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

❷ 処置

燃料もれ，水もれ，油もれ，締付バンドのゆるみがある場合はただちに「**お買いあげ先**」で点検を受けます。

取扱いのポイント

- **燃料ホース，油圧ホースに著しい劣化損傷がある場合，もれが発生していなくても交換してください。**
- **燃料ホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換した時は，エア抜きをしてください。****（70ページ参照）**

6．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

◆電気配線の点検時には，キーを《 切》にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネスおよびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線まわりのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

◆電気配線を補修するときは「お買いあげ先」にご用命ください。

❶ 電気配線の点検

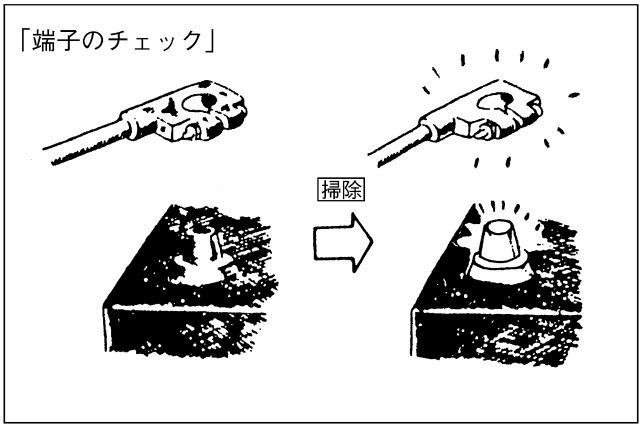
⑴ 配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」等をすることがあります。

⑵ 傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



取扱いのポイント

● エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。
エンジン始動不良の原因となります。

7．ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

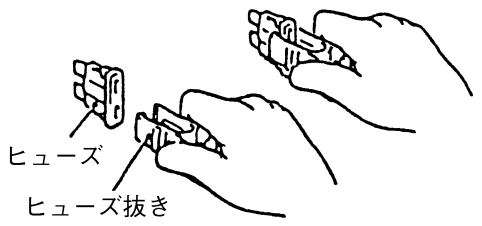
配線の回路に異常を生じた時，事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

運転中，電気系統に異常を確認した時は，ヒューズが切れていないかチェックします。

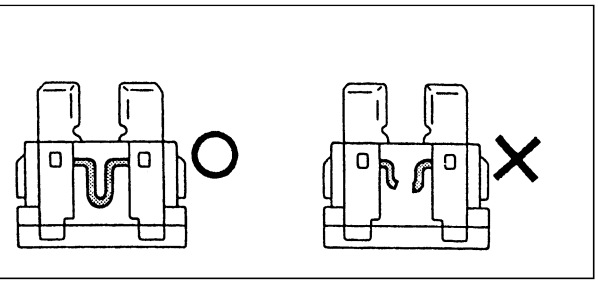
❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

(1) キーを《 STOP 切》にします。

(2) ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。（ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。）



(3) ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

- **交換してもヒューズが切れる時は「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❷ ヒューズ（大電流用）の交換

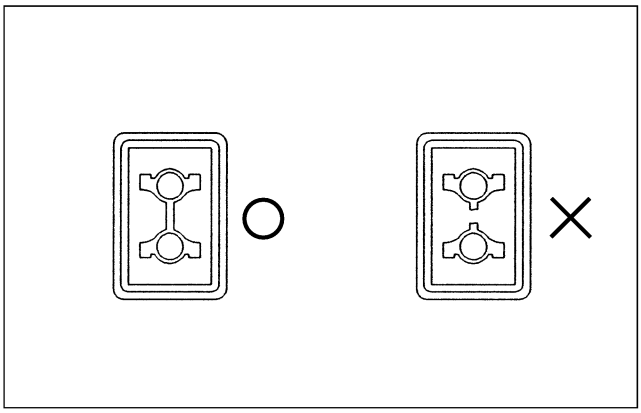
⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

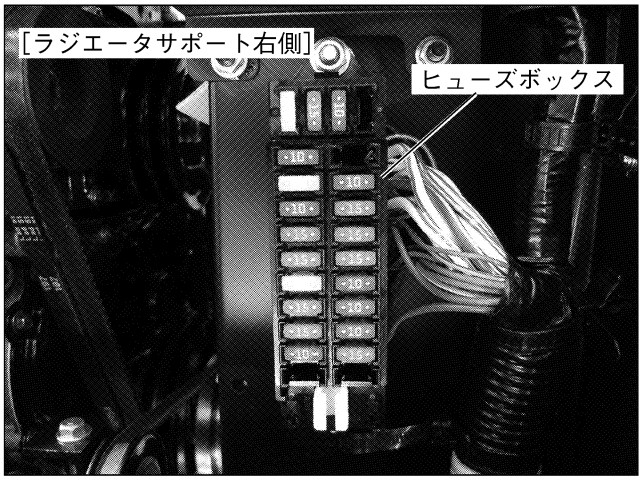
- **大電流用ヒューズが切れた時は，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

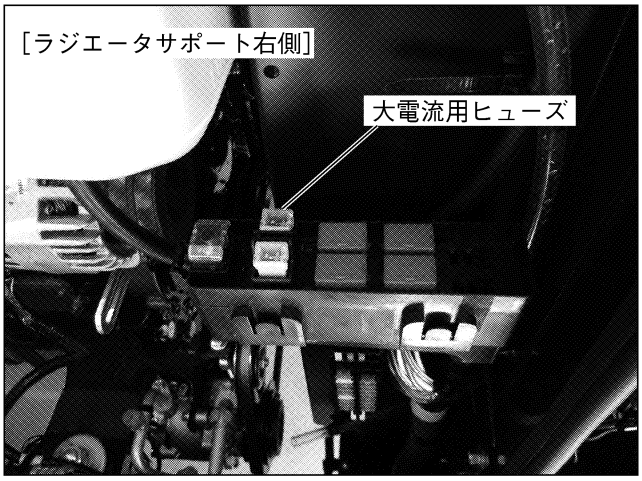
(1) バッテリ（－）端子 2 ヶ所を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



❸ ヒューズの機能





ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。

×：作動不能

	予備 20A	予備 15A	予備 10A	アキ	
⑨	マイコン記憶時計 10A		アキ		
⑩	作業機用電源 20A		エンジン電装 10A		①
⑪	カーステレオ室内灯 10A		前照灯 20A		②
⑫	カーステレオシガライター 15A		ブレーキ・バック灯車幅・尾灯 15A		③
⑬	エアコンファン 15A		コーナー灯 15A		④
⑭	作業灯（前） 20A		フラッシャホーン 10A		⑤
⑮	作業灯（後） 15A		高速・駐車 10A		⑥
⑯	ウォッシャワイパー 15A		マイコンメータ 10A		⑦
⑰	エアコン 10A		3点リンクPTO 15A		⑧
	アキ		アキ		
	ヒューズ抜き 17857787001				

		⑱	⑲
17857786000		メイン電源 80A	エンジン 30A
			グローキャビン 60A
			⑳

影響の出る機能 ＼ ヒューズNo.(A)		エンジン始動	前照灯	コーナーライト	方向指示器	ブレーキ灯	バックライト	尾灯	車幅灯	ホーン	計器類のモニタランプ	マイコン機能	MACビジョン	MACビジョンの時計	高速走行（副変速）	駐車ブレーキ解除	3点リンク リフト	3点リンク リフトロッド	PTO	作業機用電源	室内灯	カーステレオ	カーステレオメモリ・時計	シガーライタ	エアコンのファン	エアコン	前側作業灯	後側作業灯	ワイパ	ウォッシャ
ヒューズボックス	①（10A）	×																		×										
	②（20A）		×																											
	③（15A）		×			×	×	×	×																					
	④（15A）			×																										
	⑤（10A）				×					×																				
	⑥（10A）	×													×	×														
	⑦（10A）										×	×	×				×	×	×											
	⑧（15A）																×	×	×											
	⑨（10A）											×		×																
	⑩（20A）																			×										
	⑪（10A）																				×	×	×							
	⑫（15A）																					×		×						
	⑬（15A）																								×					
	⑭（20A）																										×			
	⑮（15A）																											×		
	⑯（15A）																												×	×
	⑰（10A）																								×	×	×	×		
大電流用	⑱（80A）	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	⑲（30A）	×																												
	⑳（60A）	×																							×		×	×		

8．バッテリの点検と充電

⚠危険 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用する時は取扱説明書の「ブースタケーブルの使いかた…」に従い手順を守って行なってください。

- ブースタケーブルは120Ａ以上の仕様のものを使用する。
- ブースタケーブル接続前にエンジンを停止する。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。

◆バッテリは，充電する時引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆充電する時は機械からバッテリを取外してください。

◆バッテリを「着脱」する時は，エンジンを停止し，キーを抜取ってください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリを充電する時は，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリ液は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。バッテリ液で失明やヤケドをすることがあります。

◆充電の時「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリ液が目，皮ふ，被服物についた時はすぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。

◆バッテリの液量が側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になったままの使用，または充電するとバッテリーの破裂（爆発）の原因になることがあります。

❶点検

⑴ ボンネットを開きます。

⑵ バッテリの残存容量と液量を確認します。

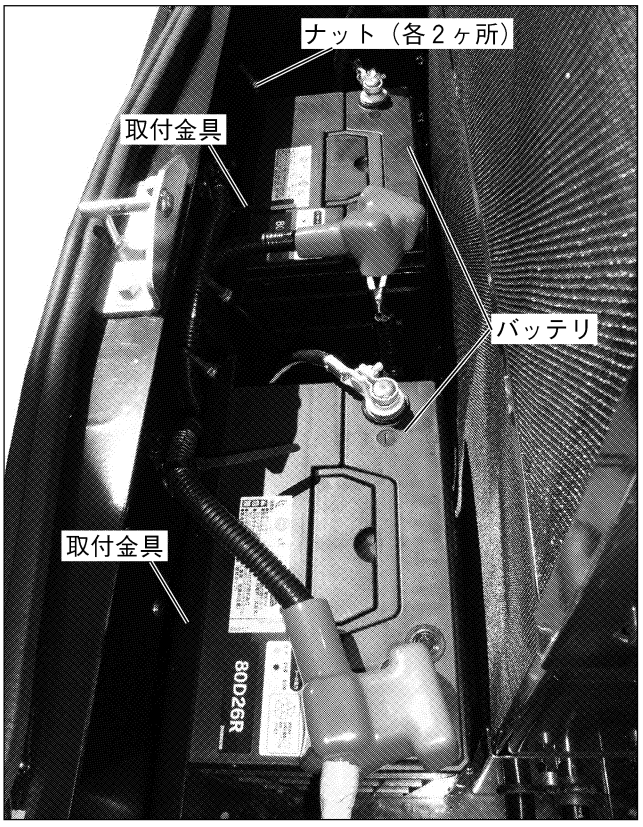
指定バッテリ……80D26R（2個）

❷ バッテリ取付金具の点検

⑴ バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

⑵ 取付金具でしっかり固定します。

⑶ 取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。



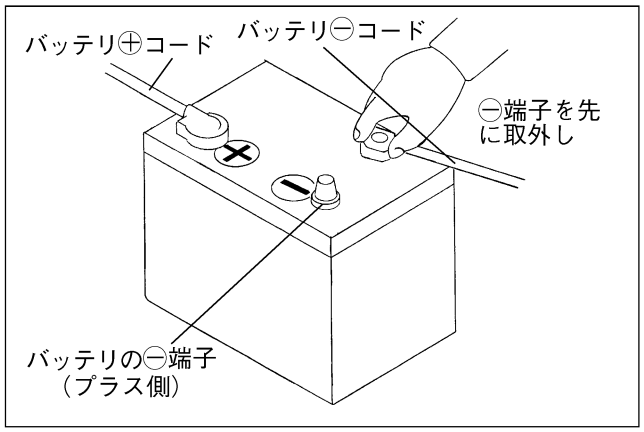
取扱いのポイント

- この機械は12Ｖ仕様車です。
- 機械出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

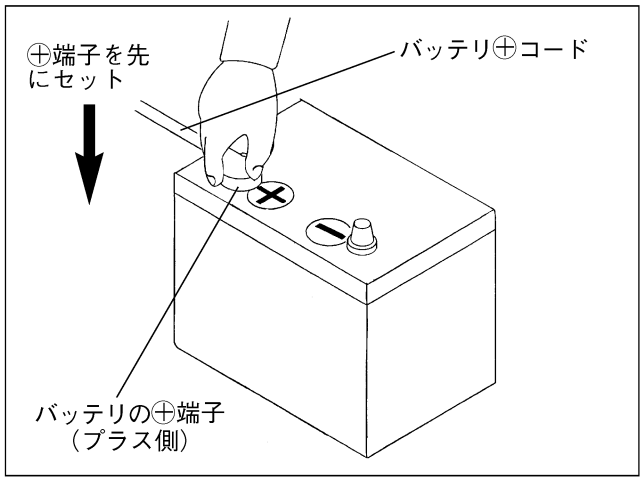
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，「**キー**」を抜取り，すべての制御スイッチを「**切**」(OFF)にします。

(2) バッテリ端子を取外すときは「**アース側㊀端子**」を先に外します。(**2ヶ所**)



(3) バッテリ端子をセットするときは「**プラス側⊕端子**」を先に取付けます。(**2ヶ所**)



4-1 残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発するおそれがあります。

◆この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

(1) バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

(2) 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

(3) バッテリ液の比重が「**1.220 (20℃)**」以下であれば補充電をします。

比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

(4) バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

緑ゾーン……正常

黄ゾーン……やや放電

赤ゾーン……かなり放電

4-2 残存容量の確認（補水不要バッテリ）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆急速充電は厳禁です。
◆開封は厳禁です。

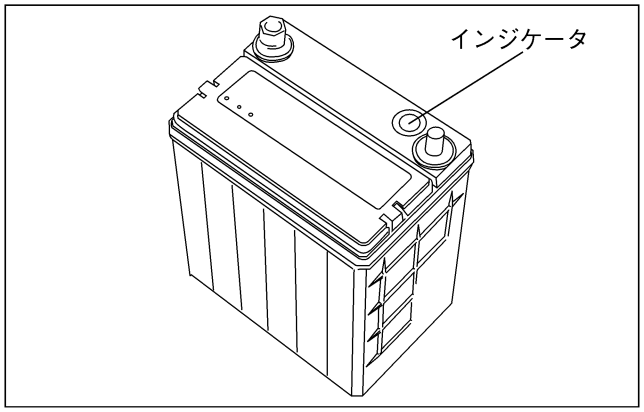
(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは交換してください。

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



●液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

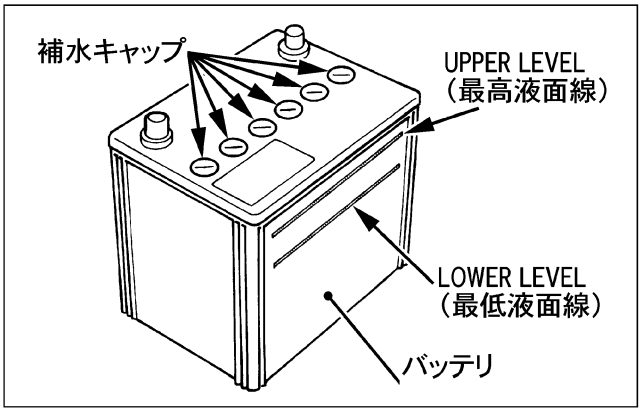
❺ バッテリ液量の確認（補水が必要なバッテリ）

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限《LOWER LEVEL》以下になったまま使用，または充電するとバッテリの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
すぐに《LOWER LEVEL》と《UPPER LEVEL》の間になるまで補水してください。

(1) 使用状態での充電電流によりバッテリ液が電気分解され，しだいに液面が低下します。バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

(2) バッテリ液の量を点検し，「**UPPER LEVEL**」（**最高液面線**）と「**LOWER LEVEL**」（**最低液面線**）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



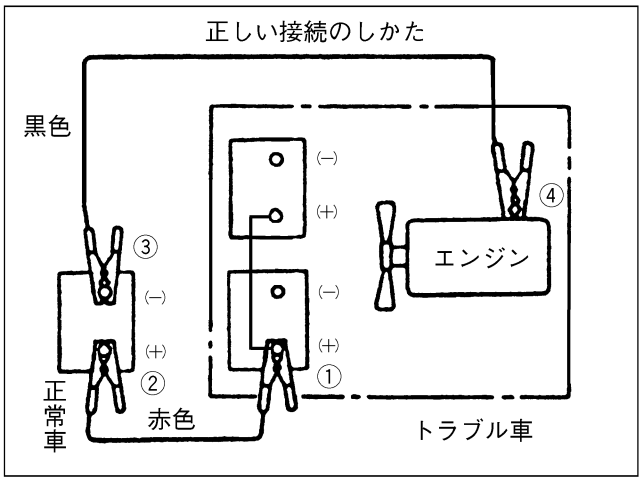
❻ ブースタケーブルの使いかた

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。ブースタケーブルは120A以上の仕様のものを使用します。このときは次の手順を守って行います。

「ブースタケーブルの接続のしかた」

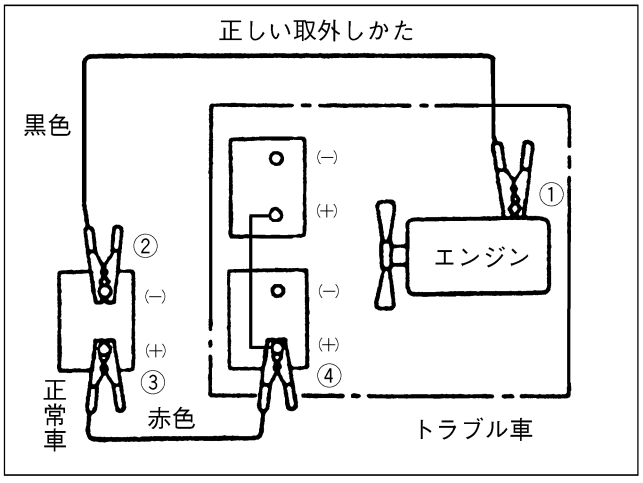
(1) 正常車のエンジンを停止して，図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。



「ブースタケーブルの取外し方」

(1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。

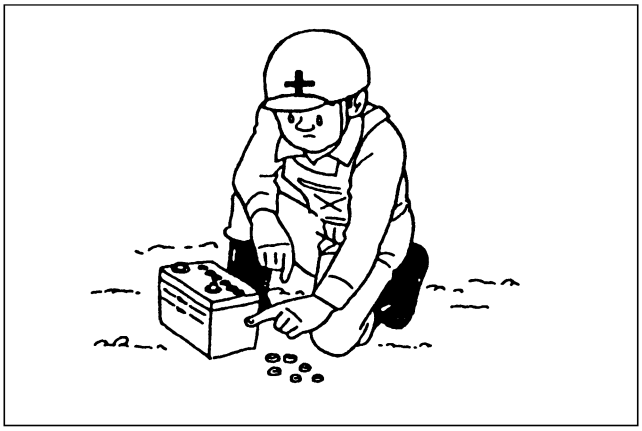


❼ バッテリの充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，**「キー」**を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) 充電するときは**「液口栓」**をすべて取外します。

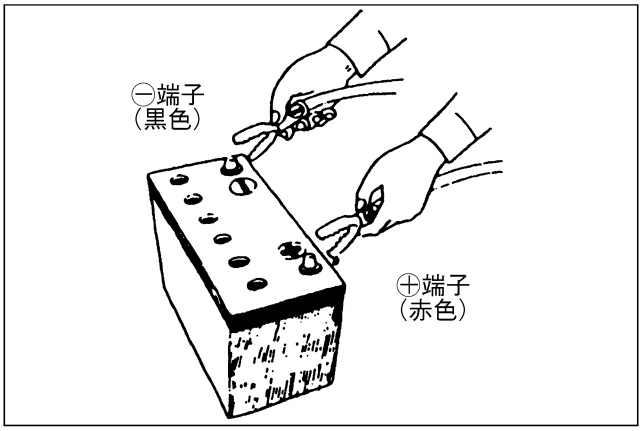


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電し液温が**「45℃」**を超えないようにします。

(5) **「水素ガス」**が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) **「火気」**を近づけたり**「スパーク」**による電気火花が発生しないようにします。

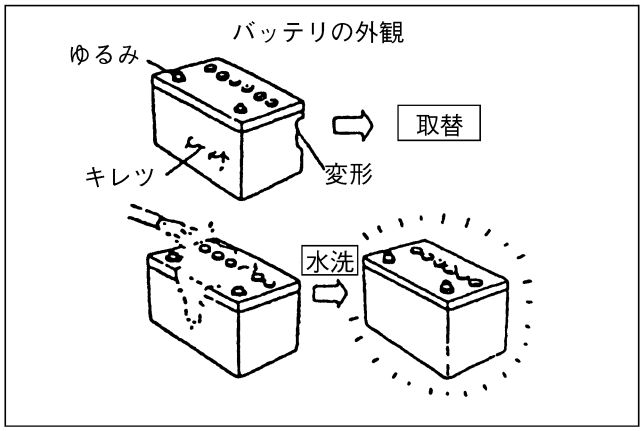
(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



(8) 充電のとき**「バッテリ液」**が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき，バッテリ部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。
- 厳寒時は，機械を格納するときにバッテリを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。



9．冷媒（ガス）

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

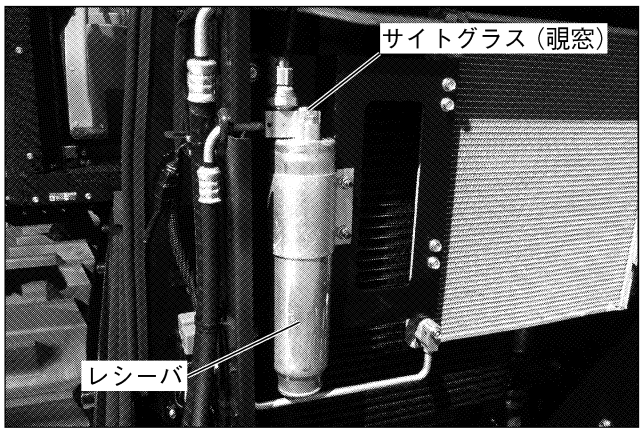
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，「お買いあげ先」で点検及び補充をしてもらいます。

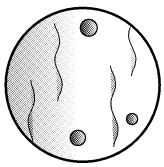
❶ 点検

(1) エアコンを以下の条件で運転します。

- エンジン回転数　　：約1500rpm
- 温度コントロールレバー：最強冷位置（左端）
- ファンスイッチ　　：最強風（ＨＩ）
- エアコンスイッチ　　：ＯＮ

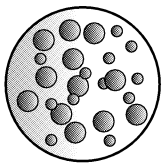
(2) サイトグラスにより，流れている冷媒の状態を確認します。





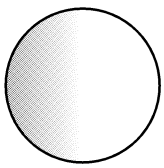
適正

覗窓を覗いて，気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



不足

覗窓を覗いて，気泡が連続的に通過していく場合（気泡が多い）は冷媒不足です。



なし

覗窓を覗いて，クーラガスの流れが見えない場合（気泡も全く無し）は冷媒がない状態です。

長期格納のしかた

1．機械の掃除・洗浄・格納

⚠警告 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

❶ 金属露出部，ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。

❷ 油もれ個所，各部の油量を点検し約５分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。

❸ 不凍液の濃度を調整します。

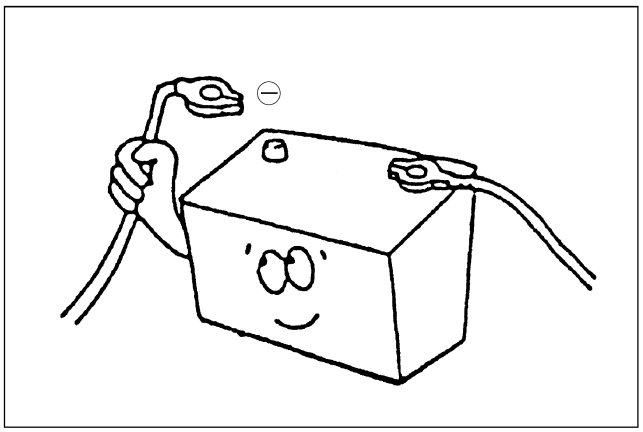
❹ 燃料タンクに軽油を満タンにします。

❺ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

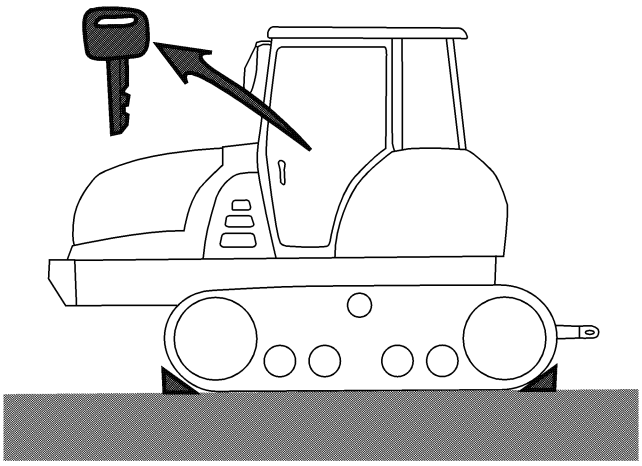
❻ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「**熱い状態**」ではシートカバーをかけないようにします。

❼ ウエイト類を取外します。

❽ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを車体から取外し，風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリのコードのアース側㊀端子を２ヶ所外しておきます。



❾ 保管中，不意にトラクタが動き出すのを防ぐため，クローラに歯止めをし，キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

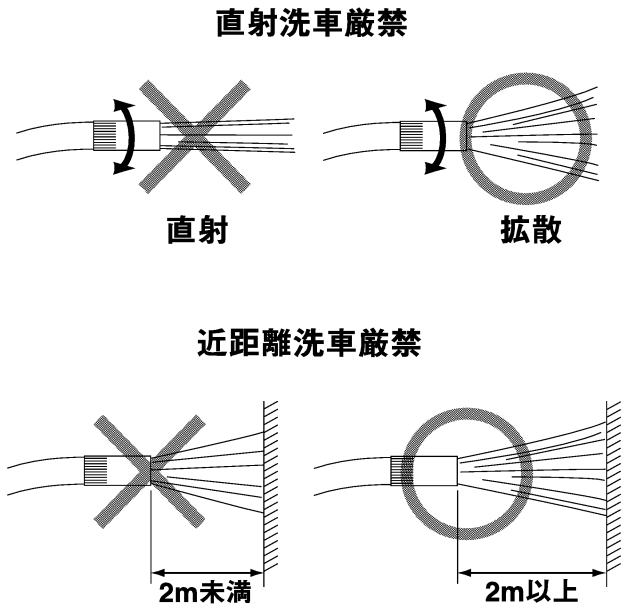
- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **高圧洗車機にて洗浄する場合には，メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。**
- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**
- **洗車時の注意**
  高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械の破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散し，２m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷･断線により,火災を引き起こすことがあります。
2．油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）
（1）シール・ラベルの剥がれ
（2）電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
（3）クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類,化粧カバー等の樹脂部品,ガラス等の破損
（4）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



2．格納中の手入れ

❶ １ケ月に１度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間運転します。

❷ 金属露出部，ネジ部を点検し，防錆処置をします。

❸ 油もれ，水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に保管準備で処置した項目を点検し復元してください。**

3．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ 1.機械の掃除・洗浄・格納 で処置した項目を点検し，復元します。

❷ 運転前の点検を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりを点検・整備するときは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．エンジン部

1．始動しない，または始動困難

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶キーを回しても，スタータが回らない	○PTO切替スイッチ《切》，主変速レバー（走行レバー）N位置になっていない。	・各スイッチ，レバーを適切な位置にします。	ー
	○緊急停止ブレーキペダルを踏んでいない。		
	○バッテリの放電	・バッテリを充電又は交換します	93～97
	○バッテリ端子の外れ，ゆるみ，腐食	・端子部を掃除して確実に締付け，グリスを塗布し防錆しておく	ー
	○ヒューズ①,⑥,⑱,⑲の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	91～92
❷スタータは回るが，エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する	68
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの交換をする	69～71
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	69～71
	○ヒューズ⑳の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	91～92

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶エンジン回転が不規則	○燃料系統にエア混入 ○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり ○パイプ系の燃料もれ ○インジェクタの水・ゴミ詰まり	・エア抜きを行う ・フィルタの交換をする ・クランプの締付け,パイプ交換をする ・サービス工場で修理する	69 69〜71 —
❷運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足 ○インジェクタ不良 ○オイル不足によるエンジン焼付き	・燃料補給とエア抜きを行う ・サービス工場に依頼し交換をする ・サービス工場に依頼する	68〜69 — —
❸エンジンが過熱する ラジエータを点検してください 表示又は，水温計がH付近を示す	○ラジエータの目詰まり ○冷却水の不足 ○ファンベルトのゆるみ，破損 ○エンジンオイル量が少ない	・ラジエータフィンを掃除する ・冷却水を補給する ・ベルトの張り調整または交換をする ・規定量まで補給する	82〜83 72〜73 86 67
❹エンジンの排気色が白い（除く始動直後）	○エンジンオイル量が多すぎる	・点検し適正量にする	67
❺エンジンの排気色が黒すぎる	○エアクリーナエレメントの目詰まり ○燃料が悪い ○プレクリーナのゴミ溜まり	・エレメントの掃除をする ・正規の燃料に入替える ・プレクリーナの掃除をする	81 68 82
❻エンジンの出力不良	○エアクリーナエレメントの目詰まり ○燃料不足，燃料フィルタの詰まり ○プレクリーナのゴミ溜まり	・エレメントを掃除する ・燃料系統をチェックする ・プレクリーナの掃除をする	81 69〜71 82
❼運転中オイルランプが点灯する	○エンジンオイル量が少ない ○エンジンオイルの粘度が低い ○エンジンオイルフィルタの目詰まり	・規定量まで補給する ・適正粘度のオイル交換する ・オイルフィルタを交換する	67 67 68
❽運転中にチャージランプが点灯する。又は バッテリを点検してください 表示	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	86
❾ 出力を下げてください や エンジンの点検が必要です 又は エンジンに異常がありますメーカーに連絡してください が単独で表示されている時		・いったんエンジンを止め，再始動を行なってください ・エンジンが再始動できない場合やMACビジョンの注意報知が消えない場合，サービス工場で修理する ・MACビジョンの注意報知が表示している時，エンジンの故障個所により下記現象が現れます。 ※エンジンが突然止まった ※エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる ※エンジンの出力が充分でない ※エンジンの出力は充分であるが，警告灯が点灯する ※エンジン回転がアイドリングから上がらない	—

2．走行・運転操作部

1．走らない，ブレーキがきかない

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶スムーズに走行しない	○クローラの張り過ぎ，ゆるみ過ぎ ○石，土砂などの噛込み	・クローラの張りを調整する ・クローラ，走行輪の清掃	87〜88 —
❷直進しない	○ハンドル（走行レバー）の中立位置がズレている ○油圧装置故障	・サービス工場で，調整，修理します	— —
❸主変速レバー（走行レバー）を操作しても走行しないスピードがでない	○駐車ブレーキがかかっている ○エンジン回転が低過ぎる ○油圧装置故障	・駐車ブレーキスイッチを「切」にする ・エンジンコントロールレバーで徐々にエンジン回転を上げる ・サービス工場で修理します	— — —
❹主変速レバー（走行レバー）を中立にしても停止しない	○主変速レバー（走行レバー）中立位置がズレている ○油圧装置故障	・サービス工場で点検します ・サービス工場で点検します	— —
❺緊急停止ブレーキペダルを踏んでも停止しない	○ペダルの調整不良	・サービス工場で調整します	—
❻ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷 ○各摺動部のグリス切れ	・サービス工場で点検します ・グリスアップをする	— —

3．油圧部

1．油圧関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶油圧回路の異常音	○油量不足	・油を規定量まで補給する	75～76
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	―
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換をする	77
	（トランスミッションオイルフィルタ，HSTオイルフィルタ，油圧作動油フィルタ）	・パイプのつぶれ等は修理する	―
❷リフトアームが上がらない	○油量不足	・油を規定量まで補給する	75～76
	○油圧作動油フィルタの詰まり	・交換する	―
	○ギヤポンプの故障	・サービス工場で修理する	―
	○コントロールバルブの故障	・サービス工場で修理する	―
❸配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	・増締めを行う	―
	○パイプの亀裂	・サービス工場で交換する	―
❹リフトアームが下がらない	○リフトアーム下げ速度ボリュームが《**固定** 🔒 》位置になっている	・《🐇》の方向に操作する	―
	○コントロールバルブの故障	・サービス工場で修理する	―

4．電気・自動制御部

1．電気関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶電装品各部が作動しない	○ヒューズの溶断	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	91～92
❷ランプ，インジケータが点灯，点滅しない	○電球（バルブ）切れ	・各電球を交換する	108

2．自動制御関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶マイコンが作動しない	○ヒューズ⑦，⑧の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	91～92
❷ポジションコントロールが作動しない	○リフトアーム下げ速度ボリュームが《固定  》位置になっている ○ヒューズ⑧の溶断	・《  》方向に操作する ・配線をチェックし各ヒューズを交換する	91～92
❸深さ自動が作動しない	○耕深カプラが外れている ○深さ自動スイッチが《切》になっている	・接続し，深さ自動スイッチを押す ・深さ自動スイッチを押す	32 31

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

5．キャビン部

1．キャビン関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶各スイッチが作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	91〜92
❷ウォッシャ液が出ない。	○ウォッシャ液不足	・補給する	80〜81
❸室内灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	―
❹作業灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	―
❺冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている	・《ON》にする	60
❻風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	84〜85

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

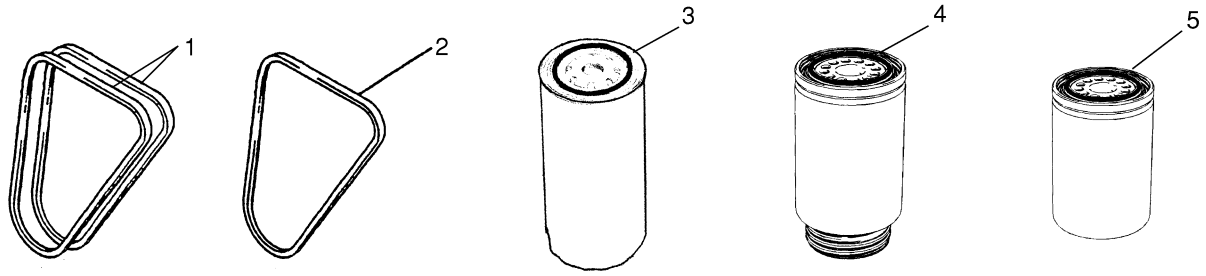
付　　表

1．主要諸元

名称			GCR1350	
型式名			三菱GCR1350	
区分			－	V
車両型式名			三菱　EDR－GK13A	
駆動方式			ゴムクローラ	
機体寸法	全長（ロワリンク先端）(mm)		4260	
	全幅(mm)		2100	
	全高(mm)		2640	
	最低地上高(mm)		425	
機体質量（重量）(kg)			5300	
エンジン	型式名		CAT　C4.4　ACERT	
	種類		水冷４サイクル４気筒ディーゼル	
	総排気量（L）		4.398	
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		92.8 {126} ／2200	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(L)		180	
	バッテリ(V・Ah)		80D26R×2　12V・55Ah×２（12V仕様車）	
走行部	クローラ中心間距離（mm）		1550	
	クローラ巾×接地長（mm）		550×2390	
	接地圧（kPa{kgf/cm²}）		19.8 {0.20}	
	走向方式		丸ハンドル	２本レバー
	変速方式		ＨＳＴ（２ポンプ２モータ）	
	変速段数		無段階（高低２段切替スイッチ）	
	走行速度(km/h)	高速	0～17.5	
		低速	0～10.1	
	最小旋回半径（m）		2.5	
PTO	回転速度（rpm）		559，793，1040（2000rpm時）	
	作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール・ドラフトコントロール（オプション）	
		装着方式	３点リンクJISⅡ型	
	軸径（mm）		JIS 35	

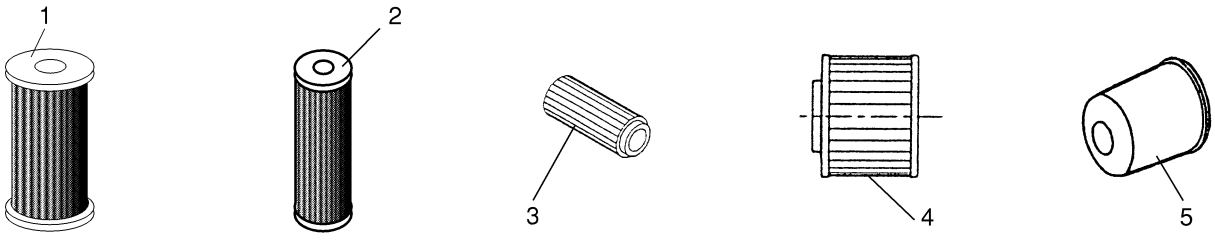
2. 主な消耗部品

1. エンジン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	1785 1285 250	ファンベルト（2本セット）	1		
2	1785 0817 000	Vベルト	1		コンプレッサベルト
3	1785 7W23 260	エンジンオイルフィルタ	1		
4	1785 3087 298	プライマリ燃料フィルタ	1		
5	1785 2998 229	セコンダリ燃料フィルタ	1		
6					

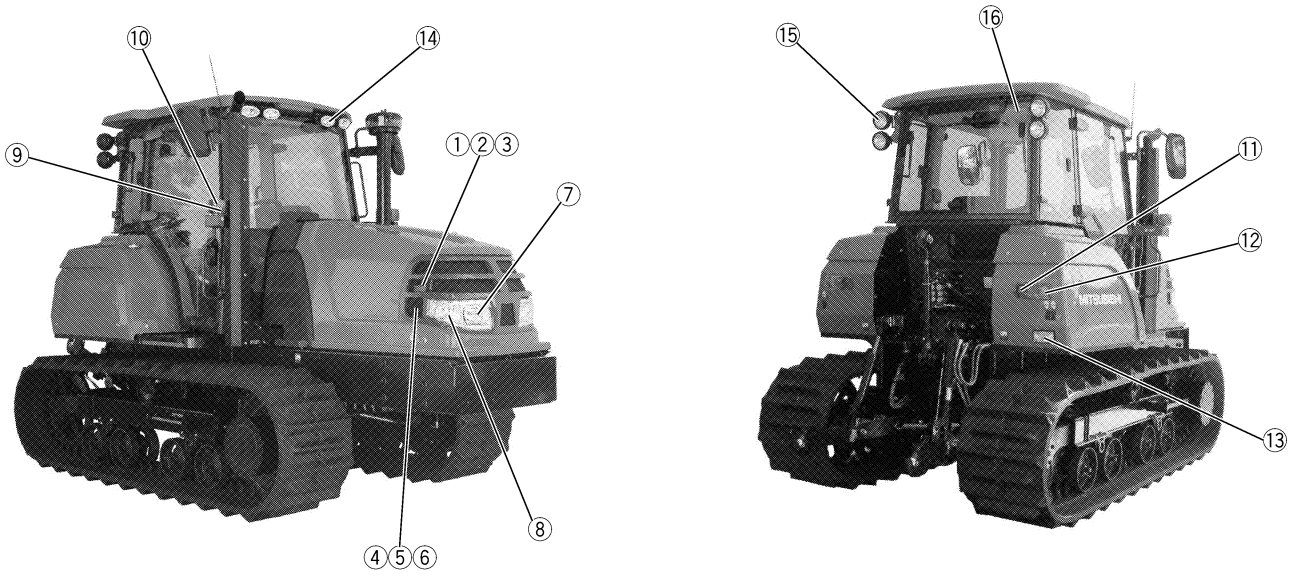
2. エアクリーナ・油圧ライン関係

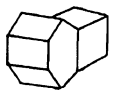
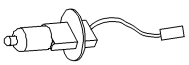


見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	1785 2051 200	エレメント（外）	1		エアクリーナ
2	1785 0412 700	エレメント（内）	1		エアクリーナ
3	3559 1856 100	エレメント	1		HSTオイルフィルタ
4	1784 5715 100	ストレーナ	1		油圧作動油フィルタ
5	1038 2585 000	フィルタ	1		トランスミッションオイルフィルタ

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



No.	部品番号	部品名称	定格	備考	形状
1	1785 6104 400	ヒューズ（大容量）	30A		
2	1785 6104 300	ヒューズ（大容量）	60A		
3	1782 7425 200	ヒューズ（大容量）	80A		
4	0980 1001 006	ヒューズ	10A		
5	0980 1001 506	ヒューズ	15A		
6	0980 1002 006	ヒューズ	20A		
7	1040 5511 500	バルブ（前照灯）	12V 55／60W	ハロゲン(H4)	
8	1039 2813 200	バルブ（コーナーライト）	12V 18W		
9	1786 6012 200	バルブ（車幅灯）	12V 5 W		
10	0980 8122 104	バルブ（方向指示灯・前）	12V 21W		
11	1956 6731 200	バルブ（制動灯・後／尾灯・後）	12V 21／5 W		
12	0980 8122 104	バルブ（方向指示灯・後）	12V 21W		
13	3592 9159 200	バルブ（後退灯）	12V 27W		
14	1048 7432 200	バルブ（作業灯・前）	12V 55W	ハロゲン(H3)	
15	3565 0904 100	バルブ（作業灯・後）	12V 35W		
16	0980 8120 508	バルブ（室内灯）	12V 5 W		

次の部品は消耗品です。
ゴム製品・布製品・ビニール製品・ガスケット，パッキン類・エレメント，フィルタ・電球，ガラス製品
ノズル，グロープラグ・油脂類・各種ワイヤー・バッテリ，ヒューズ・その他これに類する消耗品

3．アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますのでご利用ください。

	コードNo.	名　　称	型　　式	備　　考
1		ドローバ	DH－K120G	
2		バンパウェイト（30kg）	BW－30MT	１ヶ30kg
3		レーザーキット	LBK－120RKKT	後方レーザー120基本キット
4		〃	LBK－75RSKT	後方レーザースタンダードキット
5		〃	LBK－75RDKT	後方レーザーデラックスキット
6		ドラフトキット	GCR1350DKIT	
7		カプラキットC	CPL－C	サイズ　G３／８－２ヶ
8		〃　　D	CPL－D	〃　　G１／２－２ヶ
9				
10		バンパウェイト（45kg）	部品扱い	部品番号　9966　0014　360（４ヶセット）
11		ボルト	〃	〃　　9966　0027　410（４ヶ用）
12		〃	〃	〃　　9966　0011　010（８ヶ用）
13		〃	〃	〃　　K367　1097　180（12ヶ用）
14		ワッシャ	〃	〃　　9966　0027　420
15		ナット	〃	〃　　9966　0001　620
16		Ｓワッシャ	〃	〃　　9966　0002　340
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				

4．潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイルについて

メ　ー　カ	商　品　名
キャタピラー純正油	CatマルチグレードDEO（SAE・10W－30）
ジャパンエナジー	デルスターHX（SAE・10W－30）
シ　ェ　ル　石　油	リムラX（SAE・10W－30）
エクソンモービル	デルパックMX（SAE・10W－30）

取扱いのポイント

- やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CH－4級及びCI－4級オイルをお使いください。

2.　トランスミッションについて

APIサービス分類　GL－4級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘柄（メーカ)	オ　イ　ル　商　品　名
三菱農機純正油	スーパーマルチGBオイル　（SAE・80W）
〃	スーパーマルチSTOUオイル　（SAE・10W－30）
新　日　本　石　油	ダイヤモンドファームギヤオイルB　（SAE・80W）
	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル　（SAE・10W－30）
	アントイルB　（SAE・80W）
全　　農	クミアイトラクタオイル　（SAE・80W）
昭和シェル石油	ギヤオイルHTS－56スーパー　（SAE・80W）

※商品名は変更することがあります。

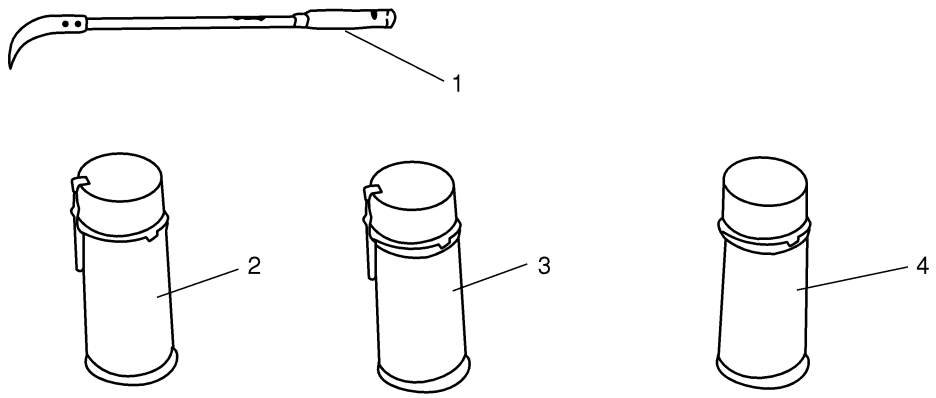
3．油圧作動油について

- 油圧作動油は，ISO規格　VG46相当品をお使いください。

5．トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	カラースプレー（赤） 〃　（黒）	0975　0000　270 0975　0000　470	補修用塗料



1050305

・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成21年度
農業・食品産業技術
総合研究機構



型式名：三菱 CF121

合格番号：209057

種　　類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

三菱 GCR1350　　三菱 GCR120

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名		：	三菱 GCR1350
■ 種類		：	ゴム装軌式
■ 質量（キャブ付き）	kg	：	5295
■ 接地長	mm	：	2390
■ 機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	92.8{126}/2200

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してシャシーフレームにボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	103.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	145.0 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	94.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	101.5 cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	76.5 cm
	（中部）	：	84.5 cm
	（下部）	：	37.5 cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	134.5 cm
■ 最低位ステップの高さ		：	53.5 cm
■ キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	264.0 cm
■ キャブの全幅		：	137.0 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	43.0 cm

※1．三菱 GCR1350に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： GRAMMER, DS85H/90
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■ 主 フ レ ー ム ： STK 400, STKR 400, STKM 11 A, SS 400, SPHC, SPCC
■ 装着ブラケット ： SS 400
■ 組立・装着ボルト ： S 45 C, SCM 435

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの側部左側に対して実施。

■ 基 準 質 量 ： 5150 kg
■ 所要吸収エネルギー 側部負荷 5.67 kJ {578 kgf･m}
■ 圧 壊 力 ： 103.00 kN {10503 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■ 後 部（前方へ） ： 右側 -1.0 cm 左側 1.0 cm
■ 前 部（後方へ） ： 右側 1.0 cm 左側 -1.5 cm
■ 側 部（右側方へ） ： 前側 14.0 cm 後部 11.5 cm
■ 上 部（下 方 へ） ： 前部 右側 1.0 cm 左側 1.5 cm
： 後部 右側 1.0 cm 左側 1.0 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 8.5 cm

2．騒 音 ※

■ 82.0 dB(A) ［三菱 GCR1350］

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付 記

本キャブは，既合格機（合格番号 204055）であり，装着トラクター１型式（三菱 GCR1350）の追加にともなって受検したものである。強度試験については，元の型式検査の試験成績を転用した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

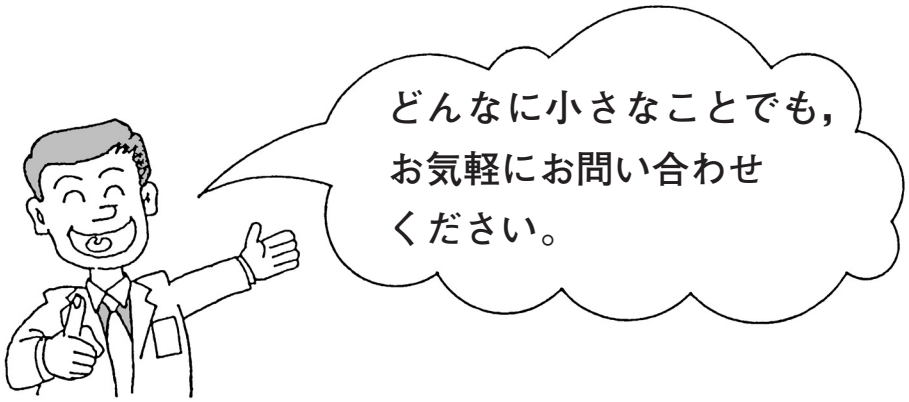
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)